



令和7年度 阿見町の 教育

町民体育館大規模改修工事

中央公民館大規模改修工事

目次

- I 阿見町の概要 …06
- II 学校教育 …16
- III 指導室 …20
- IV 学校給食 …51
- V 生涯学習 …56
- VI 教育関係委員 …81

表 紙

【中央公民館大規模改修工事】

令和 6 年 6 月から令和 7 年 3 月にかけて、中央公民館の大規模改修工事を行いました。
この工事では、利用者の安全の確保と講座や貸館事業等のさらなる充実を図るため、非常用自家発電装置の設置等の防災設備の整備の他、調理室やエレベーター、各部屋の床の更新等を行いました。

【町民体育館大規模改修工事】

令和 6 年 6 月から令和 7 年 3 月にかけて、町民体育館の大規模改修工事を行いました。
この工事では、外装、内装（アリーナ等）の改修の他、冷暖房設備の設置を行い、より快適な環境下での活動ができるようになりました。



キャッチコピー

「現在（いま）をみる、未来をつくる」

令和4年度に策定された県の「いばらき教育プラン」も今年度が最終年度となります。そのような中、令和7年4月1日現在、小学生2,552名、中学生1,157名、計3,709名（前年比-58名）の児童生徒数、小学校7校、中学校3校、計10校の学校が、それぞれに学校教育目標を設定し力強くスタートしました。

第2次阿見町教育振興基本計画、第2次阿見町生涯学習推進計画が策定され、3年目となります。教育振興基本計画では、「学びあい 支えあい 心を育む人づくり」を基本理念に掲げ、「学びあい」「支えあい」の実践を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、「主体的・対話的な学び」の実現を目指すとともに、多様な子どもの心に寄り添う「心を育む人づくり」により「阿見町らしい教育」の実現を目指してまいります。また、生涯学習推進計画では、「一人いち学習・いちスポーツ・いちボランティア～ともに学び ともに築く 輝きのあるまち～」を基本理念に掲げ、「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる「いきいき学びの町」の実践と「伝え合う」「支え合う」「高め合う」の3つの視点にたって生涯学習を推進してまいります。さらに、本年度は次の3つを重点に掲げ実践してまいります。

1点目は、学力向上です。各学校では阿見町の授業スタンダードを基に、それぞれの学校の実態に合わせて授業スタイルを構築し、日々の授業実践が行われています。また、タブレット端末や電子黒板を効果的に活用して、個別最適な学びと協働的な学びの往還による、主体的・対話的な深い学びへの授業が展開されています。また、ALTや専科教員を効果的に活用するなど英語教育の充実にも努めているところです。その成果が、県の学力診断のためのテストや全国学力学習状況調査、各中学校の進路実績にも見られました。

2点目は不登校対応です。不登校は全国的に増えています。年間100日以上欠席した児童生徒数は、令和4年度80名、令和5年度71名、令和6年度95名でした。今後も学校復帰や不登校を出さない取組、不登校児童生徒や家庭への支援に努めてまいります。教育相談センターやスクールカウンセラー、3中学に加え、阿見小とあさひ小に開設した校内フリースクールの不登校対策指導員等、支援体制及び相談体制も整っておりますので是非ご相談ください。

3点目は、働き方改革です。民間のアンケートでは、働き方改革は進んでいるが、教職員には改善されたという実感が薄いという結果が出ています。その1つが部活動の地域移行が進んでいないことが挙げられています。当町では、コンサルティング会社との契約により、阿見町独自の地域移行を推進し、令和6年度には弓道部、女子バレーボール部、陸上部が休日部活動の移行を実現しました。また、各学校でも、教育課程の実施状況を踏まえて、繁忙期に短縮日課を実施するなど、更に働き方改革を進めてまいります。

中央公民館の大規模改修工事も終わり、各館において、講座や貸館業務のさらなる充実を図ってまいります。生涯学習については、文化活動やスポーツ活動の支援を充実させ、住民の皆様が便利で安心して活用・活動していただくために、努めてまいります。

町民体育館には、大規模改修工事により冷暖房装置が設置され、さらに快適な環境の下で活動ができるようになりました。今年度は、かすみ公民館において大規模改修工事が行われます。今後も快適な環境整備に向けて、計画を進めてまいります。

基本理念

学びあい

支えあい

心を育む人づくり

施策の基本方向

◆1 確かな学びを育む◆

幼児教育から学校教育の連携・接続を強化するとともに、小・中学校が連携した教育の推進により、子どもの発達や学びの連続性を保障し、子どもたちが将来に夢と希望をもち、その実現に向かって着実に進んでいけるよう資質・能力の育成に努めます。

阿見町で学ぶすべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指すとともに、子どもたちの基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用する力を育成し、学習意欲の向上や言語活動の充実が図られるよう、確かな学力の定着を目指します。

そのためには、教師が自らの授業を磨き、人間性や創造性を高めることにより、子どもたちに対して効果的な教育ができるよう、教師の資質の向上を目指します。また、地域人材を活用したサポート体制の充実に努めるなど、教員に対する多様な学習支援を展開します。さらに、教師の勤務体制の改善や子どもたちの指導にあたる時間の確保を図るため、学校の働き方改革に積極的に取り組みます。

◆2 豊かな心と健やかな体を育む◆

一人一人の子どもたちの豊かな心と命を大切にすることを育むため、道徳教育の充実を図るとともに、町の地域性を生かした郷土教育や文化・芸術活動の推進、予科練平和記念館等を活用した平和・命の教育を進めます。また、社会性や豊かな人間性を育むための体験活動やボランティア活動の推進に努めます。

健やかな体を育成するため、体力づくりと学校給食の充実に力を入れていきます。具体的には、学校体育の充実による体力づくりを目指すとともに、地域と連携してスポーツを楽しむ機会の創出に努めます。また、学校保健・健康教育による健康の増進、大学や企業、農業生産者、関係機関等と連携した食育の推進や安全な学校給食を提供します。

生徒指導については、個々の学校に適した指導体制を確立し、子どもたちの置かれている様々な状況にきめ細かく対応できるよう取組の強化に努めます。また、相談体制については、スクールカウンセラーの効果的な活用や日常的な相談の充実に努めます。さらに、いじめや不登校、問題行動等に対しては、未然防止・早期発見に努めるとともに、中学校における不登校支援教室の取組など、町独自の安心して教育を受けることができるセーフティネットの充実に努めます。

特別支援教育については、支援を必要とする児童生徒が個々の教育的ニーズに応じた教育が受けられるよう、指導の工夫や充実に努めるとともに、就学から卒業までの切れ目ない支援を継続します。

◆3 時代の変化に対応する能力を育む◆

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、社会全体で ICT 化が進展し、教育分野においても ICT 環境の整備が進められました。今後も情報活用能力を育てる教育や情報モラル教育など、時代の変化に対応する能力を育む教育を推進します。また、教師の ICT に関する指導力の向上や、教科における ICT の活用、インターネットを活用した学力向上支援システム・コミュニケーションシステムの導入、ICT 環境の整備充実など、教育のデジタル化を積極的に推進します。

地域の課題を自らの課題として考え、地球規模の対策として取り組める 社会の創り手を育成します。そのためには、児童生徒が進路を主体的に選択する資質・能力を育むキャリア教育・職業教育の推進、社会を生き抜く力としての主権者教育・消費者教育など、社会の変化に対応できる子どもの育成を目指した 教育を推進します。

持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す SDGs (Sustainable Development Goals) の考え方も取り入れ、誰もが差別されることなく平等に参画できる社会を目指した人権教育やジェンダー平等を推進するとともに、多様性を認める教育、多文化共生などにより、一人一人の個性を尊重した教育を推進します。

◆4 多様な連携でまちの教育力を高める◆

社会全体での教育力の向上を目指し、阿見町の既存の地域コミュニティとの連携や地域住民との多様な交流、地域人材の積極的な活用を継続します。また、学校から地域に向けた情報発信、学校教育への支援体制の充実などにより、地域と一体となった開かれた学校づくりを進めます。

庁内各課の連携や、本町の立地企業及び施設、学校等の連携を通して、乳幼児期からの家庭教育の支援に努めるなど、家庭の教育力や地域の教育力の向上を目指します。

さらに、保護者と連携して青少年の健全な育成を推進します。

◆5 安全で安心して学べる教育環境を創る◆

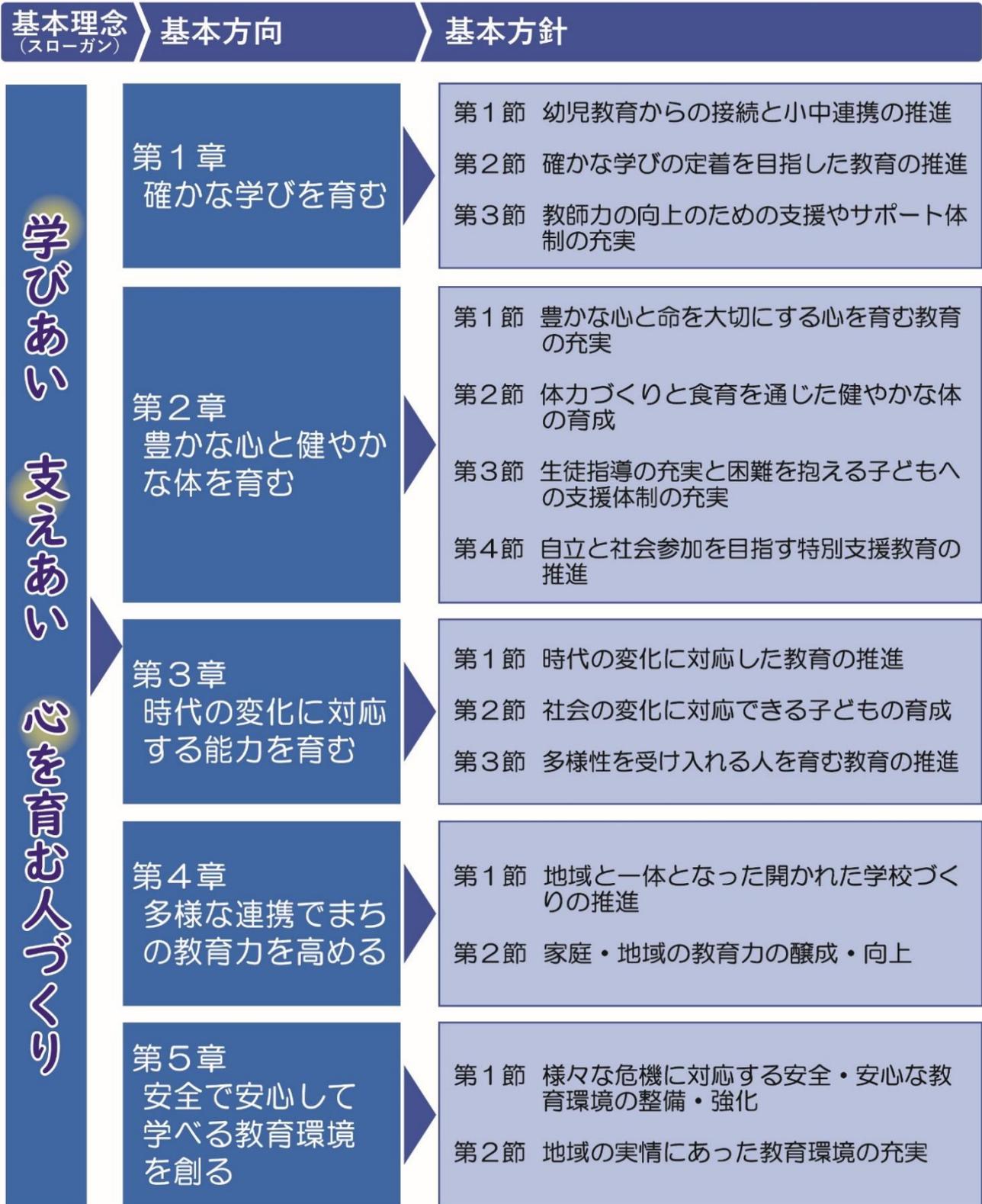
本町には、住宅地や田畑広がる地域、工場がある地域など、多様な地域が広がっており、地域によって教育環境にもそれぞれの特性があります。

これまでも小・中学校の統合や防災対策、交通安全対策など様々な取組を地域ごとの実情に合わせて進めてきました。

今後も災害等を想定した学校ごとの危機管理体制の確立や総合的な防災教育、防犯・通学路の交通安全対策の強化及び感染症対策等の健康危機管理に取り組み、安全で安心して学べる教育環境を目指します。

小・中学校の望ましい教育環境の検討や学校施設の安全性の強化、学習効果を高める学校施設・設備の充実などを 常に意識し、時代の変化に対応した学校施設・設備の充実を目指します。

第2次阿見町教育振興基本計画 基本構想 11 力年



目 次

I	阿見町の概要	6
II	学校教育	16
III	指導室	20
IV	学校給食	51
V	生涯学習	56
VI	教育関係委員	81

I 阿見町の概要

目 次

1	阿見町の概要	7
2	阿見町の教育歳出予算	8
3	教育費の推移	8
4	教育施設整備事業の実績	9
5	令和7年度の主な施設整備事業	14

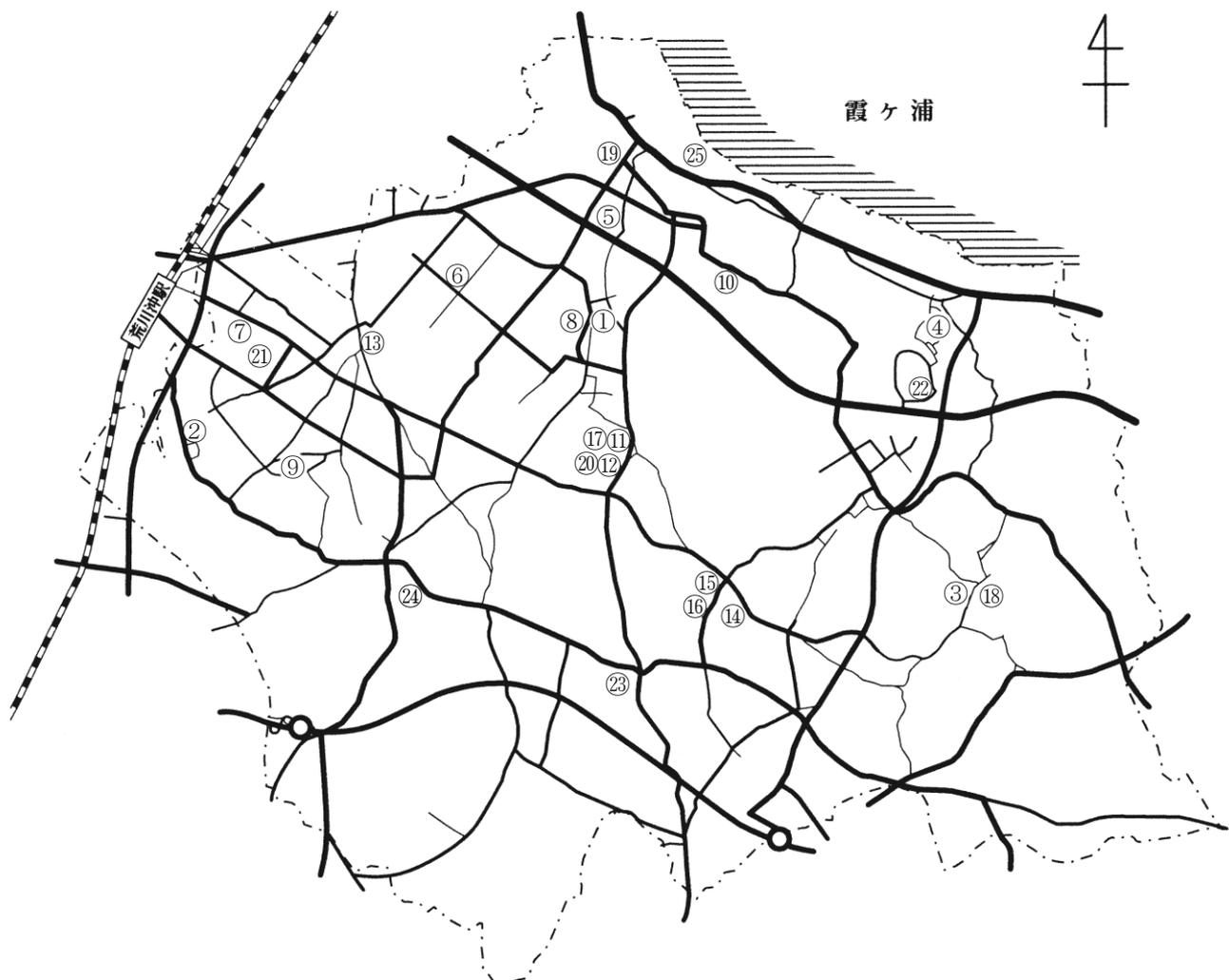
1 阿見町の概要

阿見町は茨城県の南部に位置し、都心から北へ 60km の地点にあり、東は美浦村、稲敷市、南西は牛久市、北は土浦市と接して霞ヶ浦に面しています。

町の総面積は 71.40km² で、東西 9km、南北 11km、海拔平均 21m。地勢は平坦で霞ヶ浦に沿う地域は、低湿地帯、その他は大部分が台地で、地質は第 4 紀古層の火山灰におおわれ、天恵に富んでいます。

交通は JR 常磐線土浦駅より約 4.5km、同荒川沖駅より約 4km の距離にあり、JR バス関東、関東鉄道バスによる交通網が町内をはじめ近隣市町村に通じています。

阿見町教育施設の配置図



- | | | | |
|---------------------|------------|--------------|------------|
| ① 阿見小学校 | ② 本郷小学校 | ③ 君原小学校 | ④ 舟島小学校 |
| ⑤ 阿見第一小学校 | ⑥ 阿見第二小学校 | ⑦ あさひ小学校 | ⑧ 阿見中学校 |
| ⑨ 朝日中学校 | ⑩ 竹来中学校 | ⑪ 中央公民館 | ⑫ 町民体育館 |
| ⑬ 学校給食センター | ⑭ 町民球場 | ⑮ 陸上競技場 | ⑯ 運動公園管理棟 |
| ⑰ 図書館 | ⑱ 君原公民館 | ⑲ かすみ公民館 | |
| ⑳ 教育相談センター (やすらぎの園) | | ㉑ 本郷ふれあいセンター | |
| ㉒ 舟島ふれあいセンター | ㉓ 吉原交流センター | ㉔ 実穀ふれあいセンター | ㉕ 予科練平和記念館 |

2 阿見町の教育歳出予算(当初予算)

(単位:千円)

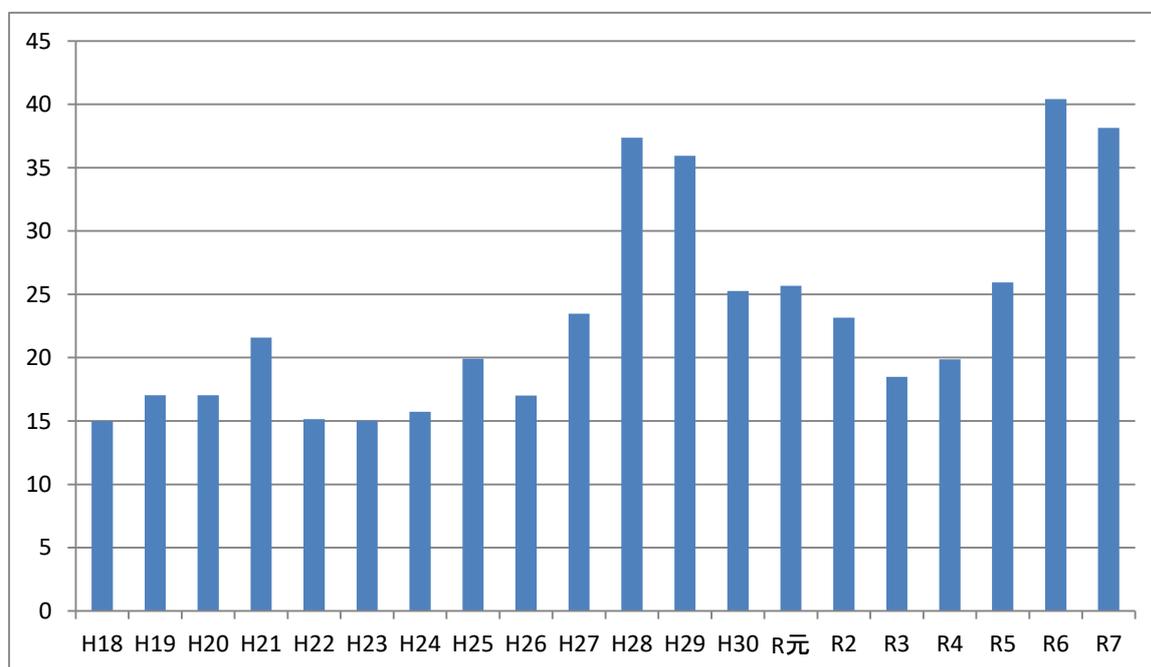
年度 項	令和7年度	令和6年度	比較
教育総務費	612,447	539,216	73, 231
小学校費	940,070	535,385	404, 685
中学校費	365,166	781,491	△ 416, 325
社会教育費	1,085,469	1,309,551	△ 224, 082
保健体育費	811,763	876,858	△ 65, 095
合計	3,814,915	4,042,501	△ 227, 586

3 教育費の推移(当初予算)

(単位:千円)

年 度	当 初 予 算 額	年 度	当 初 予 算 額
H18	1,499,701	H28	3,737,418
H19	1,704,138	H29	3,593,602
H20	1,702,285	H30	2,526,508
H21	2,158,411	R元	2,568,084
H22	1,514,236	R2	2,317,041
H23	1,502,883	R3	1,849,446
H24	1,571,721	R4	1,986,694
H25	1,991,474	R5	2,595,320
H26	1,702,121	R6	4,042,501
H27	2,348,372	R7	3,814,915

単位:億円



4 教育施設整備事業の実績

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
40～42	阿見中校舎 1～3 期	鉄筋 3 階	4,568	151,331	43,908	53,500	53,928
43～45	阿見小校舎 1～3 期	鉄筋 3 階	3,880	174,032	18,952	46,700	108,380
44	阿見中体育館	鉄骨 2 階	1,519	94,943	10,640	7,700	36,603
45	阿見中プール	鉄筋 50×15	2 面	43,865	1,200	18,000	24,665
46	実穀小プール	P C 25×13	1 面	15,097		6,000	9,970
〃	君原小プール	P C 25×13	1 面	15,480	975	6,000	8,505
〃	吉原小校舎	鉄筋 2 階	943	59,917	5,824	8,600	45,493
〃	舟島小校舎	鉄筋 2 階	1,107	69,128	10,458	15,400	43,270
〃	学校給食センター	鉄骨 1 階	706	35,880	1,767	15,000	19,113
47	本郷小校舎 1 期	鉄筋 3 階	605	34,879	5,964	4,300	24,615
48	阿見中相撲場			1,170			1,170
49～50	本郷小校舎 2 期	鉄筋 3 階	1,972	238,895	125,799	62,500	50,596
50	給食センター	鉄骨 1 階		33,870		29,000	4,870
50～52	阿見小特別教室棟	鉄筋 3 階	1,049	80,772	33,653	34,400	12,719
51	本郷小プール	P C 25×13	1 面	23,917	5,281	10,000	8,636
51～52	第一小校舎 1～3 期	鉄筋 3 階	5,353	451,708	235,589	117,200	98,289
51～52	実穀小校舎	鉄筋 3 階	1,998	242,448	142,606	12,500	87,342
51	第一小体育館	鉄骨 2 階	1,043	71,934	24,859	23,000	24,075
52	吉原小プール	P C 25×13	1 面	24,221	6,006		18,215
〃	舟島地区児童体育館	鉄骨 2 階	708	66,421	38,500		27,921
53	舟島小プール	P C 25×13	1 面	31,582	6,743	8,400	16,439
〃	第一小プール	P C 25×13	1 面	37,705	7,781	9,900	20,024
〃	君原小校舎	鉄筋 3 階	2,078	331,445	72,132	87,700	171,613
〃	阿見小体育館	鉄骨 2 階	1,300	107,208	35,982	34,000	37,226
〃	若栗運動公園野球場		19,000	16,213			16,213
54	舟島小特別教室棟	鉄筋 3 階	1,104	138,088	25,624		56,964
〃	本郷地区児童体育館	鉄骨 2 階	782	75,667	43,400		32,267
54～55	朝日中校舎	鉄筋 3 階	4,671	653,248	295,055	190,100	168,093
〃	中央公民館	鉄筋 3 階	2,813	636,400	116,300	238,000	282,100
〃	給食センター増築	鉄骨 1 階	360	110,186	4,180		106,006
55	朝日中体育館	鉄骨 2 階	926	93,079	38,602	28,900	25,577
〃	朝日中柔剣道場	鉄骨 1 階	407	35,436	7,718	11,600	16,055
〃	実穀小体育館	鉄骨 2 階	709	72,261	34,408	25,800	12,053
〃	吉原小体育館	鉄骨 2 階	709	69,801	33,275	24,900	11,626
55～56	町民体育館	鉄骨 2 階	1,236	147,886	89,800		58,086

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
56	朝日中プール	P C 25×15	1 面	54,000	15,390		38,610
〃	君原小体育館	鉄骨 2 階	707	75,671	36,228	27,100	12,343
〃	吉原小特別教室棟	鉄筋 3 階	1,262	190,851	81,189	45,700	63,962
〃	本郷小校舎増築	鉄筋 2/3 階	1,900	280,472	183,456	60,300	36,716
57	阿見中柔剣道場	鉄骨 1 階	617	54,800	8,533	12,700	33,567
57～58	第二小学校校舎	鉄筋 3 階	4,114	701,000	396,465	145,500	164,035
58	第二小体育館	鉄骨 2 階	1,019	111,200	38,772	34,800	37,628
〃	実穀小特別教室棟	鉄筋 3 階	1,151	203,052	106,109	71,300	25,643
59	第二小プール	P C 25×15	1 面	68,101	9,650	16,400	42,051
59～60	竹来中校舎	鉄筋 3 階	6,019	1,045,544	609,273	214,000	222,271
60	竹来中体育館	鉄骨 2 階	1,679	217,000	78,447	40,800	97,753
〃	阿見小プール	P C 25×17	1 面	78,500	10,293	15,400	52,807
61	竹来中プール	P C 25×15	1 面	92,000	9,650	58,000	24,350
62～63	阿見中校舎防音改造			443,408	171,695		271,713
63	阿見町図書館	鉄筋 2 階	1,630	566,800	76,900	282,000	207,713
元～2	阿見小校舎防音改造			835,485	256,512		578,973
2	給食センター増築	鉄骨 1 階		54,951			54,951
3	運動公園照明塔			146,929			146,929
4	君原小図工室	木造 1 階	180	54,487			54,487
5	朝日中普通外装改修			31,312			31,312
〃	君原公民館	鉄筋 1 階	1,252	668,664	59,000	370,900	238,764
6	第一小外装改修			52,015			52,015
〃	朝日中特別外装改修			33,423			33,423
6～7	かすみ公民館	鉄骨鉄筋 2 階	1,657	618,432	117,000	195,700	305,732
8	本郷小給水改修			17,407			17,407
〃	阿見中弓道場改修		83	13,081			13,081
〃	教育相談センター	鉄骨 1 階	180	18,486			18,486
9	舟島小校舎増築工事	鉄筋 2 階	2,081	530,145	209,109	198,600	122,436
〃	竹来中校舎増築	鉄筋 3 階	1,777	477,435	158,671	96,400	222,364
10	舟島小校舎改修			313,328	62,001	112,400	138,927
〃	中央公民館空調改修			91,350	26,200		65,150
13～14	本郷ふれあいセンター	鉄筋 2 階	1,643	675,418	124,160	363,300	181,958
13	中央公民館防水改修			18,501			18,501
〃	阿見中プール改修			32,154			32,154
〃	町民球場	対面 2 面		392,595	330,750		61,845
14	本郷小防水改修			27,825			27,825

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
15～16	舟島ふれあいセンター	鉄筋 2 階	1,107	388,843	43,796	120,900	224,147
15	教育相談センター増築	鉄骨 1 階	35	4,358			4,358
16	朝日中配管改修			17,535			17,535
17	第二小体育館屋根改修			9,345			9,345
18	実穀西校舎小配管改修			5,975			5,975
21	小学校防犯カメラ	小学校 8 校		13,125	2,716		10,409
〃	予科練平和記念館	鉄骨 1 階	1,409	1,253,252	79,329	736,600	437,323
22	阿見小校舎耐震補強 阿見小体育館耐震補強			274,158	142,274	21,600	110,284
〃	阿見中校舎耐震補強 阿見中体育館耐震補強			181,709	118,762	47,400	15,547
〃	中学校防犯カメラ	中学校 3 校		5,145	2,507		3,088
〃	第一小学校配管改修			34,230	34,230		
〃	中央公民館公共下水道			8,306			
23	教育相談センター増築	木造 1 階	24	4,200	3,517		683
〃	地上デジタル放送導入			8,736			8,736
〃	舟島小体育館耐震補強			24,727			24,727
〃	本郷ふれあいセンター 駐車場整備		1,990	23,027	10,000		13,027
24	朝日中校舎耐震補強 朝日中体育館耐震補強		5,922	126,840	75,997	25,400	50,597
〃	新給食センター建設	鉄骨 2 階	2,891	1,129,527	103,468	778,000	248,059
25	第一小校舎耐震補強 第一小体育館耐震補強		6,272	103,793	67,127	36,160	506
〃	君原小校舎耐震補強		2,056	51,324	30,691	20,340	293
〃	阿見中太陽光発電設備・ 非常用電源設備設置			19,950	19,950		
〃	朝日中太陽光発電設備・ 非常用電源設備設置			18,690	18,690		
〃	竹来中太陽光発電設備・ 非常用電源設備設置			18,585	18,585		
〃	本郷小校舎増築	軽鉄 2 階	530	107,772			107,772
〃	給食センター解体			53,476			53,476
〃	新給食センター外構整備			46,830			46,830
〃	新給食センター車庫建設	鉄骨平屋 (配送車車庫) (公用車車庫)	113 31	19,488	11,189		8,299
26	実穀小校舎耐震補強 実穀小体育館耐震補強		2,690	99,288	57,475	41,800	13
〃	実穀小体育館屋根改修		709	15,147			15,147
〃	吉原小校舎耐震補強 吉原小体育館耐震補強		1,652	79,565	54,698	24,800	67
〃	吉原小体育館屋根改修		709	20,464		15,300	5,164

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
26	本郷小校舎耐震補強		2,497	88,776	49,443	39,300	
〃	本郷小体育館耐震補強		781	14,187	5,670	7,600	917
〃	本郷ふれあいセンター 外壁改修			40,954			40,954
26～27	予科練平和記念館 実物大零戦模型作成			12,960			12,960
27	予科練平和記念館 零戦格納庫建設	鉄筋1階	152	33,696			33,696
〃	朝日中設備改修 (空調・トイレ)			165,282		123,900	41,382
〃	阿見中技術室棟改築	鉄骨1階	186	47,952	9,123	31,700	7,129
〃	中央公民館耐震補強	鉄筋3階 2,813㎡		183,600	20,500	27,200	135,900
〃	中央公民館 空調用熱源設備更新			25,596			25,596
28	本郷小設備改修 (空調・トイレ・給排水)			206,496		146,200	60,296
〃	本郷小プール改修			7,182			7,182
〃	阿見中旧校舎解体			14,057			14,057
〃	阿見中外構整備			28,048			28,048
〃	柔剣道場改修 (朝日中・竹来中)			36,018	11,565	22,800	1,653
〃	朝日中テニスコート改修			1,296			1,296
〃	陸上競技場走路等改修			16,245	10,830		5,415
〃	町民球場放送設備改修			6,956			6,956
〃	町民体育館耐震改修			108,000	36,200		71,800
28～29	あさひ小 あさひ小体育館	RC造2階 S造	9,216 1,288	3,437,475	874,585	1,966,700	596,190
〃	阿見中設備改修 (空調・トイレ・給排水)			175,284	51,067	120,900	3,317
29	阿見小設備改修 (空調・トイレ・給排水)			196,705	46,535	144,500	5,670
〃	小学校屋内運動場 非構造部材耐震化 (阿見小・第一小・第二小)			53,394	17,975	21,300	14,119
〃	小学校屋内運動場 非構造部材耐震化 (本郷小・舟島小)			21,752		21,700	52
〃	全中学校屋内運動場 非構造部材耐震化			91,063	30,657	47,100	13,306
〃	阿見中プール改修 (町民プールB)			14,721			14,721
〃	総合運動公園 テニスコート照明灯改修 (設計費等を含む)			24,615	15,255		9,360
30	第一小プール改修			9,548			9,548

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
30	阿見中テニスコート改修			2,523			2,523
〃	朝日中増築	S造2階	1,225	341,064	130,107	177,600	33,357
〃	竹来中設備改修 (空調・トイレ・給排水)			260,820		195,600	65,220
〃	陸上競技場スタンド改修 (附帯工事含む)	鉄筋1階	260	62,316	39,600		22,716
〃	運動公園フットサルコート人工芝改修工事			46,721	24,000		22,721
30～元	第一小空調設備改修			115,825	16,433	79,500	19,892
〃	君原小空調設備改修			13,539	3,983	7,900	1,656
〃	第二小空調設備改修			18,080	4,944	10,800	2,336
〃	第一小トイレ改修			120,375	27,817	81,400	11,158
元	阿見小プール改修			12,194			12,194
〃	阿見中 外壁・屋上防水改修			156,533		112,600	43,933
〃	竹来中テニスコート改修			7,700			7,700
〃	中央公民館消火栓用非常用自家発電機更新			8,734		7,800	931
〃	かすみ公民館防水・外壁改修			50,766	32,552	1,280	16,934
元～2	舟島小設備改修 (空調・トイレ)			235,218	49,227	145,700	40,291
〃	阿見小屋内運動場 建具(窓)改修工事			42,872	13,766	21,900	7,206
〃	第一小屋内運動場 建具(窓)改修工事			35,185	11,715	19,100	4,370
〃	君原小屋内運動場改修 (屋根・非構造部材)			51,403	5,718	27,200	18,485
〃	全小中学校校内通信 ネットワーク整備工事			100,650	35,713	59,400	5,537
2	竹来中 外壁・屋上防水改修			248,733		183,500	65,233
〃	阿見中段差等改修工事			12,650		6,700	5,950
〃	旧吉原小学校改修 (吉原交流センター)			238,700	45,837	135,000	57,863
3	朝日中駐輪場増設工事			15,389			
〃	図書館外壁改修 屋上防水・外壁改修			69,300		59,900	9,400
〃	君原小、阿見第二小 水洗自動化等工事			1,709	1,709		
4	旧実穀小学校改修 (実穀ふれあいセンター)			384,340	177,839	151,000	55,501
〃	旧実穀小屋内運動場 非構造部材等改修工事			13,577		13,550	27

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
4	旧吉原小屋内運動場 非構造部材等改修工事			14,256		14,250	6
〃	阿見中屋内運動場・柔剣 道場トイレ等改修工事			57,585		57,547	39
〃	竹来中屋内運動場トイレ 等改修工事			45,953		45,922	31
〃	本郷小屋内運動場トイレ 等改修工事			41,960		41,932	28
〃	阿見小屋内運動場バスケット ボール電動化工事			1,556			1,556
5	陸上競技場コースロー プ張替工事			1,870			1,870
5～6	朝日中長寿命化改修工 事			935,000	173,248	514,748	247,004
6	阿見小屋内運動場 トイレ等改修工事			44,748		44,748	
〃	舟島小屋内運動場 トイレ等改修工事			44,748		44,748	
〃	阿見第二小屋内運動場 トイレ等改修工事			46,398		46,398	
〃	本郷小プール解体工事			32,010			
〃	全小中学校防犯対策 施設整備工事			11,183	4,521	4000	
〃	町民体育館大規模修繕 工事			280,060	71,612	131,100	77,348
〃	総合運動公園キュービ クル高压機器更新工事			2,618			2,618
〃	中央公民館大規模改修 工事			416,350		376,800	39,550
〃	舟島ふれあいセンター 外壁等改修工事			49,731		44,700	5,031

5 令和7年度の主な施設整備事業

年度	事業名	構造	面積 (㎡)	総事業費 (千円)	財源内訳 (千円)		
					補助金	起債	一般財源
7	君原小屋内運動場トイレ 等改修工事			59,092			
〃	阿見第一小屋内運動場 トイレ等改修工事			49,720			
〃	朝日中屋内運動場トイレ 等改修工事			59,290			
〃	阿見中屋内運動場屋根 改修工事						
〃	総合運動公園 B 球場照 明灯改修工事			88,220		79,300	8,920

〃	予科練平和記念館 屋上防水・外壁改修工事			107,162		96,400	10,762
7～8	本郷小校舎増築工事	S造	2,394				
〃	かすみ公民館大規模改 修工事	SRC造	1,657.65	378,890			

Ⅱ 学 校 教 育

目 次

1	阿見町学校概要・・・・・・・・・・・・・・・・	17
2	人口と児童生徒数の推移・・・・・・・・	18
3	就学前児童数調査・・・・・・・・	18
4	通学区域等・・・・・・・・	19

1 阿見町学校概要

※児童生徒数及び学級数は特別支援学級の数を含む（R7.5.1現在）

学 校 名	阿見小学校	本郷小学校	君原小学校	舟島小学校	阿見第一小学校	阿見第二小学校	あさひ小学校	小学校計	阿見中学校	朝日中学校	竹来中学校	中学校計		
創 立 記 念 日	7月1日	11月19日	11月1日	10月1日	6月6日	11月30日	11月30日		11月4日	2月10日	10月28日			
所 在 地	中央二丁目 1番5号	大字荒川本郷 1400番地	大字塙 145番地	大字島津 3928番地	岡崎三丁目 19番地	大字阿見 4988番地	本郷一丁目 5番地1		中央一丁目 2番1号	大字荒川本郷 1855番地1	大字竹来 400番地1			
電 話 番 号	887-0019	841-0024	889-0118	887-1720	887-5781	887-8531	893-3555		887-0028	842-7771	887-1201		3校	
F A X 番 号	887-7649	841-5297	889-0003	887-1055	887-9274	887-7521	841-2121	7校	888-2493	842-2865	888-2497			
教 員	校 長 名	秋山 美穂	山本 隆弘	菅澤 直美	中島 まり子	宮崎 淳司	小松原 聡	浅野 剛	7人	渡邊 健司	山下 克久	岡野 友浩	3人	
	副 校 長							西本 義一	1人					
	教 頭 名	小松原 陽子	安部 由邦	富田 哲也	宮本 卓也	小林 一慶	駒沢 玲子	葉梨 義幸	7人	雑賀 史	江幡 綾子	川松 佳子	3人	
	教 諭	男(人)	9	11	3	4	9	2	12	50人	9	16	12	37人
		女(人)	16	17	4	5	10	7	22	81人	12	11	8	31人
	養護(助)教諭 (人)	1	1	1	1	1	1	1	2	8人	1	1	1	3人
	栄養教諭 (人)	1	0	0	0	0	0	0	0	1人	0	1	0	1人
	講師(人)	3	4	1	3	2	0	8	21人	2	5	3	10人	
事務職員 (人)	1	1	1	1	1	1	2	8人	1	2	1	4人		
計(人)	33	36	12	16	25	13	49	184人	27	38	27	92人		
児 童 ・ 生 徒 数 (人)	576(特28)	595(特52)	61(特5)	124(特15)	331(特36)	131(特8)	734(特58)	2,552(特202)	322(特21)	546(特43)	289(特29)	1,157(特93)		
学 級 数	23(特5)	27(特8)	6(特1)	8(特2)	18(特6)	8(特2)	32(特10)	122(特34)	14(特4)	23(特7)	13(特5)	50(特16)		
校舎面積(m ²)	5,215	5,010	2,245	4,331	5,363	4,114	7,905	34,183m ²	4,999	5,945	7,884	18,828m ²		
屋内運動場(m ²)	1,300	782	707	708	1,043	1,019	1,288	6,847m ²	1,519	926	1,049	3,494m ²		
敷 地	建物(m ²)	14,759	5,011	5,800	11,234	12,778	12,025	16,382	77,989m ²	15,958	14,583	16,379	46,920m ²	
	運動場(m ²)	16,282	8,330	6,778	13,341	18,200	16,780	7,905	87,616m ²	28,750	22,344	21,308	72,402m ²	
	その他(m ²)	2,433		1,292	4,643		155		8,523m ²			2,729	2,729m ²	
	計(m ²)	33,474	13,341	13,870	29,218	30,978	28,960	24,287	174,128m ²	44,708	36,927	40,416	122,051m ²	
養護(助)教諭名	穴澤 貴美子	稲川 祐美	國分 貴子	木屋 安紀子	西島 恵子	稲野邊紀佳美	糸賀 美穂 中島 麻友子		浅野 優	一村 陽子	横井 伸江			
事務職員名	佐川 恵	鈴木 佳奈	萩野谷 優果	結束 孝子	中山 春那	青木 祐子	黒田 礼子 堀江 良子		眞家 升子	島田 琢哉 吉田 佳代子	大森 麻衣子			
P T A 会 長	臼井 舞子	吉田 貴洋	笹田 邦恵	松田 達也	坂本 良美	湯原 正記	石田 貴也		高倉 正樹	小田島 秀二	高野 好央			
校 医	小林、縣 大槻、宜保	辻、中山 大槻	山本、春日	小林、春日 助川	竹村、縣 助川	宮崎、山本	印南、成島 日高、大澤		柏木、成島 小林、山本	印南、日高 大槻	柏木、竹村 縣、助川			
歯 科 医	野口(喜) 大場、山崎	鶴屋、宮本	大場	野口(喜)	塚原 野口(智)	月村	沼尻、永山 大久保		野口(喜) 斯波(宏) 塚本	宮本、河原	塚原、北澤			
薬 剤 師	関口	井上	鈴木(史)	鈴木(史)	鈴木(秀)	山本	山本		小竹	井上	鈴木(秀)			

2 人口と児童生徒数の推移

(5月1日現在)

年 度	人口 (住民基本台帳より)	児童・生徒数		
		小学校	中学校	計
平成7年度	45,385	3,272	1,813	5,085
平成8年度	45,805	3,166	1,816	4,982
平成9年度	46,485	3,068	1,746	4,814
平成10年度	46,782	2,968	1,704	4,672
平成11年度	46,746	2,886	1,630	4,516
平成12年度	46,327	2,762	1,577	4,339
平成13年度	46,396	2,682	1,514	4,196
平成14年度	46,520	2,626	1,470	4,096
平成15年度	46,536	2,612	1,355	3,967
平成16年度	47,002	2,598	1,303	3,901
平成17年度	47,040	2,543	1,314	3,857
平成18年度	46,825	2,553	1,293	3,846
平成19年度	46,736	2,545	1,268	3,813
平成20年度	46,832	2,652	1,194	3,846
平成21年度	46,775	2,689	1,198	3,887
平成22年度	46,758	2,629	1,198	3,827
平成23年度	46,716	2,631	1,211	3,842
平成24年度	46,547	2,576	1,253	3,829
平成25年度	47,115	2,584	1,267	3,851
平成26年度	47,356	2,536	1,291	3,827
平成27年度	47,560	2,524	1,285	3,809
平成28年度	47,482	2,558	1,250	3,808
平成29年度	47,428	2,502	1,210	3,712
平成30年度	47,518	2,494	1,314	3,808
令和元年度	47,695	2,478	1,189	3,667
令和2年度	47,763	2,510	1,155	3,665
令和3年度	48,092	2,517	1,177	3,694
令和4年度	48,681	2,508	1,202	3,710
令和5年度	49,219	2,553	1,182	3,735
令和6年度	49,437	2,583	1,184	3,767
令和7年度	49,816	2,552	1,157	3,709

3 就学前児童数調査

(5月1日現在)

就学年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
年 齢	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳	0歳
男 子	225	189	214	181	179	161
女 子	205	196	193	179	188	176
合 計	430	385	407	360	367	337

4 通学区域等

小学校（R7.5.1 現在）

学校名	通学区域（行政区名等）	備考
阿見小学校	中郷西、北、宿、西方、中央東、中央西、中央南、中央北、鈴木、三区上、三区下、富士団地、大砂、上吉原、中吉原、下吉原、新山、福田、よしわら	19 行政区
本郷小学校	一区の一部、上本郷の一部、下本郷、本郷の一部、シンワ、中根、実穀、寺子、上小池、下小池、上長、筑見、セントラルアベニュー	12 行政区 +1 地区
君原小学校	君島、大形、石川、塙、追原、上条、飯倉、飯倉二区	8 行政区
舟島小学校	上島津、下島津、南島津、掛馬、竹来、南平台一、二、三丁目	8 行政区
阿見第一小学校	岡崎、中郷東、立ノ越、青宿、新町、廻戸、霞台、大室、白鷺団地、曙東、曙南、レイクサイドタウン	12 行政区
阿見第二小学校	阿見台、西郷、一区南、一区北、上郷	5 行政区
あさひ小学校	住吉、二区北、二区南、一区の一部、上本郷の一部、本郷の一部	6 行政区

中学校（R7.5.1 現在）

学校名	通学区域（行政区名）	備考
阿見中学校	中郷西、阿見台、西郷、北、宿、西方、中央東、中央西、中央南、中央北、鈴木、三区上、三区下、一区南、一区北上郷、富士団地、大砂、上吉原、中吉原、下吉原、新山、福田よしわら	24 行政区
朝日中学校	住吉、二区北、二区南、一区、上本郷、下本郷、本郷、シンワ、中根、実穀、寺子、上小池、下小池、上長、筑見、セントラルアベニュー	15 行政区 +1 地区
竹来中学校	岡崎、中郷東、立ノ越、青宿、新町、廻戸、霞台、大室、白鷺団地、曙東、曙南、レイクサイドタウン、君島、大形、石川、塙、追原、上条、飯倉、飯倉二区、上島津、下島津、南島津、掛馬、竹来、南平台一、二、三丁目	28 行政区

中学校

学校名	就学学校名
阿見中学校	阿見小学校、阿見第二小学校
朝日中学校	本郷小学校、あさひ小学校
竹来中学校	君原小学校、舟島小学校、阿見第一小学校

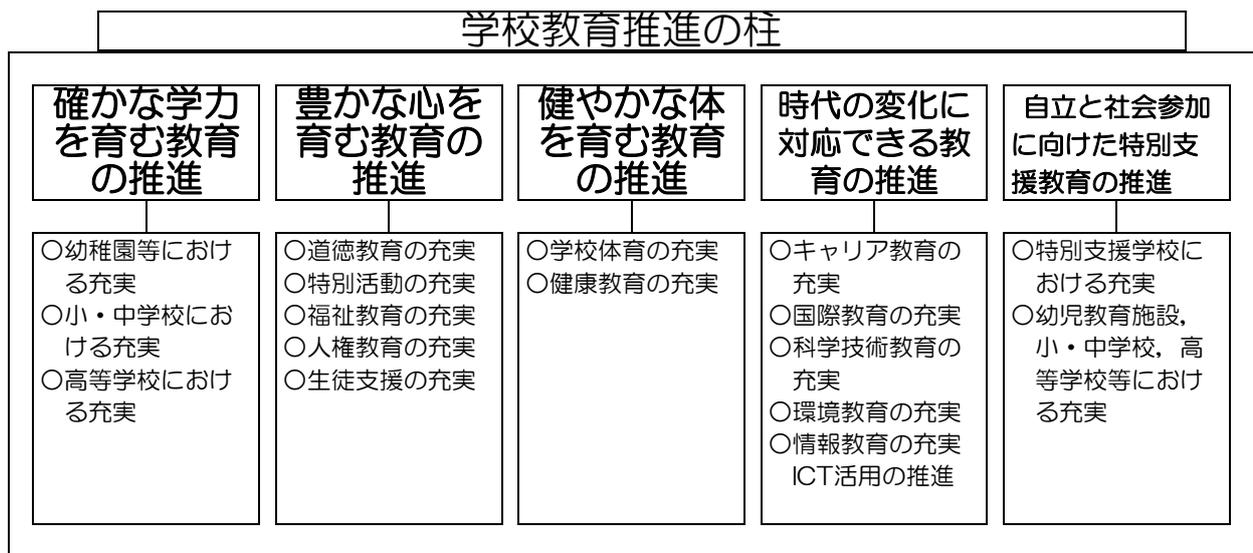
Ⅲ 指 導 室

目 次

- 1 令和7年度 阿見町の学校教育目標・・・・・・・・・・21
- 2 令和7年度 指導室の事業内容・・・・・・・・・・27
- 3 令和7年度 各小中学校の取組・・・・・・・・・・29
- 4 令和5・6年度 研究指定校の研究実績・・・・・・・・・・39

令和7年度 茨城県学校教育指導方針

本県の教育目標	いばらき教育プラン～茨城県総合計画より～
<ul style="list-style-type: none"> ○ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう ○じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う ○郷土を愛し協力しあう心を育てる 	<p>基本理念 『活力があり、県民が日本一幸せな県』</p> <p>Ⅲ「新しい人財育成」</p> <p>○茨城県の未来をつくる「人財」を育て、日本一子どもを産み育てやすい県を目指す。</p>



1 令和7年度 阿見町の学校教育目標

生きる力を育む教育の推進

今年度の重点課題と課題解決のための具体的取組

1 学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①阿見町授業スタンダードの推進（学習課題設定の工夫、振り返りの充実） ②各学校授業スタイルの再構築（個別最適な学び・協働的な学び） ③ICT機器の活用（タブレット、電子黒板、デジタル教科書等）、ICT支援員の効果的な活用、好事例の共有 ④英語教育の充実（小学校英語スピーキングクエスト）
2 不登校対応	<ul style="list-style-type: none"> ①各学校と町教育相談センターとの連携（生徒指導主事を核とした連絡体制の確立） ②校内フリースクール、不登校対策指導員との連携 ③SCやSSWとの連携（居場所づくりと絆づくり）、チーム支援の確立
3 働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ①部活動の地域移行拡大 ②小学校専科教員の全校配置・拡充 ③支援員、SC、SSW等、マンパワー増加 ④5時間授業、短縮日課の実施

令和7年度阿見町学校教育指導の方針

子どもも教師も元気な学校・子どもも教師も伸びる学校

校長のリーダーシップの発揮

学校教育目標の具現化へ向けた改革の推進

- 子どもや学校を取り巻く環境の変化を的確に把握し、目標や教育課程に反映・発信
- 目標の達成状況を検証・公表し、それを踏まえて果敢に改革を推進
- 教職員がより高いパフォーマンスを発揮できる組織マネジメントを遂行

すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり

カリキュラム・マネジメントの確立

- 学校教育目標と連鎖したPDCAサイクルの確立
- 社会に開かれた教育課程の推進
 - ・ 外部人材の活用、体験活動の充実
(教科等横断的・探究的な学び・キャリア教育等)
 - ・ 地域との連携・協働の促進
(コミュニティスクールの導入と活動の充実)
- 教員のパフォーマンス向上のための働き方改革の推進

豊かな学びの展開

- 問いの発見と解決に重点を置く探究的な学びの推進
 - ・ 試行錯誤、アウトプット振り返りの重視
- ICTの効果的な活用
 - ・ デジタル教材、遠隔
 - ・ オンライン、スタディ・ログ等
- よりよい社会の創造に貢献する市民性の育成
- 個々の発達段階や教育的ニーズに応じた学びの充実
- **阿見町の授業スタンダードの推進**

- ◇ 課題提示の工夫
- ◇ 身につけた学習内容の振り返り
- ◇ 適用練習の時間の確保

安心して学べる環境の保障

- 居場所づくりと絆づくりへの支援の充実
- 教育相談の充実とチーム支援の確立
- 学校段階等間の接続の円滑化

第2次阿見町教育振興基本計画基本理念

学びあい 支えあい 心を育む人づくり

- **基本方向1** 確かな学びを育む
 - ・ 幼児教育からの接続と小中連携の推進・確かな学びの定着を目指した教育の推進
- **基本方向2** 豊かな心と健やかな体を育む
 - ・ 豊かな心と命を大切にすることを育む教育の充実
 - ・ 体力づくりと食育を通じた健やかな体の育成
- **基本方向3** 時代の変化に対応する能力を育む
 - ・ 社会の変化に対応できる子どもの育成
 - ・ 多様性を受け入れる人を育む教育の推進
- **基本方向4** 多様な連携でまちの教育力を高める
 - ・ 地域と一体となった開かれた学校づくりの推進
 - ・ 家庭・地域の教育力の醸成
- **基本方向5** 安全で安心して学べる教育環境を創る
 - ・ 様々な危機に対応する安全・安心な教育関係の整備・強化
 - ・ 地域の実情にあった教育環境の充実

◆ 令和7年度 第2次阿見町教育振興基本計画施策の基本方向

基本理念

学びあい 支えあい 心を育む人づくり

1 確かな学びを育む

【目指す姿】

- ☆ 就学前児童は、入学前からのサポートのもと安心して進学することができ、楽しく学校生活をスタートしています。また、小・中学校の教員や児童生徒の日常的な交流活動を通して学びの連携が進んでいます。
- ☆ 子どもたちは夢と希望をもち、実現したい未来に向かって着実に、力強く学んでいます。
- ☆ 教師は、子どもたちと触れ合う時間を優先できる環境のもと、一人一人に寄り添いながら学びあう教育を進めています。

基本方針

具体的施策の内容

1 幼児教育からの接続と小中連携の推進

- 小中連携教育の推進
- 幼児教育の支援 ○保・幼・小連携の強化

2 確かな学びの定着を目指した教育の推進

- 基礎・基本の確実な習得と活用する力の育成
- 学習意欲の向上 ○言語活動の充実
- 外国語教育の推進 ○理数教育の充実

3 教師力の向上のための支援やサポート体制の充実

- 教員の資質向上 ○多様な学習支援の充実
- 学校の働き方改革の推進

重点事項

- ★ 阿見町の教育理念に基づいた切れ目のない教育の推進と、幼保小中の多様な連携
- ★ 個別最適な学びと協働的な学び（令和の日本型学校教育の実現）の推進による、一人一人に寄り添いながら学びあう教育
- ★ 世界とつながる人づくりに資する国際教育・外国語教育の推進と、英語を着実に身に付ける教育の推進
- ★ すべての学習の基礎となる言語を豊かに学ぶための、読書環境の整備や児童生徒の読書意欲の向上
- ★ 教師自らが授業を磨くとともに、子どもと触れ合う時間を大切にする学校の働き方改革の推進



2 豊かな心と健やかな体を育む

【目指す姿】

- ☆ 児童生徒の情操が育まれ、友達や家族を思いやり、故郷を大切に思っています。また、予科練平和記念館を活用した教育の経験が生かされ、平和と命の尊さを深く理解しています。
- ☆ 児童生徒は、地場産の食材を使ったおいしい学校給食や茨城大学（農学部）や生産者、関係機関等と連携した食育授業、学校体育、部活動、スポーツ活動を通して健康と体力を身に付けています。
- ☆ すべての児童生徒は、家庭・学校・地域で温かく見守られ、いきいきと学んでいます。

基本方針

具体的施策の内容

1 豊かな心と命を大切にすることを育む教育の充実

- 道徳教育の充実 ○郷土教育の推進
- 文化・芸術活動の推進
- 平和・命の教育の推進
- 体験活動・ボランティア活動の推進

2 体力づくりと食育を通じた健やかな体の育成

- 学校体育の充実 ○学校保健・健康教育
- 食育の推進と安全な学校給食
- 地域と連携した運動部活動の促進

3 生徒指導の充実と困難を抱える子どもへの支援体制の充実

- 積極的な生徒指導
- 相談体制の充実
- 教育相談センター（やすらぎの園）の充実と活用
- 校内不登校支援教室の拡充

4 自立と社会参加を目指す特別支援教育の推進

- 個々の教育的ニーズに対応した指導の充実
- 就学前からの支援充実と発達障害に対する理解促進

重点事項

- ★ 「生きる力」を培うため、体力の向上と健康増進に資する健康教育の充実など命を大切にする教育の推進
- ★ 地場農産物を使ったおいしい給食と学校給食を通じた食育の推進による、児童生徒の健やかな成長
- ★ 多様な関係者の連携強化・相談体制の拡充や、子どもの貧困対策への取組
- ★ 特別な配慮が必要な児童生徒へのきめ細やかな支援による誰一人取り残さない教育の推進



3 時代の変化に対応する能力を育む

【目指す姿】

- ☆ 児童生徒は、情報活用能力を効果的に使って学校生活を過ごしています。
- ☆ 児童生徒は、地域の自然・郷土をよく知り、愛着をもって暮らしています。また、社会の一員としての役割をよく理解しています。
- ☆ 児童生徒は、多様性を認め合い、新たな価値を創造していく力や社会の持続可能な発展を担う力を身に付けています。

基本方針

具体的施策の内容

1 時代の変化に対応した教育の推進

- 情報活用能力を育てる教育の充実
- 教育ICT環境の整備
- 学校情報化の推進（校務のデジタル化）

2 社会の変化に対応できる子どもの育成

- 環境教育の充実
- キャリア教育・職業教育の推進
- 主権者教育・消費者教育の充実

3 多様性を受け入れる人を育む教育の推進

- 人権教育の推進
- 男女共同参画社会の形成
- 多文化共生の推進

重点事項

- ★ これからの時代の学びを支える教育現場におけるデジタル化の推進
- ★ 子どもの職業観、働く意味を学ぶ機会の醸成、キャリア形成を図るために必要な能力や態度の育成の充実
- ★ 環境教育などを通してSDGsの目標を理解し、実践していく力や態度を養う教育
- ★ 一人一人の違いを認め、個性を生かし、誰もが差別されることのない共生社会に向けた環境整備



4 多様な連携でまちの教育力を高める

【目指す姿】

- ☆ 地域ぐるみの教育が広がり、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てています。
- ☆ すべての児童生徒が家庭を安らぎのある楽しい場所と感じて過ごしており、親も子も笑顔で毎日を過ごしています。

基本方針

具体的施策の内容

1 地域と一体となった開かれた学校づくりの推進

- 地域人材の積極的な活用
- 地域に向けた情報の発信
- 学校教育への支援体制の充実

2 家庭・地域の教育力の醸成・向上

- 乳幼児期からの家庭教育の支援
- 家庭や地域との連携
- 青少年健全育成・体験活動

重点事項

- ★ 本町の地域の特徴を活かした、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進
- ★ 家庭教育・就学前教育の重要性を踏まえた、家庭の教育力の強化・支援
- ★ 児童生徒の生き抜く力をサポートする地域力の醸成

5 安全で安心して学べる教育環境を創る

【目指す姿】

- ☆ 学校は万が一に備えた危機管理体制が整っており、児童生徒は安心して学校生活を送っています。児童生徒も、いざという時は、自らの安全を守るために適切に行動できるようになっています。
- ☆ 地域の特色を生かした学校づくり、安心安全に学べる教育環境が実現しています。

基本方針

具体的施策の内容

1 様々な危機に対応する安全・安心な教育環境の整備・強化

- 危機管理体制の確立
- 防災教育の強化
- 防犯・交通安全対策の強化
- 感染症対策の充実

2 地域の実情にあった教育環境の充実

- 小・中学校の望ましい教育環境の検討
- 学校施設の維持管理
- 学校施設・設備の充実

重点事項

- ★ 児童生徒の危機管理能力の醸成と、防災・防犯・交通安全など児童生徒を取り巻く学校安全の強化
- ★ 本町の地域特性や地域の人口構成などを勘案した、小規模特認校などの町独自の教育の推進
- ★ すべての児童生徒に平等な教育環境を提供するための、小・中学校の望ましい教育環境の検討

2 令和7年度 指導室の事業内容

◆学校訪問関係

訪問種類	回数	ねらいと実施内容
計画訪問	年1回	○町内各小中学校の教育水準の向上を図る ○管理職・省令主任等との懇談、授業参観、研究協議 他
ステップアップ訪問	年1回	○授業力の向上を図る ○授業参観、研究協議
要請訪問	学校の要請	○各校の研究及び教育関係団体の要請に応じた指導助言
生徒指導 学校訪問	学期1回程度	○問題行動、不登校等が心配される児童生徒についての協議 ○授業参観、研究協議

◆主な事業

事業名	主な内容
町教育委員会・町教育研究会指定研究校	R7年度朝日中R8年度阿見小を指定
スクールカウンセラー配置事業	県スクールカウンセラー配置のない学校へ配置
小学校専科教員配置事業	町独自で小学校専科教員を配置
中学生海外派遣事業	姉妹都市や友好都市での文化・習慣等の交流
平和記念式典派遣事業	平和教育、広島の平和記念式典に参列

◆現職教育研究・研修会

研修会名	日時	対象者	主な内容
教頭研修会	年11回	教頭	○実務研修、校内指導体制確立の方策
教務主任研修会	年11回	教務主任	○教育課程の進行状況と課題への対応
生徒指導主事研修会	年5回	生徒指導主事	○生徒指導に関する情報交換と研究協議 ○いじめ・不登校等問題行動対策
学校教育教科領域指導員研修会	年1回	教科領域指導員	○指導員としての指導に関する研修 ○指導上の問題点（昨年度の反省と課題）
初任者研修会	年1回	新採教員	○教員としての資質向上、町内巡見への参加
特別支援教育担当者研修会	年3回	特別支援学級担当者	○特別支援学級教育課程編成の確認 ○個別の指導計画、自立活動に関する研修
町教育論文	年1回	全教職員	○研究意欲の高揚、教育の進展、学校教育の充実
「やすらぎの園」検討委員会	毎月	センター指導員、SSW、SC他	○教育相談センター「やすらぎの園」に通所する児童生徒の対応や家庭や学校との連携の在り方についての協議

阿見町教育相談センター運営概要

1 施設の目的

- (1) 阿見町内の児童生徒で不登校の児童生徒に適応指導の場を設け、集団活動等を通して自立心や適応力を養い、学校生活への復帰援助と共に一人で生きていける力を養う。
- (2) 学校生活で悩みをもつ児童生徒及びその保護者並びに学級担任などから悩みの相談を受け、児童生徒の健全育成に寄与する。

2 運営の基本理念

現在の児童生徒の状況から、教育の重点施策の一つに「不登校支援」を挙げている。不登校のケースの原因や背景は多様であり、過保護・過干渉、虐待・ネグレクト、貧困等の家庭に起因するもの、友人関係や教師との人間関係の悩み、学力不足等がある。また、これらの要因が複雑に絡み合っていることが多い。そして、無理に登校を促すと、これがプレッシャーになってさらに悪化する場合もある。

したがって、教育相談センター、特に、適応指導教室「やすらぎの園」に於いては、まずは「遊ぶ」「食べる」「学習する」という活動を同年代の人と交わりながら行い、生きる気力を高めて自立心や学校への適応性を育てるような援助指導の方法を基本とする。

このように「やすらぎの園」では、町内各小中学校と連絡を密にしながら、児童生徒が本当にのびのびと羽を広げ、ホッと安心できる「心の居場所」になることにより、生活力を高め、規則正しい生活を送り、登校できるようになることを目標に運営にあたっている。

3 相談から適応指導教室への通級までの流れ

- (1) 保護者からの相談の場合
 - ①保護者からの相談 → ②保護者・本人との面談 → ③学校との情報交換 → ④検討委員会 → ⑤保護者・本人との面談 → ⑥学校からの入所手続き → ⑦通級
- (2) 学校からの相談の場合
学校と対応を検討した後、(1)の流れによる。

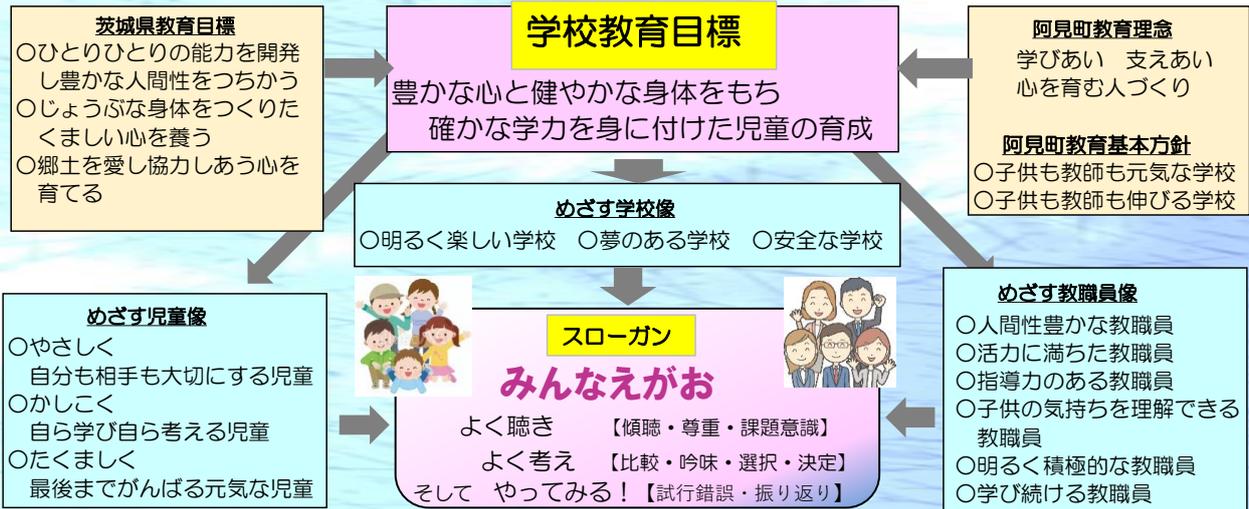
4 適応指導教室「やすらぎの園」

- (1) 毎週月曜日～金曜日（小・中学校の登校日に準ずる）、午前9時～午後3時
- (2) 通所方法は自由（小学生は原則保護者送迎）

5 相談事業

- (1) 毎週月曜日～金曜日、午前9時～午後3時
- (2) 相談方法
 - ①電話相談 ☎ 888 - 1225
 - ②来所相談 教育相談センター（〒300-0333 阿見町大字若栗 1838-24、町図書館脇）
へ直接来所

令和7年度 阿見小学校 グランドデザイン



学校経営方針

- 教育目標の具現化のため5つのプランを策定し、組織マネジメントにより業績の改善と向上を目指します。
- 児童の実態をふまえ地域の特色を生かした系統性のある教育活動、安心安全を意識した生活様式、SDGsの視点にたった教育活動の実践に努めます。
- 教職員としての資質・能力、指導力の向上とスクールコンプライアンスへの意識の高揚を図る、計画的・実践的な研修を推進します。
- 学校・家庭・地域との連携により、学校教育の充実を努めます。
- 業務改善による働きやすい職場環境づくり、心に充実感がある一人一人を大切にする雰囲気づくり、協同体づくりに全教職員で取り組みます。

組織目標

児童の主体性を育むための「もっと！」を引き出す授業づくりと
安心して自分らしさを発揮できる学年・学級づくり

豊かな心プラン

- 一人一人のよさを認め生かす経営の充実
- 自己肯定感、自己有用感を高めるための特別活動の充実
- 道徳的実践力の育成
- 心の成長を促進するための異学年交流活動の促進
- 児童の自己指導能力の育成

- ・「えがおで生活できている」 児童90%
- ・「関わるのが楽しい」 児童90%
- ・「きまりや約束を守る」 児童83%
- ・「自分のよいところを知っている」 児童80%

確かな学力プラン

- 児童の的確な実態把握と課題設定の工夫・ゴールの明確化
- 知識・技能の定着と豊かな表現力を育む学びの充実
- 一人一人のわかるを引き出す合理的配慮・ユニバーサルデザイン化
- 探究的な学びを目指す研修の充実

- ・「授業が分かる、楽しい」 児童85%
- ・「いろいろな方法を試しながら表現しようとしている」 児童80%
- ・「通常教室の児童の困り感への手立てを図る」教師85%
- ・「研修が授業改善に生かされている」 教師90%

健やかな身体づくりプラン

- 「楽しさ」を基本とした体育授業の改善と運動量の確保
- 栄養教諭や養護教諭を核とした計画的な食育・健康教育の継続・充実と自己管理能力の向上
- 積極的な外遊びの奨励
- 家庭へのたよりを活用した健康・安全教育への啓発

- ・「1日1回外遊びをする」 児童95%
- ・「うがい・手洗い等感染症対策に自ら取り組む」 児童95%
- ・「朝食を摂取している」 児童95%
- ・「運動量の確保を工夫している」 教師90%

特別支援教育プラン

- 一人一人の教育的ニーズに応じた学びの場の充実
- 通常学級で苦戦する児童への支援の拡充
- 家庭地域における特別支援教育への理解促進
- ユニバーサルデザインによる環境の整備

- ・「安心して生活できる」 児童85%
- ・「どうすればよいかいつもわかる」 児童90%
- ・「校内支援委員会の助言が生かされている」 教師90%

ウェルビーイングプラン

- 働きがいと働きやすさのベストミックスをめざす組織的取組
- ICTによる業務の効率化
- 一人で抱え込まない体制作り(相談・協働)

- ・「仕事と生活のバランスを意識している」 教師100%
- ・「相談できる人・場所がある」 教師100%
- ・「共有・分散等で業務の効率化を図っている」 教師90%



令和7年度 阿見町立本郷小学校グランドデザイン

本県教育の目標

ひとりひとりの能力を開発し 豊かな人間性をつちかう
 じょうぶな身体をつくり たくましい心を養う
 郷土を愛し 協力しあう心を育てる

本校の教育目標

自ら学び 明るくたくましく
 行動する児童の育成



阿見町教育振興基本計画<第2次>

基本理念『学びあい 支えあい 心を育む人づくり』
 基本方向

- 1 確かな学びを育む
- 2 豊かな心と健やかな体を育む
- 3 時代の変化に対応する能力を育む
- 4 多様な連携で町の教育力を高める
- 5 安全で安心して学べる教育環境を創る

目指す学校像

- 一人一人の居場所がある学校
- 子どもの良さや可能性を引き出し、活力ある学校
- 安心して学べる魅力ある学校
- 信頼され愛される学校

～本郷っ子～

本気でやります 何ごとにも
 ごめんなさいのひとことを
 うちのでつだい自分から
 つらいときにも励ましあって
 ころきれいな本郷っ子

目指す教師像

- 豊かな人間性と高い使命感をもつ教師
- 子どもに寄り添うことのできる教師
- 自ら学び続け、実践的な指導力のある教師
- 協働し、学び合い、高め合う教師

学校経営の方針 ●できなかつたことができるようになる学校づくり
 ●すべての子供たちのウェルビーイング向上を目指した学校づくり

スローガン『笑顔いっぱい 幸せいっぱい 本郷小学校』

学校組織目標

- 支持的な学級集団を育み、一人一人の自己有用感を高める。
- 進んで考えをもち、自分の言葉で伝え合う力を育てる。

「知」学びの大切さ

自ら学ぼうとする気持ちを育てます

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実現
 - 本郷小授業スタイルの展開
 - 学び方を身に付ける指導の徹底
 - * 授業が分かる・楽しい児童80%以上
 - 相手意識のある交流活動(アウトプット)
 - * 進んで自分の考えを表現できると実感70%以上
 - 専科・教科担任による専門指導
 - 読書活動の推進
 - * 本年間50冊達成児童の割合80%以上
- ②個に応じた指導や主体的に学ぶための指導方法の工夫改善
 - ユニバーサルデザインによる授業展開
 - 特別支援教育の考え方を生かした授業
 - 振り返りの場の設定
 - * いつも学習の振り返りをしている児童85%以上
 - ICT機器や学習者用デジタル教科書等の有効活用
 - 自分学習(自主学習)の習慣化
 - * 自分学習取組率80%以上
- ③本物に触れ、感性を磨く機会の創出
 - 地域の教育資源の活用
 - 日本の伝統文化の体験

「徳」友だちの大切さ

思いやりの心を育てます

- ①基本的な生活習慣の確立
 - 心のこもったあいさつの励行
 - * 進んであいさつしている児童85%以上
 - 時間を大切にする指導の徹底
- ②自己有用感を育てる学年・学級経営の充実
 - 全ての児童に成功体験
 - 全ての児童に他者から認められる体験
 - * 学校が楽しいと回答する児童80%以上
 - * 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると回答した6年生が80%以上
 - 学校生活アンケート
 - * 学校生活に満足感のある児童70%以上
 - 人権教育の推進
 - 性的マイノリティへの理解・実践
- ③道徳教育・特別活動の充実
 - 本音で語り合い、自分の考えを深められる授業の工夫
 - 道徳コーナーの充実
 - 係活動の活性化
 - 児童主体の集会活動・縦割り活動の実施
- ④体験活動の充実
 - 勤労・奉仕活動の充実
 - 異学年集団(縦割り班)活動の工夫
 - * 自分の役割に達成感6年生80%以上

「体」命の大切さ

元気な心と体を育てます

- ①「楽しい体力づくり」の実践
 - 運動量を確保した体育授業の工夫
 - 外遊び、業間運動の工夫
 - 達成感・成就感を味わわせる工夫
 - 体力テストの活用
 - * 体力テストA+Bの割合が45%以上
- ②健康教育の充実
 - 早寝・早起き・朝ごはんの習慣づくり
 - * 毎朝朝食を食べている児童90%以上
 - 保健指導の充実
 - 食に関する指導の充実
 - 家庭と連携した指導(健康手帳)
- ③児童の危機回避能力の育成
 - 引き渡し訓練の実施
 - 交通安全教室・防犯教室の計画的実施
 - 情報モラルに関する指導
 - 安全パトロールの実施



保護者・地域から信頼される学校づくり(社会に開かれた教育課程)

- ①地域とともにある学校としての情報の発信と受信
- ②年間をととした学校公開
- ③地域人材・外部講師の積極的な活用
- ④コミュニティ・スクールの設置と推進
- ⑤計画的な学校評価の実施と活用
- ⑥教職員の資質・能力の向上
- ⑦コンプライアンス意識の向上
- ⑧保護者や地域への誠実な対応
- ⑨働き方改革の推進(勤務時間外在校等時間の縮減)

*月の超過在校等時間が80時間以上の職員0人、30時間以上の月が6月より多い職員0人

～ よりよい学校教育が よりよい社会を創る ～

令和7年度 阿見町立君原小学校 グランドデザイン

本県教育の目標
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し
協力しあう心を育てる

【本校の教育目標】
自ら伸びようとする子どもの育成
—共に 楽しく たくましく—

第2次阿見町教育振興基本計画
学びあい 支えあい
心を育む人づくり

【めざす学校の姿】
明るく楽しい学校 誰にも優しい学校 地域と共にある学校

【めざす子どもの姿】
<よい顔> 明るくあいさつする子
<よい汗> すすんで運動する子
<よい学び> 自ら学ぶ子

【めざす教師の姿】
○ 使命感をもって、教育にあたることのできる教師
○ 子どもの多様性を理解し、一人一人に寄り添うことのできる教師
○ 子どもの実態や社会の変化を的確に捉え、学びに生かす教師
○ 授業改善に向け検証と研修を重ね、実践的専門性を高める教師
○ 学校教育目標の具現化に資することができる教師

【組織目標】 自ら考え、深め、表現できる児童の育成

スローガン： 子どもが主語の学校づくり

豊かな心の育成

- ◇地域の特性を生かした体験活動による地域を知る、愛する心の育成
 - ・芸能 ひよっこ
 - ・栽培 米や地域の特産物
 - ・竹林整備による残渣の資源化
- ◇心の居場所となる学級経営の実現
- ◇教育相談の充実とチーム支援の確立
- ◇人権感覚を育むための適切な言語環境づくりを目指す読書活動の推進

【数値目標】

- ・自分たちでルールを考え、進んで守る 85%
- ・年間50冊以上読書する 90%

確かな学力の育成

- ◇授業スタイル「きみはらスタンダード」の実践
 - ・課題提示の工夫
 - ・10のユニバーサルデザインの授業行為の実践
 - ・適用練習15分、振り返り5分の確保
- ◇一人一人の学びに合わせた指導の個別化と学習の個性化の確立
 - ・授業改善を「学習者の視点」と「授業者の視点」から図る
- ◇専属 ALT と外国語専科を生かした外国語によるコミュニケーションの充実

【数値目標】

- ・授業がよく分かる 85%
- ・自校の授業スタイルを常に意識し、実践する教師 100%

健やかな体の育成

- ◇低・中・高ブロックによる楽しく、運動量の多い体育授業の展開 (AI スマートコーチの導入)
- ◇地域と連携した魅力ある体育的行事の実践
- ◇交通ルールなど、日々の危機管理意識の高揚
- ◇自己管理能力を高めるための指導
- ◇食育、健康教育の充実
- ◇望ましい生活習慣の確立のための家庭との協働

【数値目標】

- ・外遊びや体育的行事に積極的に参加している 90%
- ・交通ルールを守る 100%

コミュニティ・スクールの充実・発展

- ・地域とともにある学校としての情報発信や学校公開
- ・関係機関との連携による地域づくり

働き方改革の推進

- ・個別最適な教師の学びの実現
- ・ウェルビーイングの追究

小規模特認校として、活力ある学校を目指し、特性を発揮するよう努めます。



令和7年度 阿見町立舟島小学校 グランドデザイン

やさしい子 たくましい子 かしこい子

本県の教育目標

- ・ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう
- ・じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う
- ・郷土を愛し 協力しあう心を育てる

めざす児童像

- ・自ら考え、進んで学ぶ子
- ・目標をもって、体をきたえる子【やれば できる】
- ・役割を自覚し進んで働く子【はい！よろこんで】
- ・自分の思いを表現し、相手のことを理解できるコミュニケーション力のある子
- ・思いやりの心を持ち、互いに認め合い協力する子

学校教育目標

互いに認め合い適切に依存し合って、自分の力で立ち上がり進むふなっ子の育成

学校経営の理念

【学校にかかわるすべての人が笑顔になる学校】

- ◎舟島応援団を活用した体験活動の充実
- ◎キーワード「じりつ」～自分の力で立ち上がり進む
自分の改善点を直し良いところを伸ばす 適切に依存し合う
- ◎合言葉「やれば できる」 失敗を恐れず何でも挑戦
「はい！よろこんで」人のために学校のために動く

組織目標 【やれば できる】を実感できる授業、学習の機会をしかける

【はい！よろこんで】と言動できる環境をつくり、自己有用感を育成する

教職員のしかけが児童のハレの場となり、児童が「じりつ」に向かう学校づくり

阿見町学校教育目標

生きる力を育む
教育の推進

学校教育指導方針

一人一人が輝く
活力ある学校づくり

授業スタンダード推進

めざす教師像

- ・子供と信頼関係が構築できる教師
- ・使命感と誇りをもち常に学び続ける教師
- ・指導力と実践力のある教師

【研究テーマ】 児童の伝え合う力を育む授業づくり

～国語科における聴く力を高める発問・指示の工夫～

【かしこさ】プロジェクト 研究主任・特別活動主任・図書館主任・教育課程

★ミッション 確かな学力を育む（授業力向上）

- 1 「阿見町の授業スタンダード」の充実（課題提示の工夫、学習内容の振り返り・適用練習時間の定着）
- 2 新聞を教材とした授業実践（NIE）（書く力・情報活用能力の育成）（思考力・判断力・表現力の育成）
- 3 <くぐんぐん>テストの実施 月第2水曜日【漢字】第4水曜日【計算】（基礎的・基本的な知識及び技能の定着・学びの楽しさの実感）
- 4 UDの視点による学習の個性化（授業・教室環境等UDの構造化、ユニバーサルデザイン授業10の原則の実施）

☆評価

- ①児童アンケート「授業がわかる」（79%→85%）保護者アンケート「子どもは授業を理解している」（71%→80%）
- ②NIE（Newspaper in Education）を活用した授業実践（学期1回以上）
- ③外部講師による授業改善研修の実施「ユニバーサルデザインについての研修の実施（学期1回以上）、授業力向上研修（年5回）
- ④<くぐんぐん>テスト一回目の合格90点以上、
- ⑤一人一研公開授業の実施（全教員の実施）

じりつ

【やさしさ】プロジェクト

生徒指導主事・道徳主任・特別支援CN・人権福祉主任

★ミッション 豊かな心を育む

- 1 所属感・自己有用感が感じられる学級経営の充実（コグトレの実施・毎月行うあいさつ運動・不登校児童への支援）
- 2 係活動・委員会・児童会活動における自治的活動の推進（クラス会議・学級会活動・児童会立ち上げによる児童集会）
- 3 あいさつの励行（明るく・いつでも・先に・続ける）

☆評価

- ①児童アンケート「学校が楽しい」（87%→90%）
- ②話し合い活動の月間テーマを設定と計画的な実施（月1回）
- ③児童集会の実施（学期1回）
- ④あいさつ運動の実施（月1回）

【たくましさ】プロジェクト

保健主事・体育主任・食育給食主任・環境清掃

★ミッション 健やかな体を育む

- 1 命を大切にし、より良い自分をつくる指導の充実（自己管理能力の育成）・外部講師を招いた命の授業の実施
- 2 自ら身を守る力の育成（自己防衛能力の育成）
各種避難訓練、教職員研修の実施
- 3 外遊びの奨励（課題解決型のクラス遊び・業間体育の実施）
異学年交流やクラス遊び・業間休み遊びの実施
- 4 目標をもち基礎体力を高める（個別伸長型プログラムの実施）
体育各種目での自己評価カード（体力テスト得点分布表の可視化）

☆評価

- ①命の授業の実施（年間1回以上）
- ②「各種安全教室（薬物・交通安全・情報）・避難訓練の実施」（学期1回以上）
- ③児童アンケート実施「体を動かして遊ぶことが好き」（86%→93%）
- ④体力テストA+B（49%→50%）

「コミュニティー・スクール（チーム舟島小）」プロジェクト

★ミッション：地域とともにある学校づくり

保護者・地域

- 1 地域人材・各種団体等との情報・行動連携との連携による「学校運営協議会」の実施
- 2 舟島応援団の活用促進

☆評価

- ① 学校評価「学校では保護者・地域とともに育む学校づくりに努めていますか」（88%→90%）
- ② 舟島応援団登録者（100名以上）

教職員

- 1 プロジェクトチームによる校内業務の工夫（RPDCAサイクルを機能させたプロジェクト会議との定期開催 ICTの活用による校務の効率化）
- 2 「3ない運動+2」を徹底するコンプライアンス推進委員によるボトムアップ型研修とヒアリングスピーチ（毎月）

☆評価

- ① プロジェクト会議による業務査定と業務改善の補填（年5回・時間外勤務月45時間以内 80%→100%）
- ② 学校事故「ゼロ」



笑顔と活気（やる気）にあふれる学校

めざす学校像

- ・「わかった」「できた」が飛び交う学校
- ・「認め合い・信頼」でつながれた学校
- ・「安心・安全」に包まれた学校
- ・教師が働く喜びを感じる学校

めざす児童像

- あ：あいさつが自然にできる子
- み：みんなを思いやる子
- い：今、一瞬を大切にできる子
- ち：力強く生き抜く子

めざす教師像

- ・愛情をもって子供に寄り添う教師
- ・明るく専門職としての力量がある教師
- ・互いに高め合う教師

阿見町教育振興基本計画
学びあい 支えあい
心を育む人づくり

阿見町学校教育指導方針
一人一人が輝く活力ある
学校づくり

組織目標

- 「わかった」「できた」を実感できる授業づくり
- 認め合い 支え合い 高め合う学級づくり

確かな学力の育成

●協働的に学び合う授業づくり

- ・対話することで、考えを広め・深める学習展開の工夫
- ・自ら学ぶ力を育成する探究的に学ぶ指導計画の工夫
- ・学力の定着を確かなものとする適応練習や振り返りの時間の確保
- ・一部教科担任制の導入
- ・学習規律の徹底



豊かな心の育成

●一人一人が認められ、生かされる学年・学級経営

- ・活躍の場を与え、自己有用感を高める学級経営（働き者の育成）
- ・互いのよさを認め合い、支え合い、高め合う学級経営（寛容な心の育成）
- ・あいさつや返事などの礼節を重んじる学級経営（社会性の育成）
- ・目的を明確にし、児童が考え行動する児童会活動・学校行事（活力の醸成）
- ・自分のこととして「考え、議論する」道徳授業（道徳的実践意欲の育成）



健やかな体の育成

●自ら体を鍛え、粘り強く頑張る子を育む健康教育

- ・安全教育・防災教育の充実（危機回避能力・自己管理能力の育成）
- ・目標に向かって取り組める体育授業
- ・保健教育の充実（基本的な生活習慣・衛生習慣の確立）
- ・体力テスト結果の分析と活用
- ・交通ルールやマナーの継続的指導



共に学び高め合う教師集団

- ・研究テーマ「探究的な学びを通して、自ら学ぶ力を身に付けることのできる児童の育成」
- ・授業力の向上に努める授業研究、OJT研修の推進
- ・充実した教育活動に注力するための働き方改革の推進

特色ある学校づくり

- ・コミュニティ・スクールの推進
- ・地域の人材を生かした学校づくりの展開（環境整備、読み聞かせ、英語ボランティア）
- ・おやじクラブによる体験活動、父親の教育への参加



令和7年度 阿見町立阿見第二小学校 グランドデザイン

やさしく
かしこく
たくましく

本県教育の目標

ひとりひとりの能力を開発し豊かな人間性をつちかう

じょうぶな身体をつくりたくましい心を養う

郷土を愛し協力しあう心を育てる

【本校の教育目標】

主体的に学び 心やさしくたくましい児童を育てる

【学校経営のテーマ】

児童・教師・保護者・地域が互いに信頼し合える学校づくり

○教職員がチームとなって、子どもの学びと育ちを支援できる学校づくり

○教職員・保護者・地域が子どもたちのために思いを語り、協働できる学校づくり

【めざす学校像】

「子どもも先生も元気で活力ある学校」「子供の居場所となる学校」

阿見町教育の基本理念

学びあい 支えあい
心を育む人づくり

- 確かな学びを育む
- 豊かな心と健やかな体を育む
- 時代の変化に対応する能力を育む
- 多様な連携でまちの教育力を高める
- 安全で安心して学べる教育環境を創る

児童

- ㊦ あいさつは自分から元気よく
- ㊧ 耳を傾け、話をしっかりと聞く
- ㊨ だまって掃除を黙々と
- ㊩ いつも本気でチャレンジ
- ㊪ にこにこ言葉でみんな笑顔

元気・本気・思いやり

【組織目標】

- 探究的な学びを通して、「わかった・できた」喜びを味わえる授業づくり
- 児童に活躍の場をつくり、認め合うことで自己有用感を育む教育活動の充実

教職員

- ☆活力に満ち、笑顔で子どもたちと接することができる
- ☆子どもたちとともに学び、成長する(教師の資質向上)
- ☆本気で考え、「チーム二小」として、仲間の分まで走る
- ☆子どもたちの「思い」や「自分らしさ」を大切に
- ☆働き方や学校運営について、改革意識をもち、実践する

やさしく【かかわりの中で】

- 温かい人間関係を基盤とした学級づくり
 - ・互いを認め合い、励まし合い、支え合うことで自己有用感を育む学級経営
- 居場所づくりと絆づくりへの支援
- 人権意識の高揚(自分も他の人も大切にすること。違いを大切にすること。)
- いじめの未然防止と早期発見、不登校改善を目指した児童支援
- 委員会活動、係活動、学級遊び、縦割班活動の工夫・充実(主体性の育成)
- 無言清掃活動の継続指導

【数値目標】

・学校生活は楽しい	88%
・自分から進んであいさつができる	92%
・にこにこ言葉を使うことができる	92%
・学校には自分の居場所がある	90%
・自分みんなの役に立っている	80%
・自分や周りの人を大切に	90%

かしこく【楽しい授業づくり】

- 主体的・対話的で深い学びを実現するための指導過程の工夫と改善
- ・阿見町授業スタンダードの推進
- ・探究的な学びの充実
 - ・試行錯誤、アウトプット、まとめと振り返り
- ・ICT機器の効果的活用
- 自分の考えを伝え合う活動の日常化
- ユニバーサルデザインによる授業展開
- 読書活動の推進、学校図書館の積極的活用
- 家庭学習の意欲付けと習慣化
 - ・学び方を身に付ける指導、手引きの活用

【数値目標】

・授業が楽しい	85%
・授業で「わかった・できた」喜びを味わうことができた	92%
・進んで自分の考えを伝え合う	85%
・進んで読書をする	85%
・目標をもって家庭学習に取り組んだ	85%

たくましく【伸びよう鍛えよう】

- 基本的生活習慣を確立する指導
 - ・早寝 早起き 朝ご飯の奨励 立腰教育
- 学校内外での安全な生活の確保
 - ・養護教諭や外部講師による専門的指導
- 健康・安全に関する自己管理能力の育成
- 運動量を確保した体育授業の充実
 - ・実態に応じた教材や教具の工夫
- 休み時間の外遊びの奨励
- 体育科学習における ICT の効果的活用
- 体力アップ推進プランの改善・充実
- SOS の出し方に関する指導

【数値目標】

・早寝 早起き 朝ご飯	85%
・立腰を心がけた生活	90%
・休み時間の外遊び	83%
・体力テストA+B	55%
・安全な登下校を心がけた	95%
・困ったときに相談できる	90%

家庭・地域との連携・協働による地域とともにある学校づくり



- コミュニティ・スクール【学校運営協議会】の推進
 - ・保護者や地域の方への感謝の心【ありがとうの会】
 - ・児童と地域の方がともに活動する機会の充実
 - ・地域の人材活用、学習支援を積極的に推進
- 特別支援教育の充実
- 教職員のコンプライアンス意識の強化【些事を大切に】
- 例年通りからの脱却(ねらいを踏まえた上での実践)
- 幼児教育と小学校教育の円滑な接続(保幼小の連携)



児童が通いたくなる 保護者が通わせたい 地域が支えたい学校を目指して



茨城県学校教育指導方針
すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり

阿見町学校教育指導の方針
子どもも教師も元気な学校
子どもも教師も伸びる学校

本校の教育目標
安全で、笑顔あふれる、元気な学校

協働 明朗 元気

学校像

- できないことができるようになる学校
- 自分の良さを伸ばせる学校
- 安全で安心できる学校

児童像

- 皆と共に進んで学習する子
- 明るく思いやりのある子
- 元気でたくましく、がんばれる子

教師像

- 人間性豊かで子どもに寄り添える教師
- 明るく健康で指導力のある教師
- 資質・能力の向上に努める教師

子どもが主役! 魅力ある学校づくり!

確かな学力の育成

- 「学びに向かう態度」の育成
 - ・興味関心、見通し、振り返り、次につなげる授業の展開
 - ・多様な活動ときめ細やかな指導
- 「自ら学ぶ力」の育成
 - ・課題発見、知識経験からの追究
 - ・自ら考え、目標達成への学び
- 「あさひスタイル」の確立
 - ・「阿見町の授業スタンダード」「探究的な学び」の推進
 - ・個別最適化を図る場の工夫

心の教育の充実

- 「自己肯定感」の育成
 - ・個々の良さを伸ばす場の設定
 - ・所属感がもてる学級学年づくり
- 「自己有用感」の育成
 - ・共感的な人間関係づくり
 - ・児童が主語となる活動の工夫
- 「自己指導能力」の育成
 - ・時と場に応じて適切に考え、判断し、行動できる態度の育成
 - ・自己決定の場の位置づけ
 - ・教え、支え、見守る体制づくり

健康・安全教育の充実

- 「基本的生活習慣」の確立
 - ・早寝・早起き・朝ごはんの指導
 - ・健康安全への自己管理能力の育成
- 「体力向上・運動習慣」の確立
 - ・補強運動、感覚づくり運動の実施
 - ・授業、休み時間での運動量の確保
- 「健康な心身」の醸成
 - ・アレルギー、感染症対策の徹底
 - ・SOSの出し方に関する指導
 - ・生命の安全教育の推進
 - ・保護者の理解促進と相互連携

【数値目標】

・あさひスタイルの実践	100%
・授業中の主体的な態度	90%
・探究的な学習活動	80%
・授業の満足度	90%
・学習内容の定着	90%
・読書量 年間50冊以上	90%
・家庭学習への取組	90%

【数値目標】

・自己肯定感の向上	90%
・自己有用感の向上	90%
・自己指導能力の向上	80%
・自らあいさつをする姿勢	90%
・学級活動への真剣な取組	90%
・自己決定の場の位置づけ	80%
・教育相談体制の充実	100%

【数値目標】

・早寝早起き朝ごはん定着	100%
・健康や安全を意識して生活	100%
・体力テスト(A+B)	40%
・SOSの出し方の理解	100%
・生命の安全教育の実施	100%
・要治療箇所の受診	90%
・アレルギー、感染症対策	100%

組織目標 : 認め合い、支え合い、互いの成長に向けて学び続ける児童の育成

〈校内で〉

- ・授業づくり・授業評価の充実
- ・学び合い、高め合う研修体制
- ・教員評価・人事評価の充実
- ・「働きがい」「自分磨き」を可能にする働き方の推進
- ・ウェルビーイングの実現

質の高い教育を実現する環境づくり

- 人的環境～教育は「人」・自らを高めることから～
「自分磨き」による資質能力の向上と高め合う集団づくり
- 物的環境～社会の変化・子どもの実態と多様性に対応して～
「令和の日本型学校教育」「教育DX・生成AI」への取組
- 地域、家庭環境～地域に開かれ地域と共にある学校～
「理解・信頼・共有・協働」「4S・4C」による学校運営

〈校外へ〉

- ・地域に開かれ、地域と共にある学校づくり
- ・学校評価結果を踏まえた運営
- ・数値目標の設定と評価の公表
- ・積極的な情報発信・情報収集
- ・関係諸機関との連携協力

令和7年度 阿見町立阿見中学校グランドデザイン

【本県の教育目標】
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し 協力しあう心を育てる

本校の教育目標
**心豊かでやる気に満ちた
実力のある生徒を育てる**

【阿見町の教育方針基本理念】
「学びあい 支えあい
心を育む人づくり」
【阿見町の学校教育目標】
「生きる力を育む
教育の推進」



校訓 【勤勉 至誠 剛健】



- 目指す生徒像
- 1 自ら学び、自ら考える、意欲のある生徒
 - 2 心豊かで気品のある生徒
 - 3 礼儀正しく、親切で思いやりのある生徒
 - 4 郷土を愛し、自分に誇りをもつ生徒
 - 5 心身共に健康でたくましい生徒



【令和7年度スローガン】



SHINKAし続ける阿見中PRIDE
～誰もがSHINKAを実感できる学校～

経営の基盤となる学校観

- 学校はできなかったことができるようになる場所である。
- 生涯にわたって夢を追い続けられる資質や能力を育てることが中学校の責務である。

経営の基盤となる教師観

- 一人一人の良さを見い出し、伸ばすことが教師の使命である。
- 教師はどんな時も子供を後押しする立場にあらねばならない。

【3つのSHINKA】(キーワード)
「進化」「深化」「真価」
Evolution Deepening Worth

- 組織目標
- 授業改善を通して、自ら考え、判断し、表現する力を高める。
 - 生徒主体の活動を活性化させ、自己有用感、自己肯定感を高める。
- 本年度の重点
- 「あったかタイム」を取り入れた探究的な学びの充実
 - 生徒の発想や意見を活かした自発的、自治的な活動の充実
 - 思いやりの心を育み、望ましい人間関係の構築に努める

勤勉 (知育)
自らの夢や目的の実現に向けて、主体的に学ぶ態度や能力を育成する。

至誠 (徳育)
自他を尊重し、全体のために力を発揮しようとする心情や態度を育成する。

剛健 (体育)
生涯にわたって活力のある生活を営むための体力や自己管理能力を育成する。

具体的施策

- 1 阿見町の授業スタンダードの定着
 - ・「課題提示の工夫」
 - ・「身につけた学習内容の振り返り」
 - ・「適用練習時間の確保」
 - 2 1人1台端末 (ICT) の効果的な活用等による探究的な学び、協働的な学びの充実
 - 3 「あったかタイム」を取り入れた考え、議論する道德等の校内研修を通じた授業力の向上 (相互授業参観)
- 【数値目標】
- 1 授業の振り返りを自分の言葉で記録している生徒**85%以上 (83.9)**
 - 2 授業がわかりやすいと感じている生徒**92%以上 (91.0)**
 - 3 授業には自分の意見や考えをもって取り組んでいる生徒**90%以上 (87.5)**

- 1 生徒主体の創造的な活動を展開する。
 - ・生徒会や各種実行委員会、学年中央委員会における活動の充実
 - ・自治的・主体的な学校行事の推進
 - 2 学校スローガンや生徒会スローガンを柱とした活動の充実
 - ・「SHINKAし続ける阿見中プライド」「誰もがSHINKAを実感できる学校を」
 - 3 一人一人を大切に学級経営・学年経営の充実 (絆と居場所づくり)
- 【数値目標】
- 1 生徒会や係の活動等に積極的に取り組んでいる生徒**93%以上 (91.7)**
 - 2 阿見中の一員としての誇りをもって生活している生徒**90%以上 (89.7)**
 - 3 学校は落ち着いた過ごしやすい環境になっていると回答した生徒**88%以上 (86.8)**

- 1 生徒の思いを活かした、魅力ある体育的行事、部活動の充実に努める。
 - 2 養護教諭やSC、SSW、不登校対策指導員等を有効に活用した相談体制の充実を図る。
 - 3 健康・安全に関する教育の推進と実践
 - ・生徒参加型の学習会、講演会の実施・感染症対策の徹底と日常化
 - ・交通安全指導、SNSによるトラブル防止のための指導等を通して、自他の命を大切に心の教育の充実
- 【数値目標】
- 1 学校や学年の行事にすすんで参加している生徒**95%以上 (94.0)**
 - 2 悩みを相談できる教師がいる生徒**90%以上 (87.8)**
 - 3 体力テスト(A+B)-(D+E) **48%以上 (60.77 - 12.86 = 47.91)**

※ () 内は昨年度末の数値

☆働き方改革のさらなる進化 (時間外在校時間: 月45時間以内 年間360時間以内の達成をめざす)

<校訓> 至誠 博愛 錬磨

<茨城県教育目標>
ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう
じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う
郷土を愛し
協力しあう心を育てる

<学校教育目標>
豊かな心を持ち、
たくましく生きる生徒の育成

<阿見町教育基本理念>
学びあい 支えあい
心を育む人づくり
「現在（いま）をみる
未来をつくる」

<目指す生徒像>
「知・徳・体」と「品性」を身に付けた生徒
○自ら考え主体的に活動する生徒 ○自他を大切にし協働して活動する生徒
○心身ともに健康で明るく前向きな生徒

みんなが輝く朝日中

<挑戦と信念>

組織目標

- 「楽しく学びのある授業」を通じて主体的・対話的に学ぶ生徒を育てる。
- 自他を大切に、適切な人間関係を築き、集団に貢献する生徒を育てる。
- 心身ともにたくましい生徒を育てる。
- 使命感と情熱に満ちた教師を育てる。

確かな学力

- ・「楽しく学びのある授業」の視点からの授業づくり
 - ・校内研修の充実による授業力向上
 - ・阿見町の授業スタンダードの推進
 - ・ICTを有効活用した分かる授業の展開
 - ・基礎基本の定着と家庭学習の習慣化
- <指標>
- ☆授業に積極的に取り組む 90%
 - ☆学習内容が理解できる 85%
 - ☆進んで家庭学習に取り組む 85%
 - ★ICTを有効に活用している 95%

豊かな心

- ・「受容と共感」、「支援教育」を基本にした生徒と教職員の心のつながりづくり、信頼関係づくりの推進
 - ・「考え、議論する道徳」の授業を核とした心の教育の推進
 - ・規範意識、奉仕の精神、マナーの向上
 - ・主体的活動を中心とした生徒会活動の推進
 - ・Dルームを通じた心の居場所づくり
- <指標>
- ☆人に優しくしている 90%
 - ☆自他を大切にしている 90%
 - ☆道徳の授業に前向きである 90%

健やかな体

- ・教育活動全体を通じた健康・安全に関する教育の推進(感染症対策の継続)
 - ・運動・スポーツの習慣化が図れる体育の授業・体育的行事の工夫改善
 - ・望ましい生活習慣の形成
 - ・個に応じた対応及び支援の充実
- <指標>
- ☆交通ルールを守る 100%
 - ☆規則正しい生活をしている 90%
 - ☆体育や運動に前向きである 95%
 - ☆物事に粘り強く取組んでいる 90%

環境整備

- よりよい教育環境づくりに努める。
 - ・働き方改革推進委員会を中心とした働き方改革の更なる推進
 - ・安全管理体制の確立
 - ・校内施設、設備の点検整備
 - ・学習環境の整備
 - ・環境教育の推進
- <指標>
- ☆清掃活動に積極的に取り組む 95%
 - ★安全な環境作りをしている 100%
 - ★教室等の学習環境が整っている 100%
 - ★タスクマネジメントを進めている 90%

研修

- 研修テーマ『主体的・対話的に学ぶ生徒の育成』～確かな学力の向上を図る～
 - 令和7年度の重点
 - 学習課題の工夫
 - 生徒の主体的な課題設定と問題解決
 - 対話的な学び
 - ICT機器の効果的な活用
- <指標>
- ★阿見町授業Sの有効実践 90%
 - ★ICTを有効に活用している 95%

連携

- 家庭・地域社会・関係機関との連携を図り、開かれた学校づくりに努める。
 - ・「受容と共感」を礎にした相手の立場に立った寄り添った対応
 - ・各便りHP等による積極的な情報の発信
 - ・家庭、地域社会、関係機関等との連携
- <指標>
- ◇便りやHPで学校の様子を伝えている 95%
 - ◇教員や学校は相談しやすい 100%
 - ☆地域の方に挨拶ができる 90%
 - ★保護者や地域の声に丁寧に対応している 100%

「受容」と「共感」

相手（生徒・保護者・地域・同僚）の立場に立った寄り添った対応

信頼される学校

- ～「朝日中でよかった」と思えるように～
- 「わかる・できる・楽しい授業」が実践される学校
 - 達成感ある行事、充実感ある部活動が実践される学校
 - 信頼できる人間関係づくりが実践される学校

支援的教育の推進
個性・特性への理解
寄り添った関わり

信頼される教師

- ～「先生と出会えてよかった」と思えるように～
- 人間性豊かで、高い使命感をもった教師
 - 生徒に寄り添い、多様性が理解できる教師
 - 生徒の実態や社会変化を捉えた授業改善ができる教師
 - 高い道徳心と法令遵守意識をもつ教師



令和7年度 阿見町立竹来中学校グランドデザイン

《茨城県の教育目標》

ひとりひとりの能力を開発し
豊かな人間性をつちかう

じょうぶな身体をつくり
たくましい心を養う

郷土を愛し
協力しあう心を育てる

＜校訓＞ 自主・創造・協和

＜本校の教育目標＞
主体的でたくましい、心豊かな生徒の育成

《阿見町の教育基本理念》

学びあい 支えあい 心を育む
人づくり

○未来を拓き生きる力を育てる
教育の推進

○豊かな心と健やかな体の育成

○社会全体での教育力の向上

○安心・快適で質の高い教育環
境の創造

子どもも教師も元気な学校
子どもも教師も伸びる学校

学校経営の重点

- 学ぶ楽しさを体感できる授業づくり
- 心の居場所となる学年・学級づくり
- 教員の資質能力の向上
- 安全・安心な学校づくり
- 働き方改革の一層の推進

＜目指す生徒像＞

正しく 【真】
たくましく 【健】
美しく 【美】

生徒も教師も
輝く学校

＜目指す学校像＞

- 一人一人が大切にされる学校
- 安全で楽しく充実した学校
- 地域とともに歩む学校



継承 × 進化
～さらにTAKAKU もっとTAKAKU～



正しく 【真】

自ら学び、確かな学力のある
生徒

- 1 「阿見町の授業スタンダード」
の推進
 - ・課題提示の工夫
 - ・身に付けた学習内容の振り返り
 - ・適用練習の時間の確保
- 2 基礎的・基本的な知識・技能
を習得させる指導の工夫
- 3 思考力・判断力・表現力を育
む指導の工夫
- 4 家庭学習の充実

【数値目標】()は前年度実績

- ・「学校が楽しい」 90% (85%)
- ・「授業がわかる」 80% (73%)
- ・「授業が楽しい」 90% (83%)
- ・「目的に沿った家庭学習」 80% (68%)

たくましく 【健】

自分を見つめ、自らを高めよう
とする生徒

- 1 自己の目標達成のための努力を
継続させる指導の工夫
- 2 意欲と体力を向上させる指導の
工夫
- 3 命を大切にし、自ら健康づくり
が実践できる指導の工夫

【数値目標】()は前年度実績

- ・「体力向上に向けて努力できた」 85% (76%)
- ・「交通ルールが守れた」 100% (93%)
- ・「自分の体や命を大切にできた」 100% (89%)
- ・「朝食を食べている」 95% (91%)

美しく 【美】

自分を律し、他を思いやって
行動できる生徒

- 1 他を思いやり、「気働き」がで
きる指導の工夫
- 2 互いのよさを認めあい、自分
のよさを発揮できる学級・学校づ
くり
- 3 心に響く道徳教育の充実

【数値目標】()は前年度実績

- ・「進んで仕事に取り組んだ」 90% (84%)
- ・「地域の方へのあいさつ」 95% (92%)
- ・「心を磨く黙黙の実践」 95% (91%)
- ・「心で聴く3Sの実践」 95% (91%)
- ・「気働きを心がけた行動」 95% (91%)
- ・「友達の良さを認めた行動」 95% (94%)

使命感と情熱に満ちた教師

- 1 生徒と共に積極的に諸活動に取り組むことができる教師
- 2 自ら資質・能力の向上を目指し、努力する教師
- 3 生徒に寄り添い、よさを引き出し、伸ばそうとする教師
- 4 働き方改革を推進し、ゆとりある勤務時間の創出を図りながら、生徒と真剣に向き合うことができる教師

魅力があり信頼される学校

- 1 学校よさ、生徒よさを積極的に発信（各種通信、HP、学校行事等の活用）
- 2 学校評議員会の充実と学校評価の活用
- 3 家庭や地域、関係機関等との双方向性のある連携
- 4 RPDCA サイクルによる指導の工夫・改善

研究主題

自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童の育成
 —一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導を通して—

阿見第一小学校 職員一同

1 主題設定の理由

人工知能、ビックデータ等の先端技術の高度化に伴い、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっている。このような時代の中で、子供たちは自分のよさや可能性を認識し、他者を尊重し、多様な人々と協働する力が求められている。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編」では、「子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、（中略）『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが求められる。」と示されている。また、主体的・対話的で深い学びの実現において、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（令和3年1月）（以下、「令和の日本型学校教育」と述べる。）では、「授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元する」と示されている。子供たちが急激に変化する時代を生き抜くためには、授業の中で各教科等において知識・技能を習得し、それらを活用して他者に表現したり、子供同士の対話や先哲の考えを手掛かりに考えることで、試行錯誤を繰り返しながら自分の考えを広げ、深めたりする力が求められる。これらのことから、児童が協働的に学び合うことのできる学級づくりと授業づくりを両輪として捉え、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合うことができる児童を育成することが大切であると考えた。

表1のとおり、本校は全国学力・学習状況調査（算数科）の平均正答率を確認すると、例年、全国平均正答率と比べて低い。

表1 全国学力・学習状況調査

（令和4年度 実施人数 64人 R4.4.19実施、令和5年度 実施人数 59人 R5.4.18実施、令和6年度 実施人数 50人 R6.4.18実施）

	平均正答率			知識・技能 平均正答率			思考力・判断力・表現力 平均正答率		
	本校	全国	比較	本校	全国	比較	本校	全国	比較
令和4年度	58.0	63.3	-5.3	63.2	68.2	-5.0	51.1	56.7	-5.6
令和5年度	57.0	62.5	-5.5	61.4	67.2	-5.8	51.6	56.5	-4.9
令和6年度	57.0	63.4	-6.4	64.9	72.8	-7.9	46.0	51.4	-5.4

次に、質問紙の項目で、肯定的な回答をしている児童の割合を分析したところ、「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の設問では92.0%（全国比+5.4%）、「友達関係に満足していますか。」の設問では94%（全国比+1.9%）、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」の設問では86%（全国比-5.6%）であった。これらのことから、算数の知識・技能の定着とそれらの活用に課題があるため、友達と協力して課題解決に取り組む中で、友達の思いや考えを受け入れることができるようにすることが必要であると考えられる。つまり、児童が「孤立した学び」に陥ることなく自分の考えや気持ちを素直に伝え合うことで、知識及び技能の習得や活用することの喜び、充実感を味わうことができるよう支援していくことが求められている。そこで、一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導を通して、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童の育成を目指したいと考えた。

2 研究のねらい

一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導を通して、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童の育成を究明する。

3 研究の仮説

- (1) 学校生活全般において一人一人が認められる学級づくりを行えば、児童が心理的安全性を感じながら、自分の考えや気持ちを話すことができるようになり、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童を育成することにつながるであろう。
- (2) 算数科学習指導において、児童が分からないことを質問したり、自分の考えを伝え合ったりする場を設ければ、数学的に表現し、伝え合うようになり、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童を育成することができるであろう。

4 研究の内容

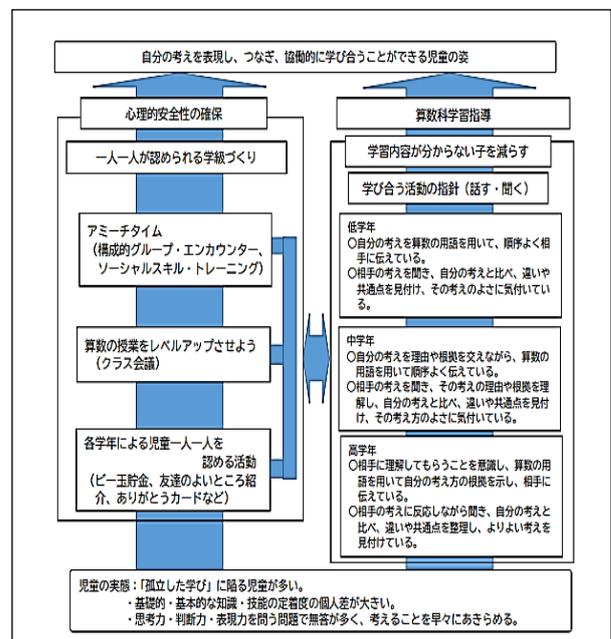
(1) 基本的な考え方

ア 「自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う」とは

算数科において、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合うためには、「数学的に表現すること」と「数学的に伝え合うこと」の2つの側面が必要であると考え。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編」（以下「解説」と述べる。）によると、数学的に表現することについて、「言葉による表現とともに、図、数、式、表、グラフといった数学的な表現の方法を用いること」と示されている。一方、数学的に伝え合うことについて、「解説」では、「事柄の根拠や前提から導かれる結果を説明する等、他者を想定したコミュニケーション」と示されている。また、表現力の育成に関して、宮本(2015)は「注目したいのが、授業の中で子どもが思わず発するつぶやき」と述べている。これらのことから、相手意識をもって、図や式等といった数学的な表現で伝え合うだけでなく、学習過程における子どもの気付き、疑問に思ったことや学びから得た驚きや発見も児童の表現の中に含まれていることが考えられる。

協働的に学び合うことについて、その類義語として、協働学習、協同学習、協働的な学びと多様な表現がある。加固(2023)によると、「それらに共通していえるのは、『他者と一緒に問題に取り組む学習活動』という点」と捉えた上で、「問題を自分事と捉え、その問題を解決するために、柔軟にまわりの人と関わる学び」と述べている。そして、「令和の日本型学校教育」では、協働的に学び合うことを通して「同じ空間で時間を共にすることで、お互いの感性や考え方等に触れ刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要がある。」と示されている。さらに、協働的に学び合うことの効果として、「解説」では「自分の考えや集団としての考えが広がったり深まったりすることの楽しさ、自分の説明で友達が分かってくれた楽しさ、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に捉えることの楽しさ」があると示されている。これらのことから、「自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う」ことを「他者と適切に関わりながら児童が数学的に表現し合ったり、疑問に思ったことや学びから得た驚きや発見を共有したりして協働的に学び合い、課題を解決すること」と捉えた。

図1 本研究の構造図



イ 「一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導」とは

一人一人が認められる学級づくりの根底にあるものはよりよい人間関係の形成と心理的安全性のある教室であると考えます。「小学校学習指導要領（平成29年告示）特別活動解説編」では、よりよい人間関係の形成を図る上で大切な資質・能力として、「学級や学校において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活することのよさや大切さを理解すること」と示されている。また、エドモンドソン(2021)は心理的安全性を「みんなが気兼ねなく意見を述べることができ、自分らしくいられる文化」と定義づけた上で、「チームに心理的安全性があることで、学習行動の際にしばしば伴われる困惑や脅威をもたらす行動への、他者の反応に関して、過度の懸念を軽減することで、チームでの学習行動を促進するはずである。」と述べている。つまり、教師が自身の発言や反論、指摘により、児童相互の人間関係が悪化することのない雰囲気をつくる必要がある。これらのことから、「自分の考えや気持ちを表現するとともに、互いの長所も短所も含め、ありのままの姿を受け入れ合うことのできる学級づくり」と捉えた。

このように、基本的な考え方に記載したア、イの内容を踏まえて、本研究では、前頁の図1に示した研究構造図に基づき、一人一人が認められる学級づくりと算数科学習指導を両輪として捉え、研究を進めていく。

(2) 主題に迫るために

ア 児童の実態

表2は、主題に関する実態調査の結果である。1年生は算数の授業を始めて間もないため、アンケートを7月に行った。質問①から③の項目を分析すると、どの項目においても、70%以上の児童が肯定的な回答をしていた。しかし、質問②の項目を見ると、4と回答した児童が17%いることが分かった。児童が新しい学級で生活していく中で、知らないことを恥ずかしいと感じてしまい、「分からない。」と伝えることが難しい児童、すでに学習内容が分かっているために「分からない。」と伝える必要性を感じていない児童、友達の考えを理解したものの、何をどのように質問したらよいのかが難しいと捉えている児童が多いためであろうと考えた。

これらのことから、児童が「分からない。」と言ったり、質問したりすることができるようにするためには、児童相互、児童と教師の対話の機会を意図的に設定したり、考えを伝え合い、お互いの考えを積極的に取り入れていくことにより、話しやすい雰囲気をつくったりすることが必要であると考えた。

表2 主題に関する実態調査

(2年から6年 254人 R6.5.7実施、1年 42人 R6.7.12実施 計 296人)

1 あてはまる 2 どちらかといえば、あてはまる 3 どちらかといえば、あてはまらない
4 あてはまらない

質問項目／評価	1	2	3	4
①自分の考えを算数の言葉を使って、友達に伝えることができますか。	36.4%	40.4%	15.0%	8.2%
肯定的（否定的）回答割合の合計	76.8%		23.2%	
②授業で分からないことがあった時に、「分からない。」と言ったり、質問したりしていますか。	43.7%	27.8%	11.5%	17.0%
肯定的（否定的）回答割合の合計	71.5%		28.5%	
③学級で自分の考えや気持ちを学級の友達や先生に率直に話すことができますか。	42.2%	36.8%	12.2%	8.8%
肯定的（否定的）回答割合の合計	79.0%		21.0%	

イ 「自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童の育成」について

自分の考えを表現することは、協働的に学び合うための第一歩である。盛山(2021)は「子どもは基本的に結果しか言いません。自分が考えてきたプロセスや理由・根拠を自ら示す子どもは少ないのです。だから、教師が問うという姿勢が大切だと思います。」と述べている。よって、児童の表現を問い返すことにより、曖昧だった考えを明

確にし、児童の考えの深まりを図ることができる。そして、加固(2023)は協働的な学びは「自立した学習者を育てるため」にあると述べている。そのために、授業の中で、ただ単に友達の考えを聞くだけではなく、目的をもって友達の考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりすることが求められている。このような経験を通して、誰とでも関わる力を養い、適度に依存することができるようになる。

そこで、本研究では児童の実態と「解説」を参照しながら、表3に示したとおり、発達段階に即して「算数科学び合う活動の指針」を作成し、目指す児童の姿を共有し、それに基づいた授業を行う。そして、表4のように、誰とでも関わる力を身に付けるための声かけを適宜行うことにより、児童が授業で分からないことに遭遇した時、「分からない。」と自ら言ったり、質問したりすることができるような雰囲気をつくり、児童の「孤立した学び」を防ぐ。さらに、児童の表現に対して根拠やよさを問うことで、自分の考えが伝わった楽しさや自分や集団の考えが広がったり、深まったりすることの楽しさを味わうことができるようにする。

ウ 「一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導」について

(ア) 週1回、10分間の短時間グループアプローチ(アミーチャイム)の全校実施

曾山(2019)は『かかわりの力』の構成要素である『自尊感情』『ソーシャルスキル』を育むことで、ストレス反応の軽減、すなわち学校不適応の予防・改善を図ることができるのではないかと述べており、併せて「関わる体験の場を意図的・日常的に用意すること」とも述べている。また、赤坂(2018)は「学級がまとまるためには、気の合う人以外の人たちとつながることが必要」と述べている。これらのことから、本研究では児童が協働的に学び合う活動を円滑に進められるようにするために、ソーシャルスキル・トレーニングと構成的グループ・エンカウンターから構成される10分間の短時間グループアプローチを行う。この時間は、週時程の中に位置づけられており、「アミーチャイム」と名付けた。この取組は教師の経験年数や力量によらず、誰もが「ルール提示→モデリング→演習→振り返り」という型に沿って進めるもので、持続可能な取組である。この取組を通して、共感的な話の聞き方や自尊感情の高揚を図り、算数科学習指導につなげられるようにする。

(イ) 児童一人一人を認める活動の実践

大前(2023)は心理的安全性を確保するためには、「①相手の主張に耳を傾け、理解するよう努める。(相手の考えを尊重する、相手の頑張りを認める、相手の立場を尊重する。)②話を聞いた後で、自分の主張を言う。反論や違う意見、問題点の指摘も行う。③自分の主張の後には、相手の主張に耳を傾け、理解するよう努める。」が必要であると述べている。つまり、チームで対話させる際の行動規範を共有し、学級に浸透さ

表3 算数科学び合う活動の指針

	考える(自力解決)	話す(学び合う活動)	聞く(学び合う活動)	振り返り
低学年	課題に対する自分の考えを見直しをもとにもち、図や表、数直線や式などを用いてノートに表現している。(ノート)	自分の考えを算数の用語を用いて、順序よく相手に伝えている。(ペア活動)(話し合い)	相手の考えを聞き、自分の考えと比べ、違いや共通点を見付け、その考え方のよさに気付いている。(ペア活動)(話し合い)	分かったことなどを先生やみんなと一緒に確かめながら振り返っている。(発表)(振り返りシート)
中学年	課題に対する自分の考えを見直しをもとにもち、図や表、数直線や式などを用いて、理由や根拠を交えながらノートに順序よく表現している。(ノート)	自分の考えを理由や根拠を交えながら、算数の用語を用いて順序よく伝えている。(ペア活動)(グループ活動)(話し合い)	相手の考えを聞き、その考えの理由や根拠を理解し、自分の考えと比べ、違いや共通点を見付け、その考え方のよさに気付いている。(ペア活動)(グループ活動)(話し合い)	身に付けた算数の用語を用いて、自分の言葉で表現している。(発表)(ノート)(振り返りシート)
高学年	既習事項を活用して課題に対する自分の考えを見直し、図や表、数直線や数直線、式による計算などを用いて、理由や根拠を交えながら、考え方が相手に分かるようにノートに表現している。(ノート)	相手に理解してもらうことを意識し、算数の用語を用いて自分の考え方の根拠を示し、相手に伝えている。(ペア活動)(グループ活動)(話し合い)	相手の考えに反応しながら聞き、自分の考えと比べ、相違点や共通点を整理し、よりよい考えを見付けている。(ペア活動)(グループ活動)(話し合い)	本時の目標に即して活動を振り返り、学び得たことを算数の用語を活用して、自分なりにまとめている。(発表)(ノート)(振り返りシート)

表4 誰とでも関わる力を身に付ける教師の声かけ

- (1) 「最初の問題は、まずは自分で考えてみよう。」
- (2) 「問題が解けたら、まわりの人と解き方を見比べて同じところや違うところを見付けて、共通する考え方を見付けてみよう。」
- (3) 「自分で分からなかったら、周りの人と一緒に考えてみよう。」
- (4) 「最初の問題が解けたら、解けた問題を解いてみたい、気になったことを調べたりしてみよう。」

せることが大切であると捉えた。また、赤坂(2018)は、「学級集団作りの目的は、子ども集団を課題解決集団に育てること。」と述べている。そのために、「①方向性、②関係性、③役割・ルール」を示したり、ゴールを学級で共有したりし、それらを踏まえて児童の具体的な行動や考えを認めることが重要であると考え。よって、学年の実態に応じて「算数の授業をレベルアップしよう」というテーマで学級会を開いて振り返りをしたり、学校生活全般において児童一人一人を認める活動を取り入れたりして、児童が心理的安全性を感じることができるようにする。

5 研究の実際

(1) 算数科授業実践及び抽出児童の記録

一人一人が認められる学級づくりと並行して、算数科の授業実践を行った。以下の実践は第1学年、第5学年の実践である。1回目の成果と課題を踏まえ、2回目は学年の実態に応じた手立てを講じたことで、協働的に学び合う姿が一段と見られるようになった。具体的には、第1学年は、6月はタブレットを使うことに集中し、会話が途絶えてしまった。その後、児童が周りの人と関わることができるようにし、様々な児童との交流を繰り返すことで、11月には自信をもって自分の考えを伝えることができた。第5学年は、6月は「分からない。」と言うことはできるが、協働して課題解決するまでには至らないことがあった。その後、対話の間隔を短くし、友達の考えを理解する機会をもつことで、11月には自分の考えと友達の考えを比べながら聞き、友達の考えのよさを知り、よりよい考えを見付けようとすることができた。なお、波線部は学年の実態に応じた手立て、ゴシック文字は研究主題に関わる児童の姿を示したものである。

ア 第1学年の実践

「たしざん(1)」(7時間扱いのうち、第4時間目) 6月26日実施

学習活動	全体の様子	抽出児童E1の様子
目標：増加の場面でも、加法の式に表して答えを求めることができる。 ⑥ ふえるといくつはどのようにあわせるかな。 ・「ふえるといくつ」をブロック、図、数の線、式で表す。 ・「あわせていくつ」と「ふえるといくつ」を比べて、違いや共通点について話し合う。 ⑦ ふえるといくつもたしざんになる。	・タブレットを持ち歩きながら、児童同士で考えを比べ合い、確認し合うことで、間違いに気づき、修正することができていた。 ・タブレットを活用して、様々な表し方で足し算の場面を式で表すことができていた。 ・何に注目して、違いや共通点を比べればよいか分からなくなっていた。	・ペア活動の際には、自分から積極的に話しかけていた。 ・「ふえるといくつ」のブロックの動きをしっかりと説明できていたが、図で表現する時に、2つの矢印が互いに向き合う形になり、「あわせて」の表現になっていた。 ・友達に分かりやすく自分の考えを伝えることができていた。 ・友達と確認し合いながら、修正することができていた。 ・違いや共通点を比べる話し合いでは、何を比べればよいか分からず、首をかき上げていた。

「たしざん(2)」の授業の様子(8時間扱いのうち、第4時間目) 11月22日実施

学習活動	全体の様子	抽出児童E1の様子
目標：被加数がより小さい加法の計算の仕方を10に注目して考えることができる。 ⑥ どうしたらかんたんにけいさんできるのかな。 ・10のまとまりに着目して、和が10より大きい数になる加法の簡単な計算の仕方を考える。 ・ <u>いつでも周りの人と一緒に考えながら課題解決をできるようにする</u> ⑦ ふえるといくつもたしざんになる。	・さくらんぼ計算がある程度身に付いている児童が多く、右の数字を分けて、ノートに書いている児童が多く、自力解決ができていた。 ・ヒントを参考にしたり、友達と相談し合ったりしながら、一生懸命考え、協働的に学ぶ姿が見られた。 ・友達の考えと自分の考えを比べることのできる児童がいた。	・説明の仕方が丁寧で、順序もよく、分かりやすい。さらに、話型以外にも必要な言葉を選びながら、自分の言葉で説明ができていた。 ・他のやり方で課題を解決する時には、まず自分でじっくりと考え、その考えを整理してから、友達に相談したり、共有したりした。自分で、段階を踏んで学習することができた。 ・練習問題では、最初は加数分解で解いていたが、その下に、本時の計算の仕方を使って解く姿も見られ、学びへの意欲を感じることができた。

資料1 「たしざん(1)」抽出児童E1の発話プロトコル(E2、E3は児童、Tは教師)

T : 「どんなふうになった？」

E 1 : 「私は図で考えました。車がはじめに3台ありました。そのあと2台来ました。答えは5台です。」
 E 2 : 「私は…。」
 (E 1 と E 2 はタブレットを使うことに集中していたため、ペアでの会話が途絶えた。その後、近くにいた E 3 と活動した。)
 E 1 : 「私は図で考えました。車がはじめに3台ありました。そのあと、2台来ました。答えは5台です。」
 E 3 : 「私は数の線で考えました。」
 (その後、説明しようとしたが、時間切れになってしまったため、E 1 は残念そうな顔をしていた。)

資料2 「たしざん(2)」抽出児童 E 1 の発話プロトコル (E 4、E 5 は児童、T は教師)

E 4 : 「説明します。」
 E 1 : 「はい。」
 E 4 : 「6 を 4 と 2 に分けて、そして、8 に 2 個足して、10 にして残った 4 を足すと、14 です。どうですか。」 (E 1 は自分が書いたノートを隠し、E 4 の顔をじっと見て、説明を聞いていた。)
 E 1 : 「まる。説明します。」
 E 4 : 「はい。」
 E 1 : 「まず、6 から 2 と 4 に分けます。そして、8 に 2 個足して、10 にします。そして、あまった 4 を合わせて 14 です。どうですか。」
 E 4 : 「まる。」
 E 1 と E 4 : 「ありがとう。」
 (E 1 は E 5 のもとへ行った。足取りが軽かった。)
 E 1 と E 5 : 「じゃんけんぼん。あいこでしょ。あいこでしょ。」
 (あいこが多くなるにつれ、E 1 と E 5 の顔の表情が明るくなった。)
 E 1 : 「説明します。」
 E 5 : 「はい。」
 E 1 : 「まず、6 を 4 と 2 に分けます。そして、8 に 2 個足して、10 にします。そして、あまった 4 を合わせて 14 です。どうですか。」
 E 5 : 「まる。説明します。」
 (その後、上記のようなやり取りを 3 回行った。たくさんの友達と関わろうとする姿が見られた。)
 ※ 「まる。」… 「合っているよ。」 「正解だよ。」 という意味。

イ 第 5 学年の実践

「合同な図形」(10 時間扱いのうち、第 8 時間目) 6 月 26 日実施

学習活動	全体の様子	抽出児童 F 1 の様子
目標：三角形や四角形の内角の和を基にして、五角形の内角の和を求めたり、説明したりすることができる。 ② 五角形の内角の和を求め、説明したりする。 ③ 五角形の内角の和は、三角形や四角形に分けて計算すれば求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力しながら問題を解いたが、五角形の内角の和を求めるまでには至らなかった。 教師の補助発問により、三角形や四角形の内角の和を用いて計算で求められることに気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> はじめは分度器を使って五角形の内角の和を求めようとするが、対角線を引くと、三角形を作ることができることに気付いた。途中までの考えを友達に伝える準備ができた。 グループ活動では、課題解決に向けて協力し合いながら、話し合いを進めていた。 先生が紹介した友達の考えを聞いて分かったことを、周りの友達に説明したり、聞いたりすることができた。 友達から教えてもらったところ、五角形を三角形や四角形に分けて考えるとよい、ということを振り返りで書いていた。

「面積」(8 時間扱いのうち、第 4 時間目) 11 月 22 日実施

学習活動	全体の様子	抽出児童 F 1 の様子
目標：既習の図形の面積の求め方を基にして、台形の面積の求め方を説明することができる。 ② 台形の面積はどのようにすれば求められるのだろうか。 ・既習の面積の求め方を想起し、台形の面積を求める。 ・対話の間隔を短くし、友達の考えのよさに気付いたり、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点から、よりよい考えを見付けたりする。 ③ 五角形の内角の和は、三角形や四角形に分けて計算すれば求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動では、互いの考えを比べながら話し合いを進めることができた。途中までの考えであっても、相談し合いながら式や答えを求めようとしていた。 友達の説明で分からないところがあった場合、「どういうこと。」と質問しながら話し合う姿が見られた。 アミーチャタイムで培った技能を授業の中で取り入れることで、学びを整理し、深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 台形を三角形と平行四辺形に分け、自分の考えをノートに書くことができ、安堵の表情を見せた。 グループ活動では、うなずきや相づちを入れて友達の考えを聞いていた。 友達の疑問に対して式の意味や図形との関連性を一緒に考え、グループ全体の理解を深めることができた。 2つの三角形に分けた考え方では、グループの友達とタブレットで図形を動かしながら式を考えようと話し合ったが、答えを導くまでには至らなかった。しかし、全体共有で、友達の説明を聞いて理解しようと努めている姿が見られた。

資料3 「合同な図形」抽出児童F1の発話プロトコル（F2、F3は同じグループの児童、Tは教師）

F2：「こうやって分けて考えたけど、式が分からなかった。」



F1：「私も同じ。」

（グループ内が課題解決に困惑している様子であった。）

F2：「角度を測ったけど…。式が分からなかったよ。」

F3：「三角形が3つできて、四角形が1つできたね。」

（困っていたところ、教師が支援に加わる。）

T：「今、誰が発表しているの。」

F2：「今ここまで発表したけど…。式が分からないよ。」

T：「三角形の3つの角の大きさはいくつだけ。」

F2：「180度。」

T：「それが3つってことは…。」

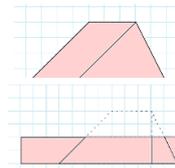
F1：「180×3。」

（即座に答えを導くことができた。その後、五角形の内角の和を求め続けていた。）

資料4 「面積」抽出児童F1の発話プロトコル（F4、F5、F6は同じグループの児童、Tは教師）

F1：「平行四辺形と三角形に分けてみたよ。平行四辺形は、底辺が3で高さが4だから、 3×4 で、12になる。三角形は、ここの底辺が6で高さが4だから、 $6 \times 4 \div 2$ で12になった。それで、最後に $12 + 12$ で24 cm^2 になったよ。」

（ノートを見せて、自分の考えをすぐに発表した。右の図のように分けた図を自信をもって見せた。）



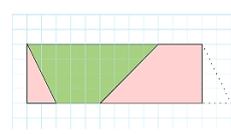
F4：「ここを切って、こんな風に長方形にして、 $12 \times 2 = 24$ 。」

（F4も自信をもってタブレット操作をして右の図にし、課題解決の過程を分かりやすく説明した。）

F1：「おー。すごい分け方。」

（F1は発想豊かに図形を分けるF4の考えに驚き、称賛する様子が見られた。）

F5：「僕はこうやって、（タブレットを見せながら）長方形にして、2つにしたから2でわって、24 cm^2 になった。」



F6：「長方形にして、 4×24 で、 $\div 2$ するの。」

F1：「 $\div 2$ するよね。」

F4：「するよ！2倍になっちゃってるから。」

F6：「あ、そっか。」

F4：「おれも同じやり方だけど。」

（タブレットを見せながらグループの友達に説明した。）

F6：「だから、そうか。あ、助かったわ。」

(2) 「一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導」の実践

ア 短時間グループアプローチ（アミーチャタイム）の実施及び抽出及び児童の記録

毎週火曜日の朝の10分間、全校一斉にアミーチャタイムを行った。以下の実践は、第3学年、第6学年のアミーチャタイムの取組である。はじめは会話が弾まず、質問が出にくいことがあった。しかし、回数を重ねる度に、会話や質疑応答が活発になり、相手意識をもって話したり聞いたりすることができるようになった。第3学年は、ソーシャルスキルを意識した話し方や聞き方、相づちや頷きなどの反応ができるようになった。第6学年は、会話が終始途絶えることなく進み、自己理解、他者理解をすることができるようになった。なお、ゴシック文字は研究主題に関わる児童の姿を示したものである。

(ア) 第3学年、第6学年 アミーチャタイムの様子

日付	主な活動 その後の生活		抽出児童A1（第3学年）	抽出児童B1（第6学年）
11/12	(第3学年) 質問 じゃんけん (第6学年) 二者択一	・児童の様子、表情 ・児童の発言と友達の反応	・友達との活動を楽しんで行っていた。 ・話をしたい思いが非常に強く、相手の話を終わりまで聞くことが難しく、途中で口を挟むことがあった。	・何をすればよいのか理解できているので、すぐに活動を始めた。 ・ペアで活動する友達は日常生活でも仲がよい友達だったので、終始積極的に発言し、会話が途切れることはなかった。
		・シェアリング	・「相手を見て話を聞くこと、相手の話に反応することができた。」と話していた。	・「お互いのことをよく知ることができた。」と話していて、満足そうであった。

11/26	いいところ 四面鏡	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の様子、表情 ・児童の発言と友達の反応 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を確認し、円滑な活動ができた。 ・笑顔でワークシートに記入し、相手のことを想像しているのが印象的だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のカードを見て、迷いなく丸を付けていた。 ・自分の感想を話す時には戸惑う様子を見せたが、少しずつモチベーションを高めながら活動することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・シェアリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には意外とよいところがあることが分かり、びっくりした。」と話していた。自分のよさを見てくれていることに気付くことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分のよいところを見つけてもらえてうれしい。」といった内容のことを話していて、お礼も言っていた。
	その後 の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の行動 ・授業の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ・分かったことやできたことを実感した時には、大きな声で「なるほど」とつぶやく場面が見られた。 ・算数の練習問題の解き方についてどちらの解き方が簡単か友達と見付けていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの授業でも話合いに積極的に関わる姿が見られた。 ・同じグループの他の友達の発言に反応し、自分の考えを話していた。 ・学習時間の後半に集中力が途切れ、話合い活動をするのに疲れてしまうこともあった。

資料5 エクササイズ「質問じゃんけん」 抽出児童A1の発話プロトコルの抜粋（A2はペアで活動した児童）

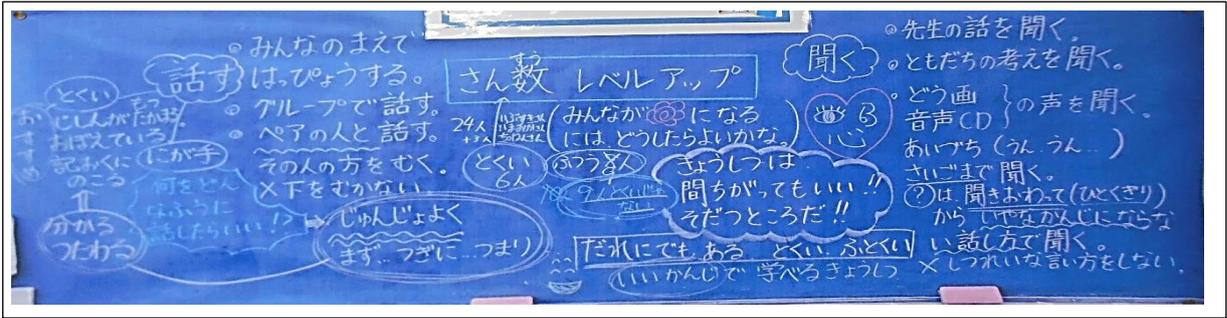
A2:「私の好きな教科は、体育です。」
 (A1はニコニコしながら相手の顔を見て、話を聞いていた。)
 A1:「僕もそう。体育。」
 A2:「教科が一緒だね。詳しい理由は後で聞こう。」
 (好きな教科が同じであることに、うれしそうな顔をしている様子が見られた。)
 A1:「そうだね、じゃんけんしよう。」
 (A1とA2は声を合わせて友達の指に注目しながらじゃんけんを楽しんだ。)
 A1とA2:「最初はグー、じゃんけん、ぽん。」
 A2:「好きなおにぎりの具は何ですか?」
 A1:「僕はしゃけです。Bさんはどうですか。」
 A2:「私は梅干しです。さすがに一緒じゃなかったね。」
 A1:「そうだね、次のやつやろう。」
 (A1とA2は黒板に掲示されている話題を一緒に確認しながら活動を進めていた。)

資料6 エクササイズ「二者択一」 抽出児童B1の発話プロトコルの抜粋（B2はペアで活動した児童）

(2人で「夏休み」と「冬休み」のどちらがいいか、の話題を見た。)
 B1とB2:「じゃんけん、ぽん。」
 B1:「僕は夏休みの方が好きです。理由は長いし、海に行って遊ぶことができるからです。」
 B2:「僕も夏休みが好きです。理由は冬休みはやることないし、お正月で半分つぶれてしまうからです。」
 (2人で「おにぎり」と「サンドイッチ」のどちらがいいか、の話題を見た。)
 B1とB2:「じゃんけん、ぽん。」
 B1:「僕はおにぎりがいいです。」
 (間髪を入れずに、B2が質問をした。)
 B2:「なんで。」
 B1:「しょっぱくておいしい。」
 B2:「それにいろいろあるしね。」
 (B2がB1の意見を共感的に受け止めたことで、会話がさらに弾んだ。)
 B2:「俺は、サンドイッチがいいな。ビタミンがとれるから、集中力がつく。」
 B1:「(おにぎりの飲み物は)お茶の方がビタミンがとれるから、集中力がつく。お米も集中力がつく。」
 B2:「それ、科学的に証明されているの。サンドイッチの方が集中力がつくよ。」
 (その後、険悪な雰囲気は特に見られず、かけ合いのように会話が進んでいった。)

(イ) 児童一人一人を認める活動の実践

5月に「算数の授業をレベルアップしよう。」というテーマで学級会を開いた。学年の実態に応じて話し合う観点を決め、算数の授業で大切にしたいことについて児童が意見を述べた。学級会を行うことで、算数の授業への児童の思いを知ることができた。そして、話し合った結果を資料7のような掲示物にして教室の側面に貼った。そして、7月、11月に振り返りを行った。児童からは、「うなずいたり相づちを打ったりするのが好きで、相手も気持ちよく話しているのを感じた。」「いかに分かりやすく教えるか、考えるようになった。」等の感想が聞かれた。また、帰りの会では学級ごとに日直のよいところを紹介する場を設けた。場の設定を意図的に加えることで、誰もが認められる機会をもつことができた。学級会や児童一人一人を認める活動を通して、考えを比較することや助けを求める雰囲気をつくることができるようになった。以下の実践は、第2学年、第4学年の抽出児童、当該学級担任への聞き取りをまとめたものである。なお、ゴシック文字は研究主題に関わる児童の姿を示したものである。



第2学年、第4学年 抽出児童への聞き取り、アンケート、当該学級担任の見立て

質問項目	抽出児童C1 (第2学年) C2からC4は同じ学級の児童	抽出児童D1 (第4学年) D2、D3は同じ学級の児童
①②④ 児童への聞き取り ③ 授業アンケートの内容 ⑤ その後の生活の様子 (当該学級担任の見取り)		
① 帰りの会、友達からどんなことを褒められたか。	<ul style="list-style-type: none"> C2さんから、朝の会の仕事を大きな声で頑張っていた、と言われた。 授業の時に頑張って書いていたことを褒められた。 	<ul style="list-style-type: none"> D2さんから、算数の分からない問題を教えてくれてありがとう、と言われた。 友達に「ありがとう」と言われるのが当たり前のようになっていて、覚えていない。
② 友達のどんなよいところを紹介したのか。	<ul style="list-style-type: none"> C3さんに授業の時に先生の話をしっかり聞いていたことを紹介した。 C4さんに先生が黒板に書いたことをしっかりとノートに記録していたことを紹介した。 	<ul style="list-style-type: none"> 小数のわり算を勉強しているけれど、D3さんが分かりやすく教えてくれたことを紹介した。
③ 友達と学び合って自分が感じたことや考えたこと、成長したと思えるところはどんなところか。	<ul style="list-style-type: none"> ちょっとだけ友達と自分の考えを比べられたこと、自分の考え方や式の表し方で自分が成長したと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考えを聞いてみて、分かりやすいと感じることがある。 暗算が速くなった。
④ 4月のころと比べて学級の雰囲気がどのように変わっているのか。	<ul style="list-style-type: none"> みんなが力を合わせて活動する機会が多いからか、先生や友達に質問することが増えている。 先生が悪いことをしっかりとってくれるから、悪口や暴力が減っているように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 雰囲気はいいけれど、なかよしタイムの時にドッジボールやサッカーをしていると、つかみあいのけんかがあって、けんかで時間がつぶれてしまうのが嫌である。
⑤ その後の生活の様子	<ul style="list-style-type: none"> 友達に優しく声かけすることが増えた。困っている友達に声をかけ、困っていることを聞き出そうとする姿が見られた。 おとなしい性格であるが、善悪の判断を付けて生活している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のことで分からないことがあった場合、進んで近くの友達に助けを求めることができる。 友達から信頼を受けていることが分かっているため、自信をもって生活している姿が見られる。

(4) 分析と考察

ア 算数科授業実践の成果と課題

表5 主題に関する実態調査(1年から6年 296人 R6.11.25実施)

1 あてはまる 2 どちらかといえば、あてはまる 3 どちらかといえば、あてはまらない
4 あてはまらない

質問項目/評価	1		2		3		4	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
① 自分の考えを算数の言葉を使って、友達に伝えることができますか。	36.4%	36.6% (+0.2%)	40.4%	37.2% (-3.2%)	15.0%	19.4% (+4.4%)	8.2%	6.8% (-1.4%)
肯定的(否定的)回答割合合計	事前: 76.8%/事後: 73.8%(-3.0%)				事前: 23.2%/事後: 26.2%(+3.0%)			
② 授業で分からないことがあったら、「分からない。」と言ったり、質問したりしていますか。	43.7%	39.8% (-3.9%)	27.8%	41.6% (+13.8%)	11.5%	10.0% (-1.5%)	17.0%	8.6% (-8.4%)
肯定的(否定的)回答割合合計	事前: 71.5%/事後: 81.4%(+9.9%)				事前: 28.5%/事後: 18.6%(-9.9%)			

表5は主題に関する実態調査の結果である。質問①の項目では1、2と回答した児童の割合は減少しているが、質問②の項目では、1、2と回答した児童の割合は飛躍的に伸びた。授業の記述式アンケートの内容の主な内訳を見ると、質問①では、「かけ算（わり算）ができるようになった。」、「筆算が速くなった。」、「図形の面積が求められるようになった。」等の知識・技能の成長に関する記述が全体の約27%と最も多く、「全体の前で発表することができた。」、「友達に自分の考えを伝えることができた。」等の表現に関する記述が全体の約13.3%、「考えを比べ、様々な考えを知ることができた。」のような数学的な見方・考え方に関する記述が全体の約9.2%であり、依然として、知識・技能の成長に目を向けている児童が多い。また、中には「説明が上手に伝わらないと、友達に伝えることができていない。」と言っている児童もいるため、数値の伸びには至っていない。

一方、質問②では「友達に教える時に、質問されることが増えた。」、「分からないことがあったら友達や先生に聞くとよい。」等の感想が見られた。例えば、算数の授業では、「僕はかけ算九九が分からないんだ。」と教室に響き渡る声で訴える児童、グループ活動で「これって、どういうことなの。」と自然と質問する児童、質問の答えを解釈して、「なるほど。」とうなずき、反応を示す児童がいた。さらに、全体共有の場面で友達の多様な考えを取り上げ、その都度、友達の考え方について話し合う機会を設けることで、対話の機会を増やしている学年も見られた。このように児童相互が協働的に学び合う中で、授業で「分からない。」と言ったり、質問したりすることは大切であると感じている児童が増えたと考えられる。

これらのことから、児童は他者と適切に関わりながら児童が数学的に表現し合ったり、疑問や学びから得た驚きや発見を共有したりして協働的に学び合い、課題を解決しようと努めているが、学力の向上には時間がかかるため、教師の授業力向上を引き続き目指していく必要がある。

イ 「一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導」の成果と課題

表6 主題に関する実態調査（1年から6年 296人 R6.11.25実施）

1 あてはまる 2 どちらかといえばあてはまる 3 どちらかといえば、あてはまらない
4 あてはまらない

質問項目／評価	1		2		3		4	
	事前	事後	事前	事後	事前	事後	事前	事後
③学級で自分の考えや気持ちを学級の友達や先生に率直に話すことができますか。	42.2%	35.8% (-6.4%)	36.8%	43.6% (+6.8%)	12.2%	11.8% (-0.4%)	8.8%	8.6% (-0.2%)
肯定的（否定的）回答割合合計	事前：79.0%/事後：79.4% (+0.4%)				事前：21.0%/事後：20.4% (-0.6%)			

表6は主題に関する実態調査の変容である。質問③の項目では、1、2と回答した児童の割合が事前と比較して0.4ポイント高くなった。アミーチタイムの記述式アンケートの内容を確認すると、低学年では「まだ話したことの無い友達とも話ができるから楽しい。」、「質問タイムの時に緊張感がなくなった。」、「いろいろな友達と話をすることで安心できる。」、「ペアが変わるたびにどんなことが好きなのかな、と思い、わくわくする。」等の回答が得られた。一方、高学年では、「友達のことを知ることができて楽しい。」、「話し方や聞き方がよくなった。」、「授業の中でもアミーチタイムでやったことが意識できる。」、「朝、モヤモヤしている自分の心がリセットされる。」等の回答が得られた。

よって、低学年ではコミュニケーションをとることで得られる安心感や楽しさ、高学年ではアミーチタイムを繰り返し行うことで得られるソーシャルスキル、他者理解の促進、心の健康を図ることができたと考えられる。一方、児童を認める活動の実践では、学級担任が児童の学級生活の様子を確認したところ、友達から優しさがあるところを認められたことで、授業中に友達に声をかけて教え合うことができるようになった児童、友達に親切であることを認められたことで、配慮が必要な友達のサポートを主体的に行

う児童、友達によって認めている部分がそれぞれ違うことに気付いたことで、自分のよいところをたくさん見てくれていると話していた児童がいたことが分かった。

これらのことから、アミーチタイムと児童を認める活動の実践を通して、児童が次第に心を開くようになり、自分の考えや気持ちを率直に話すことができるようになったと考えられる。しかし、アミーチタイムがつまらないと感じている児童、日直のよいところの紹介だけでは、友達から認められる機会が少ないと感じている児童がいるのも現状である。今後は、持続可能な取組にするためにアップデートしていく必要がある。

ウ 抽出児童の変容

表7 抽出児童A1からF1の主題に関する実態調査

1 あてはまる 2 どちらかといえばあてはまる 3 どちらかといえば、あてはまらない
4 あてはまらない (数値の伸びが見られたところはゴシック体、減ったところは二重線で表記)

抽出児童	A1	B1	C1	D1	E1	F1
質問項目/評価 事前→事後()は増減	(3年)	(6年)	(2年)	(4年)	(1年)	(5年)
①自分の考えを算数の言葉を使って、友達に伝えることができますか。	2→2	1→ <u>2</u>	4→ 2	1→1	3→ 1	1→1
②授業で分からないことがあった時に、「分からない。」と言ったり、質問したりしていますか。	3→ 2	1→ <u>2</u>	4→ 2	2→2	3→ 2	1→1
③学級で自分の考えや気持ちを学級の友達や先生に率直に話すことができますか。	3→ 2	1→1	2→2	2→2	3→ 2	2→ 1

表7は抽出児童の変容を示したものである。数値の伸びが見られた児童、あまり変化が見られなかった児童等、様々な結果が得られた。

児童A1は算数の授業では、友達と協力して問題を解くことができた。課題解決の過程で友達の考えと比べながらその解決に取り組むこともできるが、自信をもって算数の言葉を使って友達に伝えることができるまでには至らなかった。授業の記述式アンケートに「算数の問題で少し間違えていないか心配になった。」と書いており、授業中に質問するようになった。また、友達と関わる中で自分の考えや気持ちを率直に話す機会が多いこともあり、質問②と③の数値の伸びが見られた。

児童B1は算数の授業では、図と式を関連付けて自分の解き方を積極的に説明する様子が見られたが、学習内容が難しくなったと実感しており、質問①の数値の維持は見られなかった。しかし、「学級は明るくて楽しいし、話しやすい雰囲気だ。」と言っており、質問③の数値の維持が見られた。

児童C1は算数の授業では、「自分の考えを友達に分かりやすく説明することを意識するようになった。あと、友達の考えと比べることもしている。」と話しており、質問①と質問②の数値の伸びが見られた。普段の学校生活では友達のよいところを発信したり、多くの友達と仲良く関わったりするようになってきているが、質問③の数値の伸びが見られなかった。

児童D1は算数の授業では、「自分の説明を聞いて分かっているような表情をしてくれるから安心している。」と話しており、質問①の数値の維持が見られた。また、普段の学校生活で、「自分の考えを話す時は納得してもらえ、自分の考えが上手に伝わらない時はサポートしてくれる。」とも話していたこともあり、質問③の数値の維持も見られた。

児童E1は算数の授業では、自分の考えをまとめてから友達に分かりやすく説明しようとし、多くの友達と意見の交流をすることで自信をもつことができ、質問①の数値の伸びが見られた。また、アミーチタイムの記述式アンケートでは、「安心して友達としゃべれるようになった。」と書いていることもあり、質問②③の数値の伸びも見られた。

児童F1は算数の授業では、課題解決に悩んでいる友達に対して、根気強く説明したり、友達からの質問に答えたりしている姿が見られ、質問①②ともに数値の維持が見られた。また、「学級の友達はみんな仲がいいし、4月の頃と比べて話しやすい雰囲気がある。」と言っていたこともあり、質問③の数値の伸びが見られた。

6 研究のまとめ

一人一人が認められる学級づくりを生かした算数科学習指導を通して、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童の育成を究明した結果、次のようなことが明らかになった。

- (1) 学校生活全般においてアミーチタイムや児童を認める活動の実践を通し、一人一人が認められる学級づくりを行うことで、児童が心理的安全性を感じることができ、自分の考えや気持ちを話すことができるようになるため、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童を育成するためには、有効な手段であった。
- (2) 算数科学習指導において、児童が分からないことを質問したり、自分の考えを伝え合ったりすることで、児童が数学的に表現し、伝え合うことができるようになるため、自分の考えを表現し、つなぎ、協働的に学び合う児童を育成するためには、有効な手段であった。

7 今後の課題

- (1) アミーチタイムがつまらないと感じている児童、日直のよいところの紹介だけでは友達から認められる機会が少ないと感じている児童もいることから、これらの取組に持続可能な工夫を加えていく必要がある。
- (2) 他教科の学習指導においても児童相互、児童と教師の対話の機会を意図的に設定したり、考えを伝え合い、お互いの考えを積極的に取り入れていったりすることも必要であるため、協働的に学び合う観点からの授業づくりを進めることが大切である。

《引用文献》

文部科学省	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編」	平成 29 年 7 月
中央教育審議会	『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」	令和 3 年 1 月
文部科学省	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編」	平成 29 年 7 月
エイミー・C・エドモンドソン著、野津智子訳、村瀬俊朗解説	「恐れのない組織」	英治出版 令和 3 年 2 月
宮本博規著	「算数学び合い授業スタートブック」	明治図書 平成 27 年 2 月
加固希支男著	「小学校算数『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」	明治図書 令和 5 年 10 月
文部科学省	「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）特別活動解説編」	平成 29 年 7 月
曾山和彦著	「誰でもできる！中 1 ギャップ解消法」	教育開発研究所 令和元年 4 月
赤坂真二著	「最高の学級づくりパーフェクトガイド」	明治図書 平成 30 年 2 月
大前暁政著	「心理的安全性と学級経営」	東洋館出版社 令和 5 年 2 月
盛山隆雄著	「思考と表現を深める算数の発問」	東洋館出版社 令和 3 年 3 月

IV 学校給食

目 次

1	施設概要	52
2	機 構	52
3	運 営	53
4	学校給食費の事務取扱について	55

1 施設概要

1 名称 阿見町立学校給食センター

2 施設場所 阿見町大字阿見5272番地 (TEL 887-1430 FAX 887-1421)

3 施設設備

(1) 昭和47年9月給食センター方式により給食開始

- ① 敷地面積 4,654 m²
- ② 建物面積 706 m² (鉄骨平屋)
- ③ 調理能力 5,000食

(2) 昭和55年5月1日現在 (施設増)

- ① 敷地面積 6,178 m² (内借地分 925 m²)
- ② 建物面積 1,166 m² (鉄骨平屋)
- ③ 調理能力 8,000食

(3) 平成3年3月20日現在 (施設増)

- ① 敷地面積 6,178 m² (内借地分 925 m²)
- ② 建物面積 1,225 m² (鉄骨平屋)
- ③ 調理能力 8,000食

(4) 平成9年4月1日現在 (施設増)

- ① 敷地面積 6,178 m² (内借地分 925 m²)
- ② 建物面積 1,225 m² (鉄骨平屋)
- ③ 調理能力 8,000食

(5) 平成25年3月29日 (施設改築竣工) (平成25年8月19日 稼働)

- ① 敷地面積 7,486 m²
- ② 建物面積 1階 2,115 m² 2階 776.8 m²
- ③ ボイラー能力 都市ガス及び蒸気ボイラー2 t/h×2台
- ④ 調理能力 5,000食

2 機構

1 設置及び運営に関する条例等

- (1) 阿見町立学校給食センターの設置、管理及び運営に関する条例
- (2) 阿見町立学校給食センター管理規則
- (3) 阿見町立学校給食費事務取扱規則 (以下「町取扱規則」)

2 阿見町立学校給食センター運営委員会

運営委員会の委員は22名以内をもって組織し、教育委員会が任命または委嘱する (委員の任期は2年)。

3 運 営

1 令和7年度 当初予算

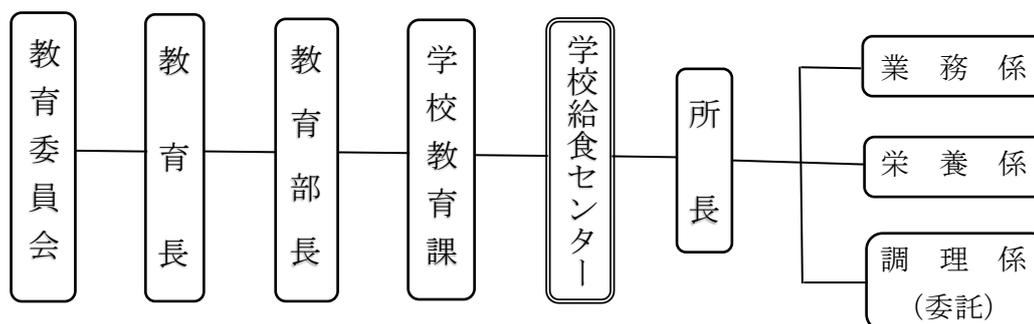
歳入予算

区 分	予算額(千円)	説 明
教育使用料	36	駐車場使用料
教育費雑入	119,372	学校給食分担金（小学校、教員分含む） 74,794
		学校給食分担金（中学校、教員分含む） 44,074
		学校給食分担金（過年度分） 427
		廃食用油売上代金 10
		電気使用料 67
教育債	13,200	給食センター改修事業債
合 計	132,608	

歳出予算

区 分	予算額 (千円)	比率 %	説 明
職員給与関係経費	34,771	7.1	給料、職員手当等、共済費
給食センター運営費	359,393	73.1	報酬、職員手当等、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、備品購入費、負担金
給食センター維持管理費	97,816	19.9	需用費、役務費、委託料、工事請負費
合 計	491,980	100.0	

2 学校給食センター運営組織図



3 給食形態

完全給食 小学校7校、中学校3校を実施

4 給食内容

(1) 完全給食 週5日制

2献立制（小、中学校別献立で実施）

給食内容

	月	火	水	木	金
小学校	米 飯	米 飯	めん・パン	米 飯	米 飯
中学校	米 飯	米 飯	めん・パン	米 飯	米 飯

(2) 供給予定日数

		期 間		日 数
学期別内	一 学 期	(小)	4月 8日 ~ 10月10日	98日
		(中)	4月 8日 ~ 10月10日	98日
	二 学 期	(小)	10月14日 ~ 3月18日	95日
		(中)	10月14日 ~ 3月18日	95日
学校給食日数				小学校 193日
				中学校 193日

(3) 「献立表」「給食だより」の配布

学校給食センターで作成し各家庭に配布。「献立表」で給食の献立内容を知らせるとともに、「給食だより」により栄養ニュース・食品紹介などを掲載し家庭の食生活改善にも努めている。

(4) 給食費の推移（月額 円）

改正年月日	小学校	中学校	改正年月日	小学校	中学校
昭47年9月1日	1,200	1,500	昭56年4月1日	3,200	3,600
昭49年4月1日	1,990	2,350	昭57年4月1日	3,300	3,700
昭50年4月1日	2,250	2,650	平元年4月1日	3,400	3,810
昭51年4月1日	2,500	2,900	平03年4月1日	3,700	4,120
昭52年4月1日	2,700	3,100	平09年4月1日	3,900	4,320
昭53年4月1日	2,900	3,300	平12年4月1日	4,100	4,550
昭55年4月1日	3,100	3,500			

※教職員等分は、令和7年4月1日から5,000円（それ以前は、中学校と同額）

(5) 給食供給人数

令和7年4月

区 分	児童生徒数	職員数	計	前年度同月比較
小 学 校	2,537人	247人	2,784人	-39人
中 学 校	1,146人	117人	1,263人	-22人
計	3,683人	364人	4,047人	-61人

4 学校給食費の事務取扱について

1 学校給食費徴収月額、年額及び1食当たりの基準額（町取扱規則第5条）

区 分	月 額	年 額	1食当たりの基準額
小学校児童	4,100円	4,100円×11月分=45,100円	230円
中学校生徒	4,550円	4,550円×11月分=50,050円	250円
教職員等	5,000円	5,000円×11月分=55,000円	280円

2 日割計算者及び計算方法、計算例

(1) 日割計算者

- ① 町取扱規則第5条第2項に規定する児童生徒・教職員等が該当（給食の提供を受けない日が5日以上（学校休業日を除く）継続するとき、勤務を要する日が週4日以下の教職員等、中学3年生の3月分など）
- ② 事前に給食停止届出書を学校給食センターに提出し、承諾を受ける必要あり（勤務を要する日が週4日以下の教職員等、中学3年生の3月分は除く）

(2) 計算方法

徴収額計算方法	1食当たりの基準額×給食提供日数=徴収額
---------	----------------------

(3) 計算例

転校等で5日間のみ給食の提供を受けた場合	小学校児童	230円×5日=1,150円
	中学校生徒	250円×5日=1,250円
	教職員等	280円×5日=1,400円

※日割計算した額が月額を上回るときは、月額で徴収。

V 生涯学習

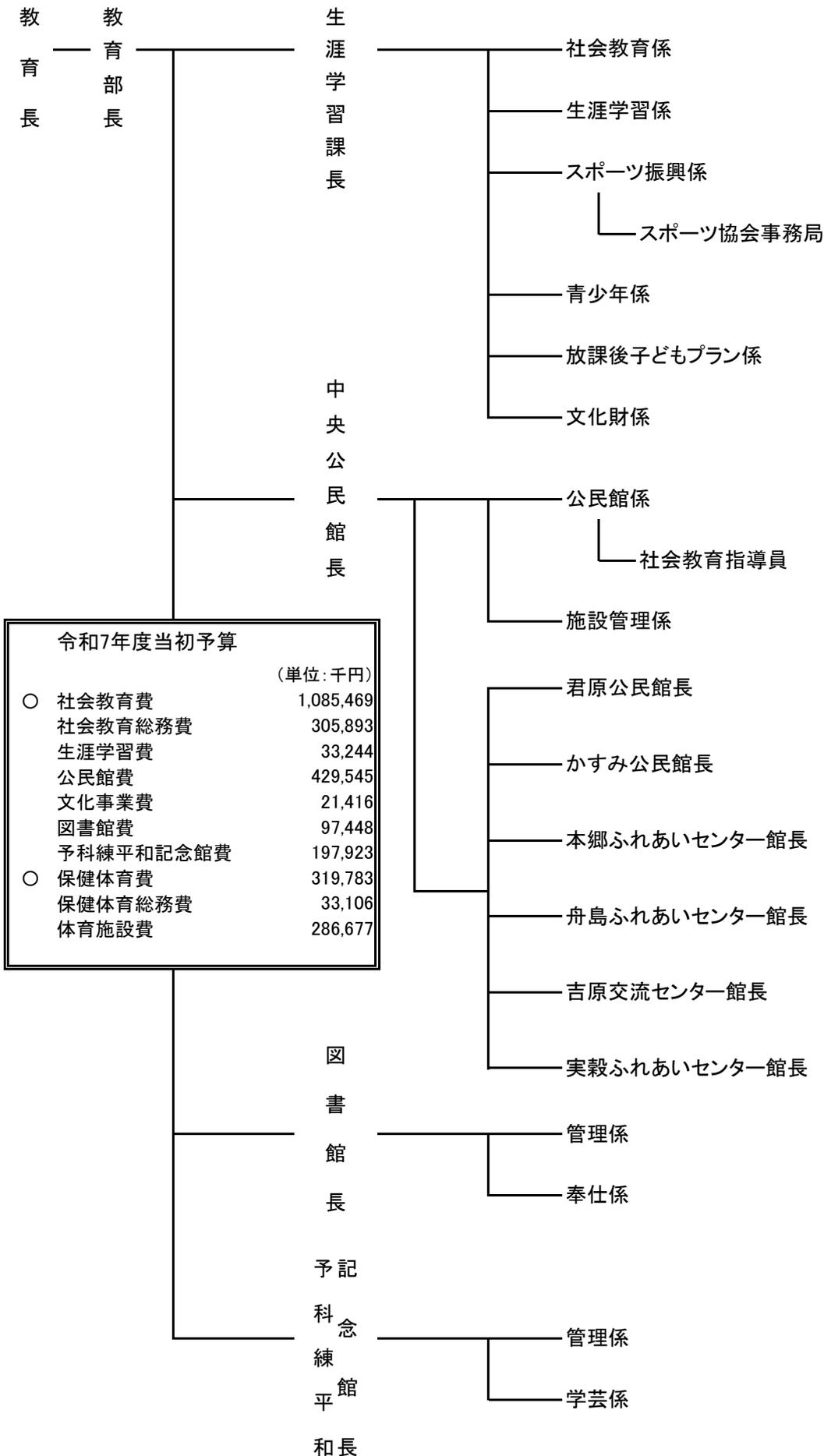
目 次

1	いきいき学びの町AMI宣言文	58
2	阿見町生涯学習推進計画	59
3	生涯学習推進体系	60
4	生涯学習推進の視点	61
5	生涯学習による「学びの町づくり」の進め方	62
6	公民館・コミュニティセンター	63
7	AMIふれあい地区館	65
8	図書館	69
9	予科練平和記念館	71
10	社会体育施設	75
11	文化財	79

◆ 社会教育行政組織と予算

(令和7年4月1日現在)

◎社会教育行政組織(生涯学習課・中央公民館・図書館・予科練平和記念館)



1 いきいき学びの町AMI宣言文

平成2年11月に、いきいき学びの町AMI推進会議の議決を経て、“いきいき学びの町AMI”を宣言しました。これは、本町が生涯学習による町づくりを目指して取り組むことを誓ったものです。

この宣言は、茨城県では最初、関東地方では2番目にあたり、住民・行政にとって、生涯学習による町づくり推進の大きな原動力となっています。

“いきいき学びの町AMI”宣言

阿見町民は、人間らしい生き方を求めて、共に育む心で互いに学び合い、人と人とのふれあいを大切にし、奉仕の心と隣人愛をもって、生きがいのある生活を築くよう励みます。

ここに、「一人いち学習・いちスポーツ・いちボランティア」をモットーに、明るく生きがいのある生活の向上と、郷土阿見町の発展を願い、『いきいき学びの町AMI』を宣言します。

平成2年11月19日

阿見町生涯学習
いきいき学びの町AMI推進会議

2 阿見町生涯学習推進計画

◆計画策定の目的

本町においては、「阿見町生涯学習推進計画後期基本計画(平成 30 年策定)」の計画期間終了に伴い、令和5年に新たに「第2次阿見町生涯学習推進計画」を策定しました。

「第2次阿見町生涯学習推進計画」は、「社会教育法」及び「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」に基づき、生涯学習の振興のための施策の推進体制及び地域における生涯学習に係る機会の整備を図る計画であり、本町において生涯学習を計画的・体系的に推進していくことを目的とします。

この計画の期間は、令和5年度から令和 15 年度までの 11 年間を見据えた「基本構想」と、令和5年度から6年間に取り組むべき施策を示す「前期基本計画」、令和 11 年度から5年間の「後期基本計画」となります。対象範囲は、本教育委員会の所管する施策・事業の他、全庁的な生涯学習の理念に基づき、本町の全施策・事業の中から生涯学習に係る施策・事業とします。

生涯学習課では、この計画の基本理念である「一人いち学習・いちスポーツ・いちボランティア ～ともに学び ともに築く 輝きのあるまち～」を基本として、いきいき学びの町を実現するための6つの基本目標に沿って各種施策・事業を推進します。

また、これまで一貫して取り組んできた「生涯学習によるまちづくり」、「町民主体の生涯学習」を原点としながら、町民・地域・行政がより深く豊かにつながり、一人一人の学びが相乗効果をもって町全体に広がっていくことをイメージし、「伝え合う」、「支え合う」、「高め合う」視点をもって生涯学習を推進していきます。

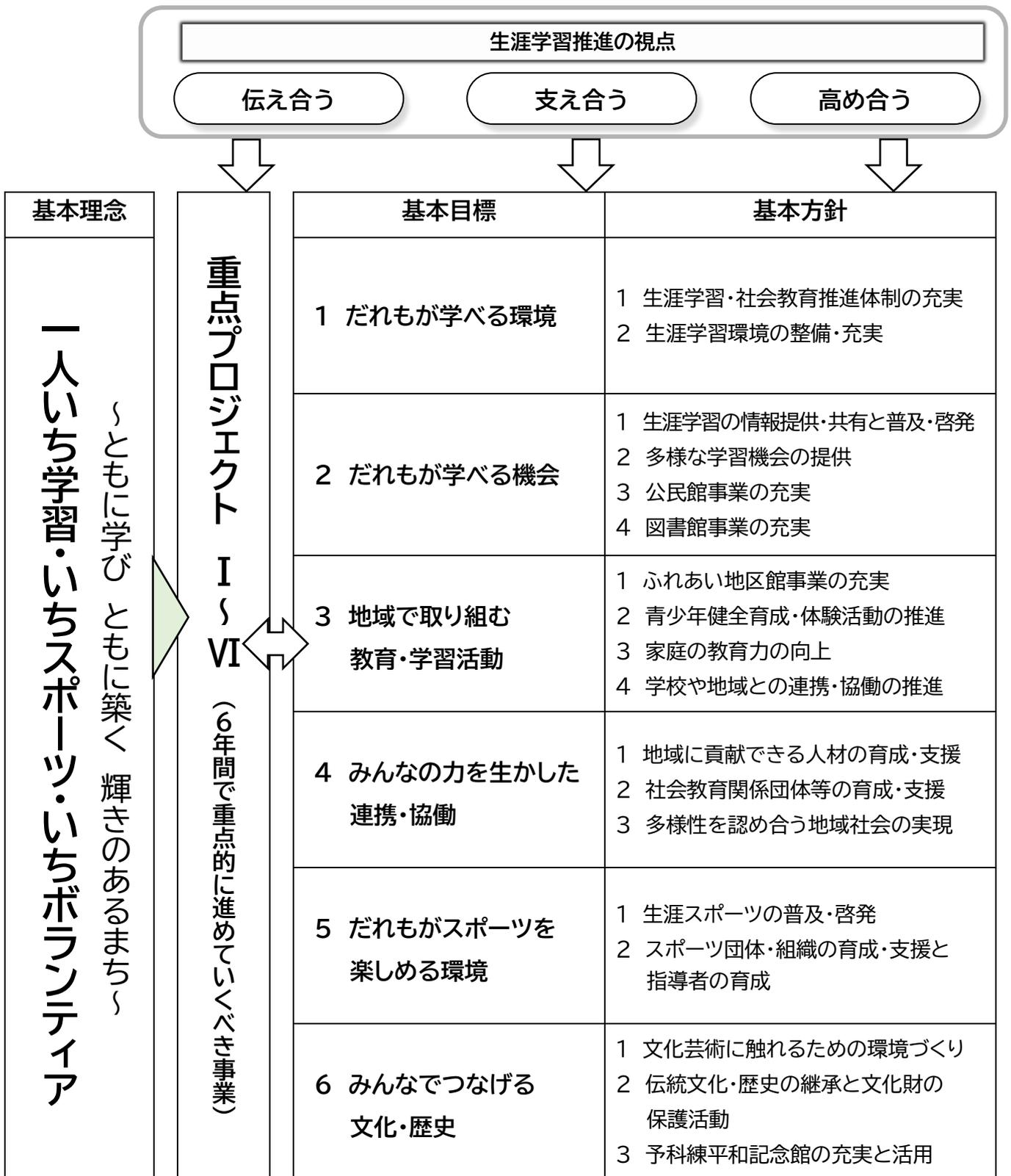
◎6つの基本目標

- ① だれもが学べる環境
- ② だれもが学べる機会
- ③ 地域で取り組む教育・学習活動
- ④ みんなの力を生かした連携・協働
- ⑤ だれもがスポーツを楽しめる環境
- ⑥ みんなでつなげる文化・歴史

◎計画の期間

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
第2次 阿見町 生涯学習 推進計画	基本構想 R 5 ～ R 15 (11 年間)										
	前期基本計画 R 5 ～ R 10 (6 年間)					後期基本計画 R 11 ～ R 15 (5 年間)					

3 生涯学習推進体系



4 生涯学習推進の視点

生涯学習の基本理念にのっとり「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる「いきいき学びの町」の実践と、その学びの成果を生かし、広げ、つなげていくにあたり、阿見町の抱える生涯学習の課題から「伝え合う」、「支え合う」、「高め合う」の3つの視点に立って生涯学習を推進します。

伝え合う

思いや経験・情報などをあらゆる方法・方向で
伝える・伝え合う視点

町は町民の生涯学習活動に必要な情報を町ホームページやパンフレットなどあらゆる媒体で伝えます。また、学習の成果を発表する機会などを提供します。

町民はアンケートやメールなど様々な媒体を通して意見を町へ伝えます。また、自らの学習成果を発表し、活動の経験や学習で得た知識・技術をみんなに伝えます。

思いや情報などを互いに伝え合うことで、阿見町の生涯学習が推進されます。

支え合う

町民一人一人の潜在的な意欲を引き出し、
支える・支え合う視点

町はだれもが参加してみたいくなるようなイベントや講座などを提供するとともに、町民の活動を支援します。

町民はふれあい地区館活動やコミュニティ・スクールの活動に参加するなど、持っている能力や学習で得た知識・技術を地域の生涯学習活動に役立てます。

互いに支え合うことで、阿見町の生涯学習が推進されます。

高め合う

豊かな人生と次代への貢献のため、いくつになっても
自ら求め学習を高める・高め合う視点

町は多様化・高度化する町民ニーズに対応するため、イベントや講座、展示などの充実に努めます。

町民は豊かな人生を送るために学び続けるとともに、知識や経験を高めていき、次の世代へと繋げていきます。

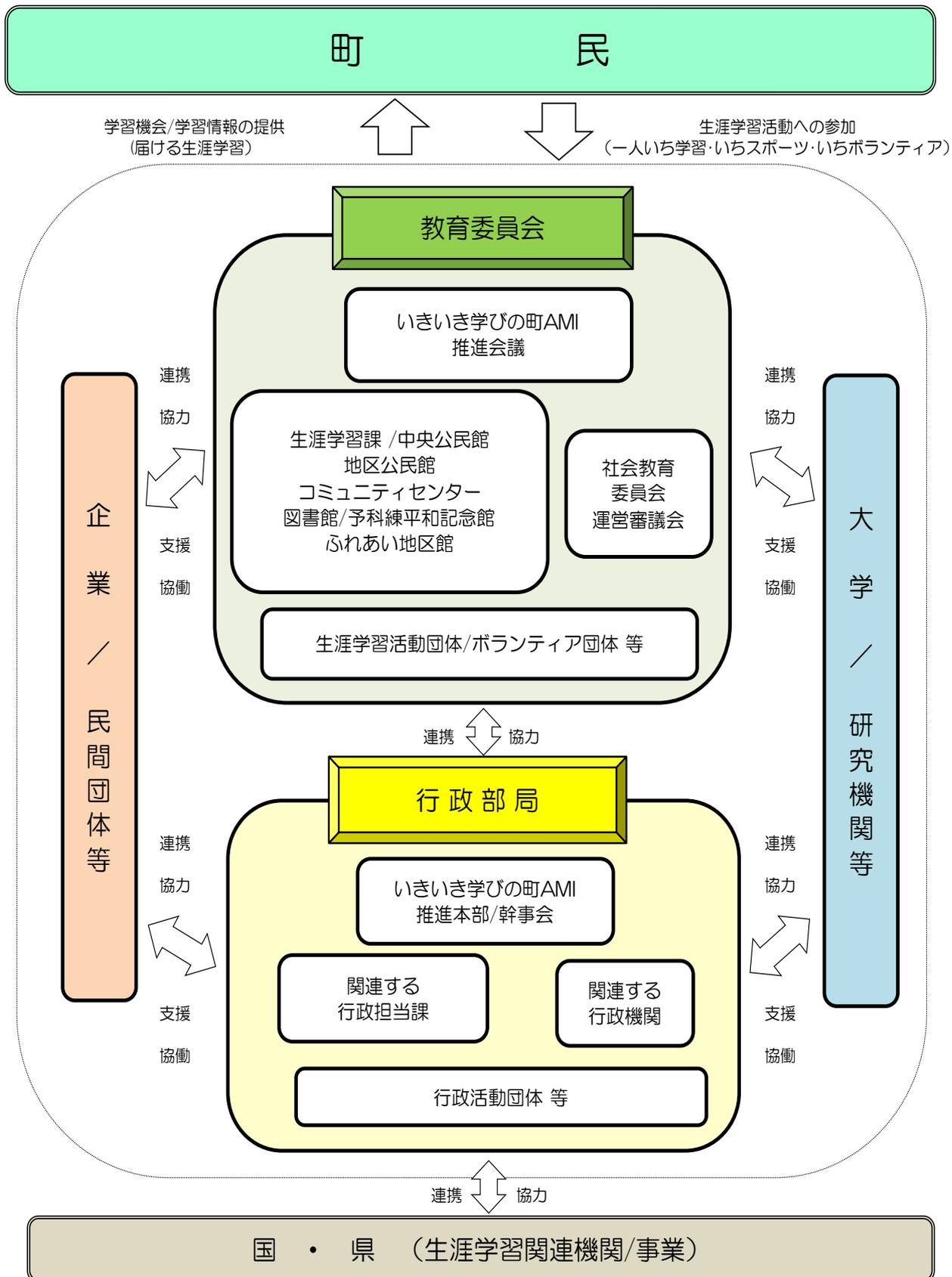
学びをより高め合うことで、阿見町の生涯学習が推進されます。

いつでも どこでも
だれでも 学べる・参加できる

学びの成果を
生かす 広げる
つなげる

5 生涯学習による「学びの町づくり」の進め方

推進組織体制図



6 公民館・コミュニティセンター

◆運営の方針

町民の継続的な生涯学習活動と交流活動を支援するため、中央公民館を中心とした7館体制を維持継続しながら、生涯学習の拠点として公民館・コミュニティセンター(以下、公民館等という。)事業の充実と、地域特性を生かし多様な町民ニーズに対応した講座・教室、フロアコンサート事業、学習成果を生かした展示・作品展の充実を目指します。

また、利用者の利便性向上のため、利用システムの見直しに努めるとともに、利用稼働率の向上を目指し、多様なニーズに対応した柔軟な運営を展開します。

◆役割

- ① 地域住民すべての日常生活向上のための学習や文化活動の場です。
- ② 人々の日常生活から生じる問題解決を助ける場です。
- ③ 他の関係施設・機関及び住民同士を結ぶ役割を担う場です。
- ④ 地域住民の人間関係を豊かにし、仲間づくりを行う場です。

◆具体的施策

- ① 誰もが利用しやすい公民館等にするため、管理規則について共通理解を図るとともに、施設の維持管理及び運営管理について、随時対応していきます。
また、各地域のニーズや実態を把握し、公民館等の持つ機能の有効利用を図るとともに、地域に密着した運営を推進します。
- ② 公民館等を地域の情報の発信源や学びの拠点として有効に利活用し、誰もが生涯を通して学び続けることのできる学習環境の実現を目指します。
また、より利用しやすい施設を目指し、部屋の貸出し・予約、講座の受付について随時改善していくとともに、窓口サービスなどの充実を図っていきます。
- ③ 町民の意向を反映した講座を開催するとともに、相互に学習・発展し合える機会を提供することで仲間づくりを支援し、活動する場を提供していきます。そのため、公民館等において前期・後期の定期講座を引き続き開催するとともに、夏休みなどの機会を活用し、体験・創作などの形式で児童の興味や意欲を高める教室を開催します。
- ④ フロアコンサート実施のため、地域において活動している音楽愛好者の方々に、公民館等のホール及びロビー等を活用した発表の場を提供します。また、公民館等で活動している社会教育関係団体等が、日ごろの練習の成果を発表する場として阿見町音楽祭を開催します。
- ⑤ 公民館等で活動する社会教育関係団体や定期講座の受講生が、日ごろの活動の成果を発表する場として、活動拠点の公民館等を有効に活用し、ロビー等で作品の展示を積極的に促します。



名 称：阿見町立中央公民館
住 所：阿見町若栗1886-1
電 話：029-888-2526
FAX：029-888-0032



名 称：阿見町立君原公民館
住 所：阿見町塙171-2
電 話：029-889-1363
FAX：029-889-1662



名 称：阿見町立かすみ公民館
住 所：阿見町阿見2083-2
電 話：029-888-8111
FAX：029-888-9161



名 称：阿見町立本郷ふれあいセンター
住 所：阿見町本郷1-11-1
電 話：029-830-5100
FAX：029-830-5133



名 称：阿見町立舟島ふれあいセンター
住 所：阿見町南平台1-31-6
電 話：029-840-2761
FAX：029-840-2762



名 称：阿見町立吉原交流センター
住 所：阿見町吉原614
電 話：029-889-0277
FAX：029-889-0021



名 称：阿見町立実穀ふれあいセンター
住 所：阿見町上長3-28
電 話：029-886-5225
FAX：029-889-8005

7 AMIふれあい地区館

「はじめに活動ありき、人、物、金は後からついてくる。前に道なし、後ろに道はできる。」という信念の元で「ふれあい地区館」事業が始まりました。

具体的には、

○地区単位に既存の施設である公会堂や集落センター等を町で借り上げて、それらを地域住民のための学習拠点とした。

○地区ごとに1名の社会教育指導員を配置し、指導・助言にあたる。

○主役は住民であり、住民による運営委員会を構成し、住民の手による運営を基本とした。

平成元年の12月に発案し、4か月の検討期間を経て翌年4月から「ふれあい地区館活動」を発足させました。まさに地域住民の学習機関としての学習、芸術文化、スポーツまでを含め、レクリエーション、伝統文化の継承、新しい文化の創造、生涯学習の情報提供や相談にいたるまで、住民のネットワークの拠点として、地域住民をコミュニティメンバーとして把握していくこととしたのです。

特定の人を対象とした学習機会になりがちな傾向から脱却し、5万人の住民すべてに学習機会を提供し、すそ野の拡大を図ろうとする“集める”から“届ける”生涯学習の実践が始まったのです。

◎ふれあい地区館活動

○ねらい

1)学習機会を増やすこと(学習機会の拡充)

「いつでも、どこでも、だれでも」参加できるような「届ける生涯学習」の体制を確立し、人々の学習参加を促進する

2)生涯学習の一層の推進を図る(生涯学習活動の実践化)

人々が互いに学び、活動し合う場をつくり、生涯学習の実践を促す
(ふれあい共育、生きがいや楽しみづくり、生活の充実等)

3)コミュニティ(地域共同社会)づくりを推進する(地域づくり)

学習成果を生かした社会参加の実現

◎ふれあい地区館の実践方法及び推進組織

(1)実施方法

67行政区の集会施設に出向き活動を展開することを目指す。

また、地区ごとに社会教育指導員を1名ずつ配置する。

令和7年度地区館及び社会教育指導員

NO.	地区	社会教育指導員名	事務局の所在地	電話番号
1	阿見地区	千葉 芳 昭	中央公民館	(888)2526
2	実穀地区	磯 部 和 正	実穀ふれあいセンター	(886)5225
3	吉原地区	関 川 敏 明	吉原交流センター	(889)0277
4	本郷・あさひ地区	関 戸 紀 之	本郷ふれあいセンター	(830)5100
5	君原地区	櫻 井 久 夫	君原公民館	(889)1363
6	舟島地区	千 葉 俊 子	舟島ふれあいセンター	(840)2761
7	阿見第一地区	大 原 稔	かすみ公民館	(888)8111
8	阿見第二地区	福 士 幸 子	かすみ公民館	(888)8111

◎AMIふれあい地区館事業

○ふれあい地区館事業の内容

- ・高齢者を対象にした事業
- ・女性を対象にした事業
- ・成人を対象にした事業
- ・青少年を対象にした事業
- ・世代を超えた事業
- ・地区の特色に応じた事業
- ・単発事業(スポーツ大会等)
- ・同好会活動やサークル活動の支援
- ・共同カリキュラム
- ・社会参加の取組み(より良い地域社会をつくるため)

○具体的な学習内容

① 学習プログラムの立案について

ア) ニーズや実態の把握

- ・地域の人たちの実態を把握する。
(何に興味・関心が高いか。どんな方法で実施すれば、多くの人たちに参加してもらえるか等)
- ・地域の社会状況から考えて、地域の人たちに学習・参加してもらいたいものを把握する。

イ) 課題の設定

- ・地域の課題、地域住民の興味や関心、発展課題等を考え合わせ、「したいこと、やりたいこと」と「○○する必要のあること」を洗い出し、具体的に課題を設定する。

ウ) 学習プログラム立案の観点

- だれのために－(対象)
 - なにをめざして－(ねらい)
 - なにを－(内容)
 - だれ(何)をとおして－(講師等)
 - なにを使って－(教材等)
 - どのように－(展開)
 - 能力として身についたか、役に立ったか、楽しかったか、学習者の満足度の向上、地域がどう変わったか等(評価)
- 上記のa～gを観点に、学習プログラムの企画が必要で実施にあたっては、“いつ、どこで”さらに“どのように知らせるか”等も大きなポイントになる。

◎学習課題と学習プログラム例

ア) 高齢期の学習

- 健康の管理
 - ・食生活についての学習
 - ・体力維持についての学習
 - ・医療知識についての学習
- 体力の維持
 - ・スポーツやレクリエーション活動、トレーニング方法についての学習
- 生きがいづくり
 - ・趣味や教養についての学習
 - ・家庭関係についての学習
- 地域社会づくり
 - ・ボランティア活動への参加
 - ・伝統的な技能等の伝承
- 安全な生活
 - ・交通安全についての学習
 - ・消費生活についての学習
 - ・防犯や防災についての学習

イ) 女性の学習(成人期の学習と重複したものは除く)

- a. 女性の社会参加の促進
 - ・社会の変化についての学習
 - ・地域での女性の役割についての学習
- b. 女性のライフづくり
 - ・余暇の活用についての学習
 - ・地域コミュニティづくり

ウ) 成人期の学習(女性の学習も含む)

- a. 健康・体力づくり
 - ・スポーツやレクリエーション活動、新しいスポーツやレクリエーション活動の学習
 - ・健康づくり教室
 - ・健康管理についての学習
- b. 社会参加の促進
 - ・地域づくりについての参加
 - ・ボランティアについての学習
 - ・地域行事への参加
- c. 自己啓発の学習
 - ・地域の歴史等の学習
 - ・社会の変化についての学習
 - ・地域行事についての学習
- d. 高齢期への準備
 - ・社会参加の学習

エ) 青少年期の学習

- a. 健全な心身の育成と健康体力づくり
 - ・自然に親しむ学習
 - ・スポーツやレクリエーション活動
 - ・科学技術についての学習
 - ・交通安全についての学習
- b. 地域活動の促進
 - ・地域づくりへの参加
 - ・郷土の歴史や文化を理解するための学習
- c. 職業能力の育成
 - ・農林漁業等の後継者の学習
- d. 芸術・文化活動への参加
 - ・芸術芸能等の伝承活動
 - ・芸術や文化の創作活動
 - ・映画会
- e. 国際交流の促進
 - ・外国人との交流

オ) 世代を超えた学習

- a. 健康・体力づくり
 - ・各種スポーツやレクリエーション活動
 - ・健康づくりイベント等の開催
 - ・食生活についての学習
- b. 芸術・文化活動への参加
 - ・ふれあい地区館まつり等のイベントの開催
 - ・活動成果(講座や同好会)の発表会
- c. 地域の生活環境づくり
 - ・緑化や花づくり活動
- d. 賢い消費者づくり
 - ・消費者の意識啓発学習
 - ・安全食品についての学習
- e. 安全意識の啓発
 - ・交通安全教室
 - ・防犯や防災についての学習
- f. 国際交流の推進
 - ・外国文化についての学習(世界の料理や世界の遊び等)
 - ・在町外国人との交流(スポーツやお祭り等)
- g. 三世代交流の推進
 - ・三世代交流輪投げ大会等イベントの開催

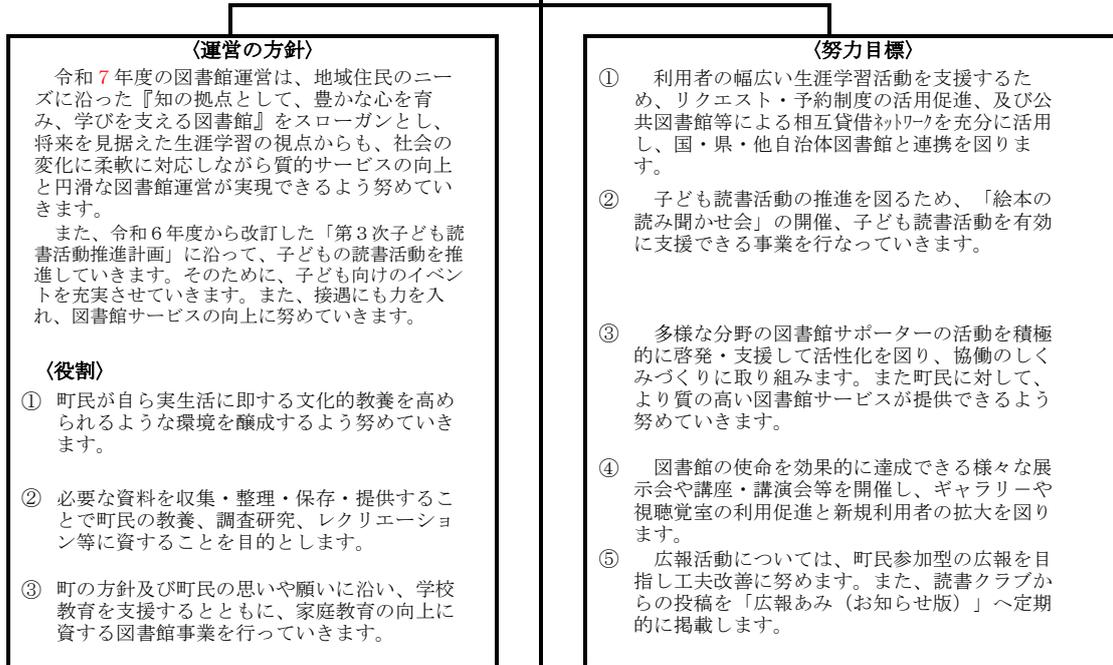
カ) 子どもの学びの場づくりの推進

8 図書館

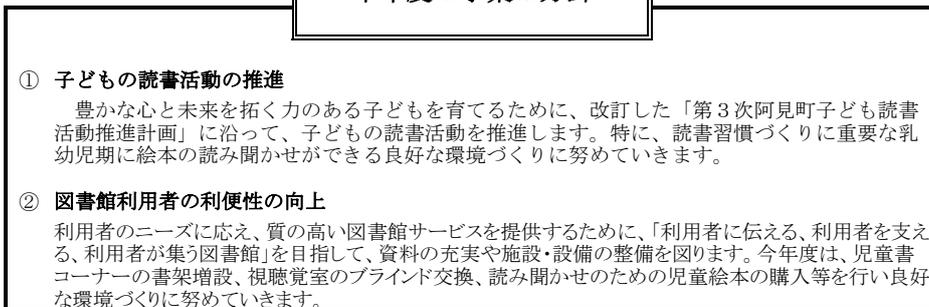


名称：阿見町立図書館
 住所：阿見町若栗1838-24
 TEL：029-887-6331
 FAX：029-887-9268

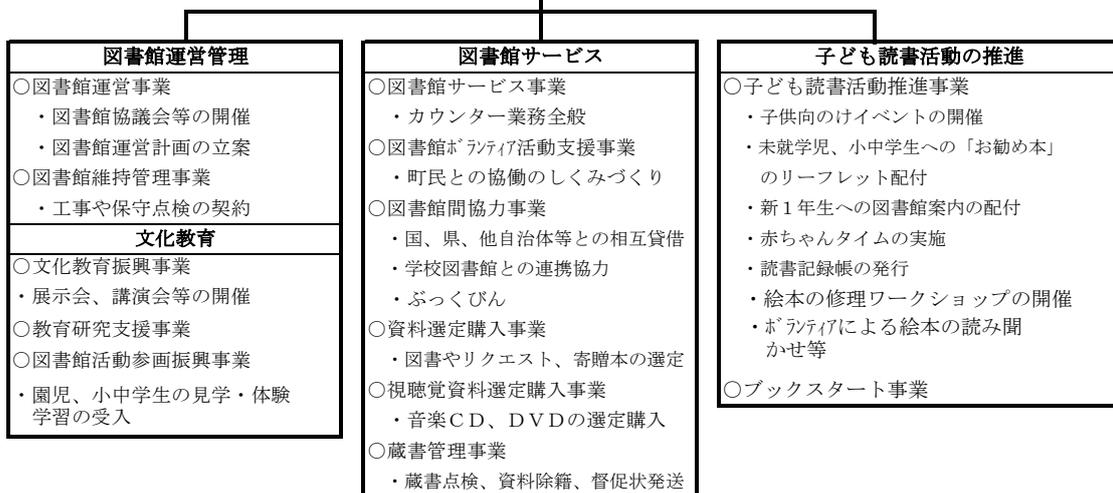
令和7年度 図書館の構想



本年度の事業の方針



事業



令和6年度図書館資料状況

(1) 受入・種類冊数

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
図書受入冊数	4,761	4,742	4,564	4,624	4,514
雑誌受入種類数	104	106	109	108	106
新聞受入種類数	12	12	12	12	12
CD受入数	126	123	96	88	67
DVD受入数	76	74	71	77	77

(2) 図書館蔵書数

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
図書冊数	149,800	151,218	153,636	156,866	156,627
雑誌数	5,451	4,212	4,067	4,755	4,817
CD数	2,224	2,344	2,440	2,530	2,596
DVD数	948	1,016	1,083	1,158	1,230

(3) 図書カード登録者数

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
図書カード登録者数	14,120	14,946	15,790	13,973	8,886
団体図書カード登録数	100	109	101	101	31

※①6年度は「図書システム」の更新(5年毎)により登録者数が減(未更新者が多い)

②6年度より、「団体図書カード登録数」から公共図書館分を除く。

(4) 図書館 分類別蔵書冊数

日本十進分類	一般書	児童書	郷土資料	雑誌・視聴覚資料	合計
0 総記(図書館学・郷土資料等)	2,652	463			3,115
1 哲学(哲学・宗教)	3,423	375			3,798
2 歴史(地理・歴史・紀行)	7,715	1,610			9,325
3 社会科学(政治・経済・教育等)	10,967	2,059			13,026
4 自然科学(数学・化学・医学等)	6,423	3,451			9,874
5 技術・工学(建築・機械・家政学等)	6,966	1,090			8,056
6 産業(農業・水産業・商業等)	3,377	835			4,212
7 芸術・美術(絵画・音楽・体育等)	7,647	1,809			9,456
8 言語(日本語・外国語)	1,544	809			2,353
9 文学(日本文学・外国文学)	32,929	13,269			46,198
B 文庫	8,736				8,736
R 参考	3,141	199			3,340
S 新書	7,224	1,913			9,137
YA ヤングアダルト	2,113	2,235			4,348
ZO 付録	1,074				1,074
ZZ 他	13				13
C 紙芝居		1,162			1,162
E 絵本		15,037			15,037
郷土			4,367		4,367
雑誌				4,817	4,817
CD				2,596	2,596
DVD(貸出用)				1,230	1,230
合計	105,944	46,316	4,367	8,643	165,270

9 予科練平和記念館



名称：阿見町予科練平和記念館

住所：阿見町大字廻戸5番地1

TEL：029-891-3344

FAX：029-888-2470

◆ 運営方針

阿見町の貴重な歴史遺産である予科練、旧海軍航空隊や当町の戦史の記録を展示保存するとともに、次の世代に正確に伝承し命の尊さや平和の大切さを考えていただくための施設として運営していきます。

常設展示では、展示内容をより理解していただくため、展示解説員による展示解説を行います。事業では、来館者からのアンケートやご意見・ご要望を取り入れながら、特別展・企画展等の開催や教育普及事業、イベントなどを開催します。さらに、資料館として引き続き資料収集と予科練や地域の戦史の調査を行います。

これらにより、児童生徒の平和学習や社会科学習はもちろんのこと、広く社会の教育の場として事業を行うことで、歴史への理解を深め、世界の恒久平和の実現に役立てるとともに、地域の教育及び文化の向上を目指します。

また、併せて地域振興の拠点として「予科練平和記念館」を全国に発信し、多くの来館者を受け入れる施設として健全な管理運営を行います。

◆令和6年度事業報告

1 運営事業

(1) 開館日数 291日 (休館日：毎週月曜、年末年始、臨時休館等)

(2) 入館者及び観覧料 ※日平均は四捨五入

年 度	開館日数	入館者 (人)	日平均(人)	観覧料 (円)	備 考
H21	50	18,032	361	7,384,150	
H22	286	76,313	267	29,173,692	
H23	296	42,847	145	15,747,491	
H24	305	52,964	174	19,345,028	
H25	303	60,670	200	21,714,807	
H26	309	58,850	190	19,828,403	
H27	308	61,313	199	20,624,769	
H28	308	52,094	169	16,759,179	
H29	309	51,533	167	16,503,516	
H30	308	51,128	166	16,201,791	
R1	282	44,528	158	13,986,013	
R2	206	19,546	95	6,849,156	
R3	87	9,444	109	2,981,910	
R4	305	35,073	115	12,787,731	
R5	306	46,284	151	16,765,806	
R6	291	56,799	195	20,625,958	
合計	4,259	737,418	173	257,279,400	

(3) 入館者内訳

年度	有 料 観覧者 (人)	有料のうち 教育活動 (人)	無 料 観覧者 (人)	無料のうち町 内小中高生 (人)	無料 エリア (人)	計 (人)
H21	15,568	65	2,072	287	392	18,032
H22	67,563	672	7,116	1,191	1,634	76,313
H23	34,421	475	6,295	663	2,131	42,847
H24	41,299	1,063	8,096	1,101	3,569	52,964
H25	46,607	1,075	9,711	921	4,352	60,670
H26	45,453	394	9,198	888	4,199	58,850
H27	48,477	288	9,273	744	3,563	61,313
H28	39,798	62	8,839	629	3,457	52,094
H29	39,051	282	8,231	631	4,251	51,533
H30	38,366	287	8,645	1,017	4,117	51,128
R1	33,082	90	8,355	935	3,091	44,528

R2	15,703	514	2,846	1,079	997	19,546
R3	6,787	463	2,367	1,022	290	9,444
R4	28,264	493	5,495	937	1,314	35,073
R5	37,107	535	7,190	668	1,987	46,284
R6	45,623	873	9,173	743	1,955	56,799
合計	583,169	7,631	112,902	13,456	41,299	737,418

(4) 月別入館者数 ※小数点2位以下は四捨五入

月	入館者(人)	割合(%)	月	入館者(人)	割合(%)	備考
4	3,147	5.5	11	5,706	10.0	
5	4,715	8.3	12	3,330	5.9	
6	3,869	6.8	1	3,392	6.0	
7	2,455	4.3	2	4,825	8.5	
8	9,019	15.9	3	4,239	7.5	
9	5,814	10.2	合計	56,799	100	
10	6,288	11.1				

(5) 学校等来館状況

上段：学校数 下段：人数

年度	小学校	中学校	高校	大学	計	備考
H21	1	0	2	0	3	
	108	0	40	0	148	
H22	13	16	5	0	34	
	620	890	63	0	1,573	
H23	10	4	5	5	24	
	602	434	110	101	1,247	
H24	14	10	14	7	45	
	772	724	966	134	2,596	
H25	17	7	13	5	42	
	1,002	582	659	163	2,406	
H26	23	10	11	6	50	
	1,153	673	691	152	2,669	
H27	24	8	7	※2	41	※専門学校含
	1,026	452	784	75	2,337	
H28	19	7	7	※4	37	※専門学校含
	1,041	439	607	109	2,196	
H29	21	10	9	※5	45	※専門学校含
	1,120	701	1,127	104	3,052	
H30	26	5	11	※8	50	※専門学校含
	1,207	397	1,266	223	3,093	
R1	※a 21	7	7	※6	41	※専門学校含
	858	462	725	225	2,270	

R2	16	4	4	1	25	
	822	418	905	13	2,158	
R3	8	4	7	0	19	
	510	373	1,259	0	2,142	
R4	23	7	11	5	46	
	1,016	434	962	97	2,509	
R5	28	17	10	2	57	
	1,235	1,258	893	21	3,407	
R6	※a 33	14	※b 11	5	63	※a 霞ヶ浦聾学校含
	1,536	1,553	782	52	3,923	※b 専門学校含
合 計	297	130	134	61	622	
	14,628	9,790	11,839	1,469	37,726	

※団体見学のみ

(6) 書籍販売

年度	阿見と 予科練	予科練も のがたり	続・阿見と 予科練	ガイド ブック	カルタ	海軍航空隊 ものがたり	爺さんの 立ち話	計	販売金額 (円)
H21	101	541	123	0	0			765	826,700
H22	166	757	118	1,082	40			2,163	1,362,300
H23	46	318	42	395	52			853	540,000
H24	49	303	24	478	42			896	504,100
H25	60	430	31	475	36			1,032	621,200
H26	47	346	21	436	20	53		923	674,900
H27	50	344	26	356	27	35		838	618,900
H28	41	155	13	262	15	31	2	519	402,400
H29	27	144	10	233	32	11	5	462	315,800
H30	26	137	8	196	60	17	1	445	338,100
R1	20	150	14	192	56	20	6	458	369,600
R2	19	65	9	248	31	13	8	393	261,800
R3	18	54	9	142	12	7	5	247	176,600
R4	23	177	12	451	34	23	7	727	429,900
R5	29	1	11	426	50	13	2	532	278,400
R6	47	198	19	698	71	31	8	1,072	790,300
合計	769	4,120	490	6,070	578	254	44	12,325	8,511,000

10 社会体育施設

(1) 総合運動公園

《管理棟》

- ・位 置 吉原 52 番地 3
- ・受付時間 午前 9 時～午後 5 時
- ・休業日 毎月第 1 月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始、その他臨時休業日

《野球場》

- ・位 置 若栗 2214 番地 1
- ・施設 野球場 2 面（照明設備あり）
- ・利用時間 4 月 1 日から 10 月 31 日までは午前 5 時～午後 9 時
11 月 1 日から 3 月 31 日までは午前 9 時～午後 9 時
- ・休業日 毎月第 1 月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始、その他臨時休業日
- ・申し込み 使用日の 1 ヶ月前より、インターネット（いばらき公共施設予約システム）若しくは、阿見町総合運動公園管理棟の受付窓口で直接申し込む
- ・使用料 条例の規定通り（減免規定あり）

使用時間	使用料 (円)		
	登録団体	一般	照明
5:00～9:00 (4月～10月)	550	550	820
9:00～21:00 (3月～12月)	770	1,100	(30分)

※料金は、各時間帯 1 単位（1 面につき 2 時間）の料金です

《町民球場》

- ・位 置 吉原 1205 番地 1
- ・施設 野球場 2 面
- ・利用時間 4 月 1 日から 10 月 31 日までは午前 5 時～午後 7 時
11 月 1 日から 3 月 31 日までは午前 9 時～午後 5 時
- ・休業日 毎月第 1 月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始、その他臨時休業日
- ・申し込み 使用日の 1 ヶ月前より、インターネット（いばらき公共施設予約システム）若しくは、阿見町総合運動公園管理棟の受付窓口で直接申し込む
- ・使用料 条例の規定通り（減免規定あり）

使用時間	使用料 (円)	
	登録団体	一般
9:00～17:00 (3月～12月)	1,150	1,650
5:00～9:00 (4月～10月) 17:00～19:00 (4月～10月)	820	820

※料金は、各時間帯 1 単位（1 面につき 2 時間）の料金です

《陸上競技場》

- ・位 置 若栗 2228 番地 1

- ・施設 400メートルトラック（面積22,918㎡）
- ・利用時間 4月1日から10月31日までは午前5時～午後7時
11月1日から3月31日までは午前9時～午後5時
- ・休業日 毎月第1月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始、その他臨時休業日
- ・申し込み 使用日の1ヶ月前より、インターネット（いばらき公共施設予約システム）若しくは、阿見町総合運動公園管理棟の受付窓口で直接申し込む
- ・使用料 条例の規定通り（減免規定あり）

使用時間	使用料(円)			
	個人	登録団体	一般	放送設備
5:00～19:00 (4月～10月) 9:00～17:00 (11月～3月)	50	610	880	270

※料金は、各時間帯1単位（2時間）の料金です

《多目的広場》

- ・位置 若栗2217番地1
- ・施設 全面芝生
- ・利用時間 午前9時～午後5時（1回の使用時間2時間）
- ・休業日 毎月第1月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始、その他臨時休業日
- ・申し込み 使用日の1ヶ月前より、インターネット（いばらき公共施設予約システム）若しくは、阿見町総合運動公園管理棟の受付窓口で直接申し込む
- ・使用料 条例の規定通り（減免規定あり）

使用時間	使用料(円)	
	登録団体	一般
9:00～17:00	770	1,100

※料金は、各時間帯1単位（1面につき2時間）の料金です

《テニスコート・フットサルコート》

- ・位置 吉原52番地3・若栗2228番地10
- ・施設 テニスコート6面半、フットサルコート2面
- ・利用時間 4月1日から10月31日までは午前5時～午後9時
11月1日から3月31日までは午前9時～午後9時
- ・休業日 毎月第1月曜日（祝日にあたる場合はその翌日）、年末年始、その他臨時休業日
- ・申し込み 使用日の1ヶ月前より、インターネット（いばらき公共施設予約システム）若しくは、阿見町総合運動公園管理棟の受付窓口で直接申し込む
- ・使用料 条例の規定通り（減免規定あり）

使用時間	使用料(円)	
	一般	照明
5:00～21:00 (4月～10月) 9:00～21:00 (11月～3月)	1,100	330 (30分)

※料金は、各時間帯1単位（1面につき2時間）の料金です

(2) 町民体育館

《事務室》

- ・位 置 若栗 1886 番地 1 (中央公民館内)
- ・受付時間 午前 9 時～午後 5 時
- ・休 館 日 月曜日 (月曜日が祝日の場合翌日も休館)、祝日、年末年始、臨時休館日

《町民体育館》

- ・位 置 若栗 1849 番地 1
- ・施 設 バスケットボールコート 1 面、ミニバスケットボールコート 2 面、バレーボールコート 2 面、バトミントンコート 3 面 兼用 (床面積 1,236 m²)、空調設備 (冷暖房)
- ・利用時間 午前 9 時～午後 9 時
- ・休 館 日 月曜日 (月曜日が祝日の場合翌日も休館)、祝日、年末年始、臨時休館日
- ・申し込み 使用日の 1 ヶ月前より、インターネット (いばらき公共施設予約システム) 若しくは、事務室 (中央公民館内) の受付窓口で直接申し込む
- ・使用料 条例の規定通り (社会体育団体等は、料金が減免されます)

施設名	使用区分		使用料 (円)					
			午前 9 時～ 午前 11 時	午前 11 時～ 午後 1 時	午後 1 時～ 午後 3 時	午後 3 時～ 午後 5 時	午後 5 時～ 午後 7 時	午後 7 時～ 午後 9 時
主競技場	体育使用	団体	1,370 (950)	1,370 (950)	1,370 (950)	1,370 (950)	2,200 (1,540)	2,200 (1,540)
		個人	820	820	820	820	1,370	1,370
	体育以外使用		1,920 (1,340)	1,920 (1,340)	1,920 (1,340)	1,920 (1,340)	3,300 (2,310)	3,300 (2,310)
	営利目的使用		4,120	4,120	4,120	4,120	6,600	6,600
ミーティングルーム	体育使用	団体	400 (280)	400 (280)	400 (280)	400 (280)	820 (570)	820 (570)
		個人	400	400	400	400	820	820
	体育以外使用		820 (570)	820 (570)	820 (570)	820 (570)	1,650 (1,150)	1,650 (1,150)
	営利目的使用		1,370	1,370	1,370	1,370	2,200	2,200

※主競技場を片面利用した場合は半額 (10 円未満端数切捨て)

※ () は社会体育団体等の料金

※空調設備を利用する場合は、1 時間につき 1,500 円を使用料に加算

【注意事項】

- 町民 (町内に在住及び在勤・在学) 及び稲敷郡内及び稲敷市内居住者以外の使用料は、表示額の 2 倍になります。
- 使用時間が、その区分の全時間に満たない場合でも、その区分の料金を徴収します。
- 町社会教育関係団体 (スポーツ協会・学校体育施設利用登録団体・子ども会等) が使用する場合は、減免の対象となります。

(3) 小中学校の施設

《小中学校の施設開放》

- ・ 目 的 町民のスポーツ、レクリエーションその他社会教育の振興及び推進を図るため
- ・ 開放施設 町内各小・中学校の校庭、体育館・武道場
- ・ 開放の種類 スポーツ・レクリエーション、文化活動
- ・ 開放の日時 下表のとおり

施 設	開 放 す る 日	開 放 す る 時 間	使用料 (円)
校 庭	土曜・日曜・祝日・長期休業日	8:00~18:00	無 料
体育館等	土曜・日曜・祝日	8:00~21:30	体育館…200
	平 日	18:00~21:30	
武道場	土曜・日曜・祝日	8:00~21:30	武道場…100
	平 日	18:00~21:30	

※ 舟島児童体育館・本郷児童体育館は、学校施設の体育館に準ずる

※ 閉校となった旧実穀小及び旧吉原小の開放日・開放時間についてはこの限りではない

・利用の許可

スポーツ開放は、阿見町内に在住、在勤もしくは在学する者が10名以上の団体で、スポーツ傷害保険に加入している団体とし、かつ、当該団体に監督者として成人が含まれる場合に許可するものとする。

- ・ 申し込み 利用希望日の7日以前に「使用許可申請書」を生涯学習課に提出する。

1 1 文化財（令和7年4月1日現在）

(1)町指定文化財一覧

NO.	町指定日	名称	数量	指定区分	所在
1	昭50.5.28	牛久助郷一揆道標	1基	史 跡	阿見4666-738(一区南)
2	昭50.5.28	塙不動尊のタブノキ	1株	天然記念物	塙1258(不動尊境内)
3	昭52.3.22	善照寺山門	1棟	有形文化財	若栗1301
4	昭52.3.22	阿弥神社樹叢		天然記念物	竹来1641
5	昭53.5.25	酒盛り唄		民俗文化財	大形(大形地区)
6	昭53.5.25	宮平貝塚		史 跡	島津3601外
7	昭54.11.24	鹿島神社のやどり木	1株	天然記念物	吉原281-1(神社境内)
8	昭54.11.24	宇都木家の椎	1株	天然記念物	吉原2152
9	昭57.2.22	木造阿弥陀如来坐像	1軀	有形文化財	追原633(蔵福寺)
10	昭57.2.22	木造十一面観音坐像	1軀	有形文化財	塙1258
11	昭57.2.22	木造菩薩立像	1軀	有形文化財	吉原2289(西光寺)
12	昭60.5.28	貞享二年阿見野野論裁許状	1通	有形文化財	若栗1886-1(中央公民館)
13	昭62.7.30	君島ひよっこ		民俗文化財	君島557(代)
14	平13.8.24	木造阿弥陀如来坐像附木造両脇侍立像二軀	1軀	有形文化財	吉原1321-2
15	平22.3.15	霞ヶ浦海軍航空隊有蓋掩体壕	1基	史 跡	阿見5383番2
16	平22.3.15	霞ヶ浦海軍航空隊跡国旗掲揚塔	1基	史 跡	中央3丁目3855番1外(茨城大学農学部)
17	平22.3.15	霞ヶ浦海軍航空隊跡方位盤	1基	史 跡	中央3丁目3855番1外
18	平22.3.15	霞ヶ浦海軍航空隊本部庁舎階段親柱	1対	史 跡	中央3丁目3855番1外
19	令1.8.8	鉄斧形土製品	1点	有形文化財	若栗1886-1
20	令1.8.8	墨書土器	1点	有形文化財	若栗1886-1
21	令2.3.31	塙城跡		史 跡	塙560番2ほか34筆

(2)県指定文化財一覧

NO.	県指定日	名称	数量	指定区分	所在
1	昭52.7.18	曙のグミ	1株	天然記念物	曙151-106
2	平5.1.25	薬師如来坐像	1軀	有形文化財	吉原2289(西光寺)
3	平6.1.26	木造阿弥陀如来立像1軀附両脇侍立像2軀	1軀	有形文化財	追原633(蔵福寺)

(3)記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財(国選択)

NO.	国選択日	名称	数量	指定区分	所在
1	平27.3.2	東関東の盆綱	1件	風俗習慣	町内

(4)周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)数

貝塚16 集落跡135 古墳・塚17 古墳群22 窯跡1 製鉄跡1 寺院跡3 城館跡21 計216件

(5)これまでに発刊された資料等

書籍名	価格	書籍名	価格
阿見町史(全1巻)	3,200円	阿見の昔ばなし	1,500円
阿見町史研究創刊号	800円	阿見と予科練	2,000円
〃 第2号	1,400円	続・阿見と予科練	2,000円
〃 第3号	800円	「海軍航空隊ものがたり」	3,500円
〃 第4号	1,300円	「爺さんの立ち話」	3,500円
〃 第5号	900円	「予科練ものがたり」	1,500円
〃 第6号	頒布終了	「ガイドブック」	200円
〃 第7号	500円	下村千秋の世界	1,000円
〃 第8号	800円	渡邊香墨	1,000円
阿見町の生いたち	500円	西郷遺跡(第2次)発掘調査報告書	
入谷津1号墳発掘調査報告書(埜)	頒布終了	宮脇遺跡(第5次)発掘調査報告書	
割目遺跡発掘調査報告書(大形)	450円	宮脇遺跡(第6次)発掘調査報告書	
道心台遺跡発掘調査報告書(島津)	1,300円	廻戸遺跡(第2次)発掘調査報告書	
下小池東遺跡発掘調査報告書	2,300円		
大室城跡発掘調査報告書	2,200円		
廻戸遺跡(塚)発掘甲査報告書	1,200円		
下小池東12・13号住居址発掘調査報告書	1,350円		
若栗寄井館発掘調査報告書	800円		
下小池城跡発掘調査報告書	1,300円		
桜立遺跡発掘調査報告書	2,000円		
竹来遺跡・入屋敷貝塚発掘調査報告書	4,650円		
内堀遺跡(土塁)発掘調査報告書	1,350円		
宮脇遺跡発掘調査報告書	2,400円		
梶内台遺跡発掘調査報告書	2,700円		
桜立遺跡(第三期)発掘調査報告書	300円		
宮脇遺跡(第二期)発掘調査報告書	2,500円		
旧阿見町の地方改良運動	2,000円		
阿見地域の入会地	500円		
近世農民の生活	2,900円		
明治期の開拓と阿見地域	1,600円		
阿見地域の農村経済更生運動	2,300円		
阿見の民俗	2,650円		
仙台藩領と阿見地域	2,500円		
近世史料(補遺)	2,450円		
牛久助郷一揆	頒布終了		
阿見東遺跡発掘調査報告書	2,500円		
宮脇遺跡(第3次)発掘調査報告書	3,000円		
宮脇遺跡(第4次)発掘調査報告書	2,300円		
島津遺跡(頭田遺跡)発掘調査報告書	6,250円		
岡崎古墳調査報告書	1,500円		
若栗古墳群発掘調査報告書	650円		
島津遺跡(イタチ内古墳群他)	6,250円		
阿見掛馬備蓄銭調査報告	2,000円		
大塚古墳	560円		
島津遺跡(追加分-2)	3,200円		
下原遺跡	2,500円		
阿見町の樹木(H10.6 2,000冊)	3,000円		
島津遺跡(1区~4区)	34,900円		
島津遺跡(5区~6区, 貝塚1区~2区)	13,100円		
竹来遺跡	6,500円		

(6)文化財研究調査会

目的 阿見町における文化財について、その研究保護及び活動につとめ、進んで町民の文化愛護精神と郷土愛を深めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

- ・建造物調査班 建造物を調査し、写真・文書等で記録する。
- ・石造物調査班 建造物(石仏・道標)を調査し、写真・文書等で記録する。
- ・樹木調査班 町内にある大樹等を調査し、写真・文書等で記録する。
- ・古文書調査班 町内の未調査の古文書を調査・解読し、記録する。
- ・民話調査班 町内に纏わる昔話、言い伝え等を調査・収集し、読み聞かせができるように記録する。

VI 教育関係委員

目 次

1	教育長及び教育委員	82
2	歴代教育長	82
3	歴代教育委員長	82
4	歴代教育委員	83
5	教育委員会職員	85
6	阿見町学校長会等の役割分担	87
7	阿見町学校給食センター運営委員会委員	88
8	いきいき学びの町AMI推進会議委員	89
9	阿見町社会教育委員	89
10	阿見町社会教育指導員	89
11	阿見町社会体育指導員	90
12	阿見町文化財保護審議会委員	90
13	阿見町図書館協議会委員	90
14	阿見町予科練平和記念館運営協議会委員	90
15	阿見町予科練歴史調査委員会委員	91
16	阿見町スポーツ推進委員	91
17	阿見町青少年相談員	91
18	阿見町生涯学習専門委員会委員	92
19	阿見町ふるさと文芸検討委員会委員	92
20	阿見町文化芸術振興審議会委員	92
21	阿見町史編さん委員会委員	93
22	阿見町文化協会	93
23	阿見町スポーツ協会	94
24	阿見町スポーツ少年団	95
25	阿見町PTA連絡協議会	96
26	阿見町子ども会育成連合会	98

令和7年5月1日現在

1 教育長及び教育委員

役 職 名	氏 名
教 育 長	宮 崎 智 彦
教育長職務代理者	湯 原 敦 子
委 員	岡 田 治 美
委 員	小 林 和 裕
委 員	安 江 健

2 歴代教育長

氏 名	就任年月日	退任年月日
丹 國	昭和31年10月 1日	昭和39年 9月30日
湯 原 幸 男	昭和39年10月 1日	昭和45年 9月30日
佐 藤 甚	昭和45年10月 1日	昭和56年 9月30日
坂 本 芳	昭和56年10月20日	平成 元年10月11日
渡 邊 義 雄	平成 元年10月12日	平成16年 3月31日
大 崎 治 美	平成16年 4月 6日	平成21年10月11日
青 山 壽々子	平成21年10月13日	平成27年10月10日
菅 谷 道 生	平成27年10月11日	平成30年10月10日
湯 原 正 人	平成30年10月11日	令和 3年10月10日
立 原 秀 一	令和 3年12月23日	令和 6年12月22日
宮 崎 智 彦	令和 6年12月23日	～任期中

3 歴代教育委員長

氏 名	就任年月日	退任年月日
菅 谷 藤一郎	昭和31年10月 1日	昭和32年 9月30日
湯 原 廣	昭和32年10月 1日	昭和33年 9月30日
湯 原 清 喜	昭和33年10月 1日	昭和34年 9月30日
湯 原 四 郎	昭和34年10月 1日	昭和35年 9月30日
飯 野 利三郎	昭和35年10月 1日	昭和36年 9月30日
湯 原 幸 男	昭和36年10月 1日	昭和37年 9月30日
鈴 木 進	昭和37年10月 1日	昭和38年 9月30日
廣 岡 誠 司	昭和38年10月 1日	昭和39年 9月30日
糸 賀 昇	昭和39年10月 1日	昭和40年 9月30日
柳 生 源 一	昭和40年10月 1日	昭和50年 9月30日
松 本 良 隆	昭和50年10月 1日	昭和59年 9月30日
宮 本 俊 男	昭和59年10月 1日	平成 3年 9月30日
柴 原 清	平成 3年10月 1日	平成 8年 9月30日
大 塚 淳	平成 8年10月 1日	平成10年10月 5日
高 橋 二三夫	平成10年10月15日	平成13年10月27日
増 野 周	平成13年10月28日	平成16年10月27日
高 橋 二三夫	平成16年10月28日	平成18年10月 5日
米 倉 政 実	平成18年10月 6日	平成27年10月10日

※平成27年4月1日の法改正に伴い、教育委員長と教育長を一本化した「新教育長」が設置されました。

4 歴代教育委員

氏 名	就任年月日	退任年月日
椎 名 宣 之	昭和31年 3月 3日	昭和31年 9月30日
大 越 馨	昭和31年 3月 3日	昭和31年 9月30日
松 延 長 寿	昭和31年 3月 3日	昭和31年 9月30日
山 崎 昌 治	昭和31年 3月 3日	昭和31年 9月30日
柳 生 一 郎	昭和31年 4月 4日	昭和31年 9月30日
廣 岡 誠 司	昭和31年10月 1日	昭和43年 9月30日
丹 國	昭和31年10月 1日	昭和39年 9月30日
湯 原 清 喜	昭和31年10月 1日	昭和34年 9月30日
湯 原 廣	昭和31年10月 1日	昭和33年 9月30日
菅 谷 藤一郎	昭和31年10月 1日	昭和32年 9月30日
飯 野 利三郎	昭和32年10月 1日	昭和39年 9月30日
湯 原 四 郎	昭和33年10月 1日	昭和35年 9月30日
鈴 木 進	昭和34年10月 1日	昭和38年 9月30日
湯 原 幸 男	昭和35年10月 1日	昭和50年 9月30日
糸 賀 昇	昭和37年10月 1日	昭和44年 9月30日
柳 生 源 一	昭和38年10月 1日	昭和50年 9月30日
日下部 勝 雄	昭和39年10月 1日	昭和43年 9月30日
松 本 良 隆	昭和43年10月 1日	昭和59年 9月30日
小 松 茂 樹	昭和43年10月 1日	昭和51年 9月30日
佐 藤 甚	昭和44年10月 1日	昭和56年 9月30日
岡 部 正 明	昭和45年10月 1日	昭和53年 9月30日
宮 本 俊 男	昭和50年10月 1日	平成 7年 7月15日
青 山 経 男	昭和51年10月 1日	昭和59年 9月30日
湯 原 功	昭和53年10月 1日	昭和61年 9月30日
坂 本 芳	昭和56年10月12日	平成 元年10月11日
柴 原 清	昭和59年10月 1日	平成 8年 9月30日
湯 原 昭	昭和59年10月 1日	平成12年 9月30日
大 塚 淳	昭和61年10月 6日	平成10年10月 5日
渡 邊 義 雄	平成 元年10月12日	平成16年 3月31日
小 倉 と み	平成 7年10月11日	平成10年 9月30日
後 藤 哲 也	平成 8年10月 1日	平成12年 9月30日
渡 邊 成 子	平成 9年10月 1日	平成15年10月10日
高 橋 二三夫	平成10年10月 6日	平成22年10月 5日
増 野 周	平成12年10月 1日	平成20年 9月30日
米 倉 政 実	平成12年10月 1日	平成28年 3月31日
臼 田 多美子	平成15年10月11日	平成19年10月10日
大 崎 治 美	平成16年 4月 6日	平成21年10月11日
青 山 壽々子	平成19年10月11日	平成27年10月10日
酒 井 一 範	平成20年12月10日	平成28年12月11日
福 岡 信 雄	平成21年10月13日	平成25年10月12日
小松澤 孝 子	平成22年12月15日	平成26年12月14日
立 原 順 子	平成26年12月15日	平成30年12月14日

田 邊 勉	平成25年10月13日～令和 3年10月12日
中 島 雅 己	平成28年 6月14日～令和 6年 9月30日
岡 田 治 美	平成29年 6月 6日～任期中
立 原 秀 一	平成30年12月15日～令和 3年12月22日
小 林 和 裕	令和 3年10月13日～任期中
湯 原 敦 子	令和 4年 4月 7日～任期中
安 江 健	令和 6年10月 1日～任期中

※平成27年4月1日の法改正に伴い、教育長は教育委員ではなくなりました。

5 教育委員会職員

役 職 名	氏 名
教 育 長	宮 崎 智 彦
教 育 部 長	糸 賀 昌 士

学校教育課 (TEL 888-0220・FAX 888-3601)

課 長	飯 塚 洋 一
課 長 補 佐	坂 本 敦 彦
総 務 係 長	大 澤 陽 太
学 務 係 長 兼 経 理 係 長	飯 田 美 香
施 設 係 長	戸 ノ 岡 史 朗
学 務 係 主 任	神 長 慶 子
学 務 係 主 任	松 井 凜 太 郎
学 務 係 主 事	青 山 祐 之 介
総 務 係 主 事	岡 野 祥 乃
総 務 係 兼 経 理 係 主 事	菅 澤 蓮
学 務 係 主 事	飯 生 紗 矢
施 設 係 主 事	加 藤 広 大
学 務 係 主 事	廣 瀬 優 太

学校給食センター (TEL 887-1430・FAX 887-1421)

所 長	恵 美 和 彦
所 長 補 佐	立 見 典 子
係 長	吉 田 恭 久
主 任	中 村 弥 生
主 事	大 塚 友 貴
主 事	山 口 光
県 栄 養 教 諭	遠 藤 伽 奈
県 栄 養 教 諭	小 林 智 子

指導室 (TEL 888-0220・FAX 888-3601)

指導室長兼教育相談センター所長	細 田 愛
室 長 補 佐	小 山 智 弘
指 導 主 事	長 田 圭 史
学 校 教 育 相 談 員	齋 藤 信 一
就 学 相 談 員	友 野 和 也
主任学校教育指導員	大 崎 高
学 校 教 育 指 導 員	秋 山 俊 幸
学 校 教 育 指 導 員	佐 藤 猛 彦
学 校 教 育 指 導 員	坂 本 佳 礼
学 校 教 育 指 導 員	栗 原 紀 恵
学 校 教 育 指 導 員	武 藤 博 文
学 校 教 育 指 導 員	大 槻 尚 子
スクールソーシャルワーカー	岡 元 孝 子
スクールソーシャルワーカー	大 林 ひ ろ こ

スクールカウンセラー	高 橋 麻 衣 子
スクールカウンセラー	多 々 良 佑 奈

生涯学習課 (TEL 888-2526・FAX 888-0032)

課 長	大 橋 雅 道
課長補佐兼青少年係長	木 村 勝
課長補佐兼生涯学習係長	久 保 田 義 和
課長補佐兼文化財係長	鯉 沼 智 博
スポーツ振興係長	荻 嶋 武 志
放課後子どもプラン係長	湯 原 英 輔
社会教育係長 (社会教育主事)	宮 本 智 雄
放課後子どもプラン係主任	野 口 眞 子
社会教育係兼青少年係主任 (社会教育主事)	佐 野 智 美
スポーツ振興係主任	青 木 恵
文化財係主事	淺 香 綾 斗
スポーツ振興係主事	林 晃 平
生涯学習係兼青少年係主事	田 中 綾 香
生涯学習係兼文化財係主事	岡 野 翔 大
社会教育係兼青少年係	江 藤 優 衣
社会体育指導員 (スポーツ協会事務局長)	篠 崎 博 明

中央公民館 (TEL 888-2526・FAX 888-0032)

館 長	福 岡 秀 昭
公民館係長兼施設管理係長 (社会教育主事)	吉 田 孝 幸
公民館係兼施設管理係主事	櫻 井 寿 樹
公民館係兼施設管理係主事	吉 田 哲
社会教育指導員	千 葉 芳 昭

君原公民館 (TEL 889-1363・FAX 889-1662)

館 長	野 口 恭 男
社会教育指導員	櫻 井 久 夫

かすみ公民館 (TEL 888-8111・FAX 888-9161)

館 長	煙 川 栄
社会教育指導員	大 原 稔
社会教育指導員	福 士 幸 子

本郷ふれあいセンター (TEL 830-5100・FAX 830-5133)

館 長	小 澤 勝
社会教育指導員	関 戸 紀 之

舟島ふれあいセンター (TEL 840-2761・FAX 840-2762)

館長	平岡真智子
社会教育指導員	千葉俊子

吉原交流センター (TEL 889-0277・FAX 889-0021)

館長	市川唯史
社会教育指導員	関川敏明

実穀ふれあいセンター (TEL 886-5225・FAX 889-8005)

館長	野口寿正
社会教育指導員	磯部和正

図書館 (TEL 887-6331・FAX 887-9268)

館長	村上馨
館長補佐兼管理係長	上田和英
奉仕係長	齋藤奈津美
管理係主任	川又勇毅
奉仕係主事	野上翔

予科練平和記念館 (TEL 891-3344・FAX 888-2470)

教育委員会次長兼予科練平和記念館長	山崎貴之
館長補佐兼学芸係長	山下裕美子
管理係長	豊崎尚也
管理係主事	飯野将史
学芸係主事	海野貴之

6 阿見町学校長会等の役割分担

区	組織名	役職	氏名(学校名)		
町内	校長会	会長	宮崎淳司(阿一小)		
		副会長	菅澤直美(君原小)、浅野剛(あさひ小)		
		庶務幹事	岡野友浩(竹来中)		
		会計幹事	山本隆弘(本郷小)		
		研修担当	小松原聡(阿二小)、中島まり子(舟島小)		
		働き方改革	山下克久(朝日中)		
		教頭会担当	浅野剛(あさひ小)		
	教育研究会	教務主任会担当	菅澤直美(君原小)		
		会長	秋山美穂(阿見小)		
		副会長	山下克久(朝日中)、小林一慶(阿一小)		
		幹事	小松原陽子(阿見小)、飯村文人(阿見小)		
		監事	岡野友浩(竹来中)、久保谷武士(竹来中)		
	中学校体育連盟	評議員	各小中学校長		
		会長	渡邊健司(阿見中)、山下克久(朝日中)		
	いきいき学校保健委員会	会長	山下克久(朝日中)	副会長	小松原聡(阿二小)

	学校運営研修会	会 長	菅澤直美(君原小)	副会長	山本隆弘(本郷小)	
	行事調整委員会	委 員 長	浅野剛(あさひ小)	副委員長	葉梨義幸(あさひ小)	
	学校事務共同 実施協議会	会 長	浅野剛(あさひ小)	委 員	山本隆弘(本郷小)	
	幼保小連絡協議会	校 長	菅澤直美(君原小)	教 頭	富田哲也(君原小)	
	PTA連絡協議会	校 長	渡邊健司(阿見中)	事務局	雑賀 史(阿見中)	
		庶務幹事	小松原陽子(阿見小)	会計幹事	駒沢玲子(阿二小)	
	合同研修会	顧 問	中島まり子(舟島小)			
		副 顧 問	山本隆弘(本郷小)、岡野友浩(竹来中)			
		会 長	安部由邦(本郷小)			
	県・郡	茨城県学校長会	常任評議員	宮崎淳司(阿一小)		
行 財 政			山本隆弘(本郷小)			
調 査 研 究			山本隆弘(本郷小)			
茨城県教育会			菅澤直美(君原小)			
修学旅行委員会			渡邊健司(阿見中)			
稲敷郡校長会		会 長	宮崎淳司(阿一小)			
		副 会 長	浅野 剛(あさひ小)			
		幹事(庶務)	小松原聡(阿二小)			
		評 議 員	菅澤直美(君原小)、秋山美穂(阿見小)			
稲敷郡教育研究会		会 長	秋山美穂(阿見小)			
	評 議 員	各小中学校長				
学校保健会 稲敷支部	評 議 員	山下克久(朝日中)				
牛久警察管内学校 警察連絡協議会	副 会 長	山下克久(朝日中)				

7 阿見町学校給食センター運営委員会委員

No.	氏 名	所 属	備 考
1	細 田 正 幸	町議会民生教育常任委員	
2	小 川 秀 和	町議会民生教委常任委員	
3	戸 井 厚	保健福祉部長	
4	山 本 隆 弘	小学校長代表	
5	山 下 克 久	中学校長代表	
6	竹 内 淑 恵	保育所長代表	
7	小 林 和 裕	町学校医代表	
8	井 上 勝	町学校薬剤師代表	
9	石 田 久美子	県竜ヶ崎保健所長	
10	湯 原 正 記	町PTA代表	
11	高 木 恵利菜	町保育所保護者代表	
12	島 本 直 人	学識経験者	

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

8 いきいき学びの町AMI推進会議委員

No.	氏名	所属	備考
1	長谷川 哲也	社会教育委員代表	
2	長 沼 繁代	民生委員児童委員協議会代表	
3	綾 部 明江	県立医療大学(学識経験者)	
4	佐々木 芳江	町議会議員代表	
5	糸 賀 忠	区長会代表	
6	遠 藤 壽子	男女共同参画代表	
7	滝 本 由香里	子ども会育成連合会代表	
8	大 竹 けい子	ボランティア連絡会代表	
9	高 野 好央	P T A連絡協議会代表	
10	田 上 昌美	社会教育関係団体	
11	向 島 孝志	スポーツ協会代表	
12	秋 山 美穂	学校長会代表	
13	宮 本 和浩	商工会代表	
14	渡 邊 登	文化協会代表	

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

9 阿見町社会教育委員

No.	氏名	所属	備考
1	野 呂 薫	民生委員児童委員協議会代表	議長
2	安 相 賢二	スポーツ推進委員会代表	副議長
3	糸 賀 忠	区長会代表	
4	臼 井 舞子	P T A連絡協議会代表	
5	佐々木 芳江	町議会議員代表	
6	斉 藤 瑛梨	県立医療大学代表	
7	茂 木 恵子	社会教育関係団体	
8	長谷川 哲也	子ども会育成連合会代表	
9	中 島 まり子	学校長会代表	
10	大 山 雪子	男女共同参画代表	

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

10 阿見町社会教育指導員

No.	氏名	担当	備考
1	千 葉 芳昭	阿見地区	
2	磯 部 和正	実穀地区	
3	関 川 敏明	吉原地区	
4	関 戸 紀之	本郷・あさひ地区	
5	櫻 井 久夫	君原地区	
6	千 葉 俊子	舟島地区	
7	大 原 稔	阿見第一地区	
8	福 士 幸子	阿見第二地区	

任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

11 阿見町社会体育指導員

No.	氏名	役職	備考
1	篠崎博明	スポーツ協会事務局長	

任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

12 阿見町文化財保護審議会委員

No.	氏名	備考
1	山根峯治	会長
2	落合照子	副会長
3	川村満博	
4	白田正子	
5	近江礼子	
6	西山洋	
7	永井博	
8	松井敏也	
9	瀬尾栄	

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

13 阿見町図書館協議会委員

No.	氏名	所属	備考
1	安相賢二	図書館ボランティア代表	
2	浅野剛	阿見町校長会代表	
3	江幡綾子	学校町国語教育研究部長	
4	笹田邦恵	P T A連絡協議会代表	
5	鴻巣恵	学校図書館司書	
6	二宮真弓	図書館活動団体「おはなしポケットの会」代表	
7	磯原友美	地域子育て支援センター所長	
8	中川美香	学校読み聞かせボランティア	
9	武井浩	阿見町議会議員代表	
10	黒澤泰男	茨城大学図書館農学部分館係長	

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

14 阿見町予科練平和記念館運営協議会委員

No.	氏名	役職及び所属	備考
1	香川眞	流通経済大学名誉教授	委員長
2	永井博	県立歴史館 特任研究員	副委員長
3	海野隆	阿見町議会議員	
4	平野陽一郎	公益財団法人海原会事務局長	
5	尾崎勝男	阿見町区長会副会長	
6	齋藤光子	阿見町商工会女性部部長	
7	山下桂子	阿見町交通安全母の会会長	
8	岡野友浩	阿見町学校長会代表	
9	大橋良一	予科練歴史調査委員	
10	安部次男	阿見町観光ガイド会長	

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

15 阿見町予科練歴史調査委員会委員

No.	氏名	備考
1	中川 龍	
2	大橋 良一	
3	須永康 男	
4	大貫 総	

任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

16 阿見町スポーツ推進委員

No.	氏名	備考
1	浅野 治	
2	安相 賢二	副委員長
3	井上 里美	監査
4	遠藤 潔	
5	大高 政和	広報部長
6	鹿島 真人	
7	金坂 和美	
8	川村 隆昭	副委員長
9	窪谷 弘	
10	窪谷 美咲	
11	櫻井 繁樹	
12	佐藤 君江	会計
13	菅谷 浩一	
14	長南 栄一	顧問
15	中島 雅己	企画部長
16	早川 光明	
17	平山 義明	委員長
18	村上 光	
19	山崎 聡	

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

17 阿見町青少年相談員

中学区名	小学区名	氏名	備考
阿見中	阿見小	酒井 美智子	ブロック長
		高野 透	
		本間 保	
		川井 聡	監事
	第二小	田村 由美子	副会長
朝日中	あさひ小	小林 実	ブロック長
		袴田 英也	
		若泉 徳士	会長
		南雲 せつ子	監事
		木村 美由紀	
		吉田 由美	
	本郷小	後藤 祐一	
		福岡 祐一	

竹来中	第一小	柳 澤 京 子	
		小 倉 広 子	
	君原小	松 本 則 男	副会長
		東 みさ子	ブロック長
		中 山 修 一	
	舟島小	清 水 幸 路	
		高 野 好 央	
		高 橋 亜矢子	

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

18 阿見町生涯学習専門委員会委員

No.	氏 名	委員会名	備 考
1	田 村 敏 衛	読書推進委員会	
2	柴 山 光	読書推進委員会	
3	岡 田 章	読書推進委員会	
4	生 雲 恭 子	読書推進委員会	

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

19 阿見町ふるさと文芸検討委員会委員

No.	氏 名	備 考
1	渡 邊 登	会長
2	長 沼 繁 代	副会長
3	細 田 正 幸	
4	中 島 まり子	
5	宮 本 経 之	
6	長 塚 和 子	
7	豊 島 光 子	
8	本 橋 眞知子	
9	栗 原 紀 恵	
10	柴 山 光	

任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

20 阿見町文化芸術振興審議会委員

No.	氏 名	備 考
1	浅 野 栄 子	副会長
2	井 坂 斗絲幸	
3	石 井 早 苗	
4	長 沼 繁 代	会長
5	落 合 照 子	
6	野 口 テル子	
7	福 園 久 子	
8	増 田 智 美	
9	渡 辺 和 昭	

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

21 阿見町史編さん委員会委員

No.	氏名	備考
1	服部隆全	委員長
2	宮崎智彦	副委員長
3	白田正子	
4	川村満博	
5	山縣創明	
6	永井博	副委員長
7	伊藤純郎	
8	近江礼子	
9	小倉貴一	
10	黒岩孝	
11	糸賀昌士	

任期：令和5年8月1日～町史刊行まで

22 阿見町文化協会

No	団体名等	氏名	所属部門
	会長	千葉繁	町長
	副会長	宮崎智彦	教育長
	副会長兼代表理事	渡邊登	文学
	代表理事	福田かつ子	舞踊
	代表理事	土田仲伸	芸能
	代表理事	井坂斗絲幸	音楽
	代表理事	渡辺和昭	美術
	代表理事	鈴木恵子	古典芸能
	代表理事	田中光夫	生活文化
	監事	朝日典子	美術（書道）
	監事	齊藤有司	芸能（詩吟）
1	道松会	伊藤まつい	舞踊（舞踊）
2	欽萃会	平岡欽子	舞踊（舞踊）
3	扇美会	石塚美津子	舞踊（日本舞踊）
4	佐保苑会	倉重清子	舞踊（日本舞踊）
5	秀麗会	林田キヨミ	舞踊（舞踊）
6	花あわせ	福田かつ子	舞踊（日本舞踊）
7	若澄会	石井スミ子	舞踊（舞踊）
8	華扇会	永岡幸枝	舞踊（日本舞踊）
9	邦の会	花柳駒久子	舞踊（日本舞踊）
10	曙面舞会	倉重一夫	芸能（演舞）
11	阿見かっぱれ道場	内田亮	芸能（かっぱれ）
12	阿見詩吟会	土田仲伸	芸能（詩吟）
13	ピカケ	内田敏江	芸能（フラダンス）
14	アロハ ココナッツ	大津眞理子	芸能（フラダンス）

15	プメハナ	永田 廣子	芸能 (フラダンス)
16	マヒナ	山崎 文枝	芸能 (フラダンス)
17	ククイ	村山 美加子	芸能 (フラダンス)
18	阿見吟詠談風会	齊藤 有司	芸能 (詩吟)
19	桐の会	松林 仁	芸能 (詩吟)
20	喜幸会阿見支部	井坂 斗絲幸	音楽 (三味線)
21	コールフリーレット	渡辺 せい子	音楽 (コーラス)
22	阿見陶美会	原 君江	美術 (陶芸)
23	阿見陶友会	小川 宏	美術 (陶芸)
24	さくら陶炎会	有留 建二	美術 (陶芸)
25	獅子頭彫刻研究会	山本 俊洋	美術 (獅子頭彫刻)
26	つくばね会	渡辺 和昭	美術 (絵手紙)
27	舟島鵬墨会	中西 和紀	美術 (水墨画)
28	墨友	朝日 典子	美術 (書道)
29	みずぐき	安西 律子	美術 (書道)
30	阿見裂き織り同好会	横田 てる子	美術 (裂き織)
31	阿見町君島芸能保存会	大竹 利一	古典芸能 (ひょっとこ)
32	表千家茶道同好会	鈴木 恵子	古典芸能 (茶道)
33	カトレアA	桜井 一恵	古典芸能 (生花)
34	カトレアB	西村 和子	古典芸能 (生花)
35	個人会員	渡邊 登	文学 (短歌)
36	阿見俳句会	清藤 賢一	文学 (俳句)
37	阿見囲碁同好会	田中 光夫	生活文化 (囲碁)
38	阿見棋友会	奥田 久夫	生活文化 (将棋)
39	塙城跡保存会	田崎 力男	生活文化 (郷土史研究)

23 阿見町スポーツ協会

役職名	氏名	所属
会長	千葉 繁	阿見町町長
副会長	宮崎 智彦	阿見町教育長
副会長・常任理事	向島 孝志	スポーツ少年団本部長
常任理事	平山 義明	スポーツ推進委員会委員長
常任理事	大橋 雅道	生涯学習課長
常任理事	稲田 克彦	野球部長
常任理事	瀬尾 文子	バレーボール部長
常任理事	横田 芳明	ソフトボール部長
常任理事	岡島 俊一	グラウンドゴルフ部長
常任理事	加藤 滋	テニス部長
常任理事	村山 英希	卓球部長
理事	野口 雅弘	阿見町議会議長
理事	仲川 紀男	阿見町消防団長
理事	山口 道子	阿見町区長会長
理事	渡邊 健司	阿見町中学校体育連盟会長 (阿見中学校長)

理事	糸賀昌士	阿見町教育委員会 教育部長
理事	木村真維	陸上部長
理事	柴田勝	柔道部長
理事	相澤剛	剣道部長
理事	廣田寛治	弓道部長
理事	横瀬義貴	サッカー部長
理事	柴山真寿美	水泳部長
理事	平岡一浩	バドミントン部長
理事	渡部儀勝	ゴルフ部長
理事	福田隆俊	合気道部長
理事	野木和江	バウンドテニス部長
理事	鈴木義和	スポーツ吹矢部長
理事	長南栄一	スポーツ推進委員
理事	川村隆昭	スポーツ推進委員
理事	櫻井繁樹	スポーツ推進委員
理事	安相賢二	スポーツ推進委員
理事	中島雅己	スポーツ推進委員
理事	村上光	スポーツ推進委員
理事	大高政和	スポーツ推進委員
理事	菅谷浩一	スポーツ推進委員
理事	山崎聡	スポーツ推進委員
理事	井上里美	スポーツ推進委員
理事	鹿島真人	スポーツ推進委員
理事	窪谷美咲	スポーツ推進委員
理事	早川光明	スポーツ推進委員
理事	浅野治	スポーツ推進委員
理事	窪谷弘	スポーツ推進委員
理事	金坂和美	スポーツ推進委員
理事	遠藤潔	スポーツ推進委員
監事	只野誠喜	ダンススポーツ部長
監事	佐藤君江	スポーツ推進委員
幹事	篠崎博明	事務局長
幹事	幕内幸恵	事務局

任期：令和7年4月1日～令和9年3月31日

24 阿見町スポーツ少年団

職名	氏名	所属
本部長	向島孝志	舟島フレンドシッパーズ SC
副本部長	板宮政男	本郷イーグルス
理事	喜多村敏	阿見ヤンキース
理事	皆木義時	阿見ヤンキース
理事	清水正夫	本郷イーグルス
理事	宮崎雅則	桜香方正会
理事	松本茂男	桜香方正会

理事	永岡孝雄	舟島剣道クラブ
理事	栗山雄一	舟島剣道クラブ
理事	森英紀	阿見ミニバスケットボール
理事	小林香織	阿見ミニバスケットボール
理事	深田崇	朝日ミニベスパ
理事	佐々木美奈	朝日ミニベスパ
理事	長谷川綾香	ASAHI ミニバスケットボール
理事	新村琉莉	ASAHI ミニバスケットボール
理事	柴沼一浩	阿見ジュニアバドミントン
理事	山崎聡	君原バドミントン
理事	青山崇	君原バドミントン
理事	植木淳子	吉原 BSS
理事	山中芳子	吉原 BSS/阿見ジュニアバドミントン
理事	廣瀬一也	舟島バドミントン
理事	浅井恭子	阿見西バドミントン
理事	青野瑞樹	阿見西バドミントン
理事	山本敏弘	ナイスショットバドミントン
理事	倉持祐希	ナイスショットバドミントン
理事	貝塚俊一	朝日ヴィントサッカー
理事	仲山悠	朝日ヴィントサッカー
理事	松浦勇	舟島フレンドシッパーズ SC
理事	大枝ゆう子	舟島フレンドシッパーズ SC
理事	登坂亮二	阿見ファントゥスポーツクラブ
理事	梶原隆史	阿見ファントゥスポーツクラブ
理事	木村真維	アスレッククラブ
理事	久保木正則	あみ桜輝バレーボール
理事	青山崇	あみ桜輝バレーボール
監事	楠朱実	アスレッククラブ
監事	荒川功	舟島バドミントン
幹事	篠崎博明	スポーツ協会事務局
幹事	幕内幸恵	スポーツ協会事務局

任期：令和6年4月1日～令和8年3月31日

25 阿見町PTA連絡協議会役員

職名	氏名	所属
会長	高倉正樹	阿見中学校
副会長	高野好央	竹来中学校
理事・研修委員長	松田達也	舟島小学校
理事・研修委員	小田島秀二	朝日中学校
理事・研修委員	湯原正記	阿見第二小学校
理事・運営委員長	臼井舞子	阿見小学校
理事・運営委員	坂本良美	阿見第一小学校
理事・運営委員	石田貴也	あさひ小学校
理事・子育てネットワーク委員長	鈴木幸枝	あさひ小学校
監事	吉田貴洋	本郷小学校

監 事	笹 田 邦 恵	君 原 小 学 校
幹事 (事務局長)	雑 賀 史	阿 見 中 学 校
幹事 (会 計)	駒 沢 玲 子	阿 見 第 二 小 学 校
幹事 (庶 務)	小 松 原 陽 子	阿 見 小 学 校

任期：令和7年4月1日～令和8年3月31日

令和7年度阿見町子ども会育成連合会組織図

全国子ども会育成連合会

茨城県子ども会育成連合会

阿見町教育委員会
[生涯学習課]

会長
倉田 雅之

書記[子ども会事務局]
生涯学習課 青少年係
TEL 888-2526 FAX 888-0032

副会長
山口 道子

副会長
高野 好央

副会長
長谷川 哲也

監事	吉田 利雄
	須藤 隆之

会計	木村 美由紀
	吉田 由美

阿見中学校区
阿見小学校地区役員
○ 山口 道子 ◎ 湯原 忠之 村山 早苗 ☆ 塚原 いつ子 小松 英子 ☆ 佐藤 英子 木村 浩樹 新 山口 菜穂子 ☆ 大高 悦子
阿見第二小学校地区役員
◎ 根本 哲也 大川 淳一 堀井 禅道
吉原地区役員
◎ 高野 透 齊田 信明 岡田 利之 小倉 由佳 新 橋本 英晃

竹来中学校区
君原小学校地区役員
◎ 山崎 友美子 石川 久美子 中山 修一 吉田 香織 瀬尾 和俊 ☆ 山崎 翔子
舟島小学校地区役員
○ 倉田 雅之 ◎ 清水 幸路 ☆ ○ 高野 好央 糸賀 道夫 高橋 亜矢子
阿見第一小学校地区役員
◎ 古井 智美 村野 定雄 福井 晃 米丸 友子 ☆ 柳澤 京子 本間 雅晴 小林 一則 金井 智宏 小倉 広子 秋山 愛香

朝日中学校区
本郷・あさひ小学校地区役員
○ 長谷川 哲也 ◎ 滝本由香里 ☆ 渋澤 稔 ☆ 木村 美由紀 ☆ 吉田 由美 小田島 秀二 嵯峨 光二 飯島 将光 新 石田 貴也
実穀地区役員
◎ 後藤 祐一 浅野 周一 大久保 高 栗田 敏昌 菅谷 隆宏 清水 直美 吉田 浩 新 福岡 亜紀

◎は 小学校地区長
○は 本部役員
☆は 広報委員
新は 新役員

単位子ども会
育成会数:52

令和7年度 阿見町の教育

令和7年6月発行

編集・発行

阿見町教育委員会

〒300-0333 茨城県稲敷郡阿見町若栗 1886 番地 1

学校教育課・指導室 TEL 029 (888) 0220

FAX 029 (888) 3601

生涯学習課

TEL 029 (888) 2526

中央公民館

君原公民館

TEL 029 (889) 1363

かすみ公民館

TEL 029 (888) 8111

図書館

TEL 029 (887) 6331

学校給食センター

TEL 029 (887) 1430

教育相談センター

TEL 029 (888) 1225

本郷ふれあいセンター

TEL 029 (830) 5100

舟島ふれあいセンター

TEL 029 (840) 2761

吉原交流センター

TEL 029 (889) 0277

実穀ふれあいセンター

TEL 029 (886) 5225

予科練平和記念館

TEL 029 (891) 3344